資料4

県都『あきた』成長プラン

第12次秋田市総合計画

概要版

本市の総合的かつ計画的な行政経営をはかるため、平成23年度から27年度までの5年間を計画期間とし、その期間を通した目標と実現のための基本的な考え方をまとめました。

本市の目指すべき姿として基本理念を定め、市民と市が協力しあいながら、その実現を目指していきます。

基本理念

ともにつくり　ともに生きる　人・まち・くらし

年齢や性別を問わず、
自分らしくいきいきと輝いている

「人」

にぎわいにあふれ、
多彩な魅力に満ちている

「まち」

四季の移り変わりのように
彩り豊かで、心うるおう

「くらし」

県都『あきた』成長プランの構成

成長戦略

基本構想

基本理念

将来都市像(章)

節・項

基本施策

施策

取組・事業

推進計画

計画推進にあたっての視点

平成23年3月

将来都市像

基本理念のもとに目指す大局的な方向性として、5つの将来都市像を設定しています。

基本構想では、将来都市像ごとの各分野における【現状分析】と、おおむね10年後を見据えた【目指すべき将来】、それに向けた計画期間内における【対応】と、項目をわけて記載し、わかりやすい計画としています。

1章 豊かで活力に満ちたまち

施策分野

工業、企業誘致、商業・サービス業、中小企業経営、雇用、貿易、農林水産業、観光、まちのにぎわい

目指すまちの姿

産業振興により地域経済を活性化し、雇用とにぎわいを創出することにより都市としての求心力を高め、多様な交流や連携を構築し、県都として周辺圏域の発展を牽引する「豊かで活力に満ちたまち」を目指します。

2章 緑あふれる環境を備えた快適なまち

施策分野

環境保全、循環型社会形成、地球温暖化対策、市街地形成、景観形成と都市緑化、住宅、水道、生活排水処理、道路整備、交通機能、情報通信、環境

目指すまちの姿

利便性の高い都市基盤を整備しながら、本市の住みよい環境を保全し次世代へ継承することで、いつの時代においても、「緑あふれる環境を備えた快適なまち」を目指します。

ともにつくり
人・まち

3章 健康
暮ら

施策分野

災害時の危機管
害に強いまち、防犯
費・生活衛生環境、
応、救急体制、社会

目指すまちの姿

生活の危険を回避
し、市民が健やかな
て安全安心に暮らせ

5つの将来都市像ごとに
取組を体系化し、しっかりと
市民生活を支えます。

ともに生きる・くらし

5章 人と文化をはぐくむ誇れるまち

施策分野

郷土の歴史と文化、文化・芸術活動、生涯スポーツ、国際交流、社会教育、学校教育、高等教育

目指すまちの姿

歴史や文化をいかした魅力あるまちづくりを進めるとともに、生涯にわたり学習・文化・スポーツ活動に取り組める環境の中で、誰もが目標に向かって成長し、希望に満ちた生活をおくることができる、「人と文化をはぐくむ誇れるまち」を目指します。

4章 家族と地域が支えあう元気なまち

施策分野

家族と地域、男女共生、地域福祉、児童福祉、子育て支援、障がい者福祉、高齢者福祉、地域の自治活動、市民活動

目指すまちの姿

家族・地域・人の絆のもと、すべての市民が主人公として充実した生涯をおくることができる「家族と地域が支えあう元気なまち」を目指します。

安全安心にるまち

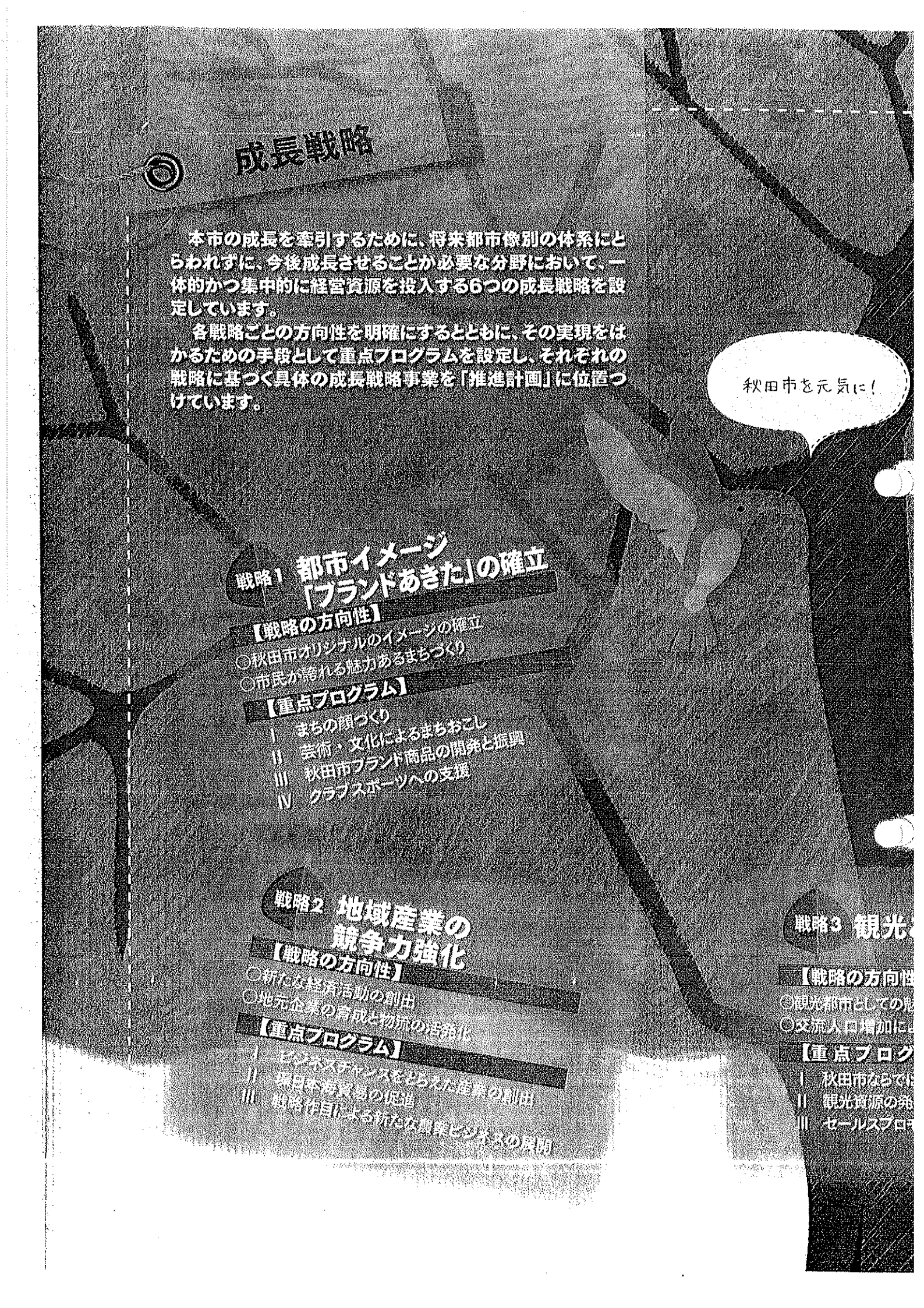
災害に強いまちづくり、策、交通安全対策、消健・医療、火災への対障制度

きる十分な体制を整備身を保ちながら、「健康まち」を目指します。

成長戦略

本市の成長を牽引するために、将来都市像別の体系にとらわれずに、今後成長させることが必要な分野において、一体的かつ集中的に経営資源を投入する6つの成長戦略を設定しています。

各戦略ごとの方向性を明確にするとともに、その実現をはかるための手段として重点プログラムを設定し、それぞれの戦略に基づく具体の成長戦略事業を「推進計画」に位置づけています。



戦略1 都市イメージ「ブランドあきた」の確立

【戦略の方向性】

○秋田市オリジナルのイメージの確立
○市民が誇れる魅力あるまちづくり

【重点プログラム】

I まちの顔づくり
II 芸術・文化によるまちおこし
III 秋田市ブランド商品の開発と振興
IV クラブスポーツへの支援

戦略2 地域産業の競争力強化

【戦略の方向性】

○新たな経済活動の創出
○地元企業の育成と物流の活発化

【重点プログラム】

I ビジネスチャンスをとらえた産業の創出
II 環日本海貿易の促進
III 戦略作目による新たな農業ビジネスの展開

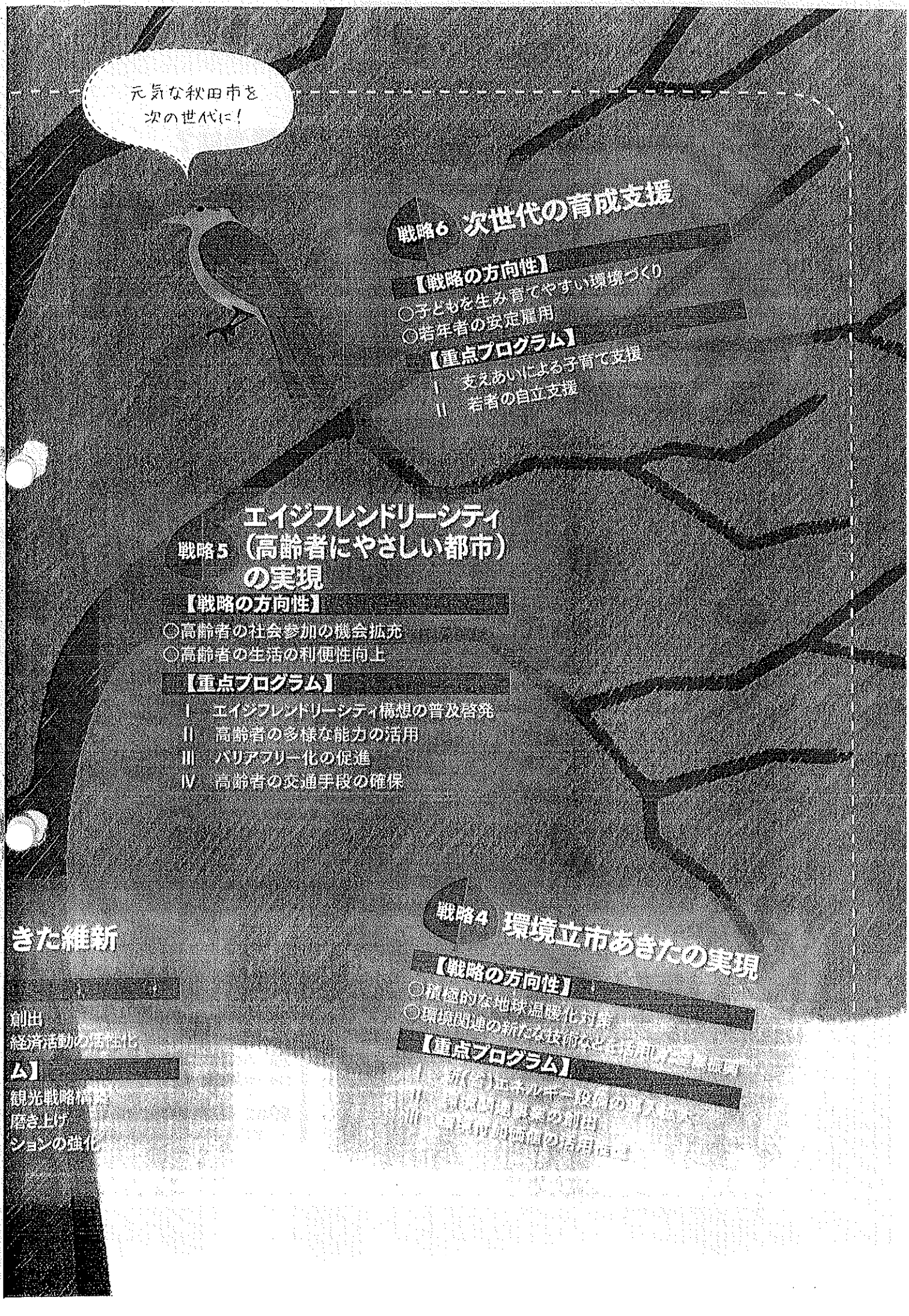
戦略3 観光

【戦略の方向性】

○観光都市としての
○交流人口増加に

【重点プログ

I 秋田市ならで
II 観光資源の
III セールスプロ



戦略6 次世代の育成支援

【戦略の方向性】

○子どもを生み育てやすい環境づくり
○若年者の安定雇用

【重点プログラム】

I　支えあいによる子育て支援
II　若者の自立支援

戦略5 エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現

【戦略の方向性】

○高齢者の社会参加の機会拡充
○高齢者の生活の利便性向上

【重点プログラム】

I　エイジフレンドリーシティ構想の普及啓発
II　高齢者の多様な能力の活用
III　バリアフリー化の促進
IV　高齢者の交通手段の確保

戦略4 環境立市あきたの実現

【戦略の方向性】

○積極的な地球温暖化対策
○環境関連の新たな技術や

【重点プログラム】

きた維新

創出
経済活動の活性化

ム】

観光戦略構築
磨き上げ
ションの強化

県都『あきた』成長プランでは、市民の皆さんの毎日のくらしにかかわる様々な市の取組を掲載しています。

本市が実施する具体的な施策、取組・事業については、毎年度作成する「推進計画」をご覧ください。

観光は？

1章－3節　交流人口の拡大
1項　観光振興の推進
2項　にぎわいの創出

戦略3　観光あきた維新
I　秋田市ならではの観光戦略構築
II　観光資源の発掘、磨き上げ

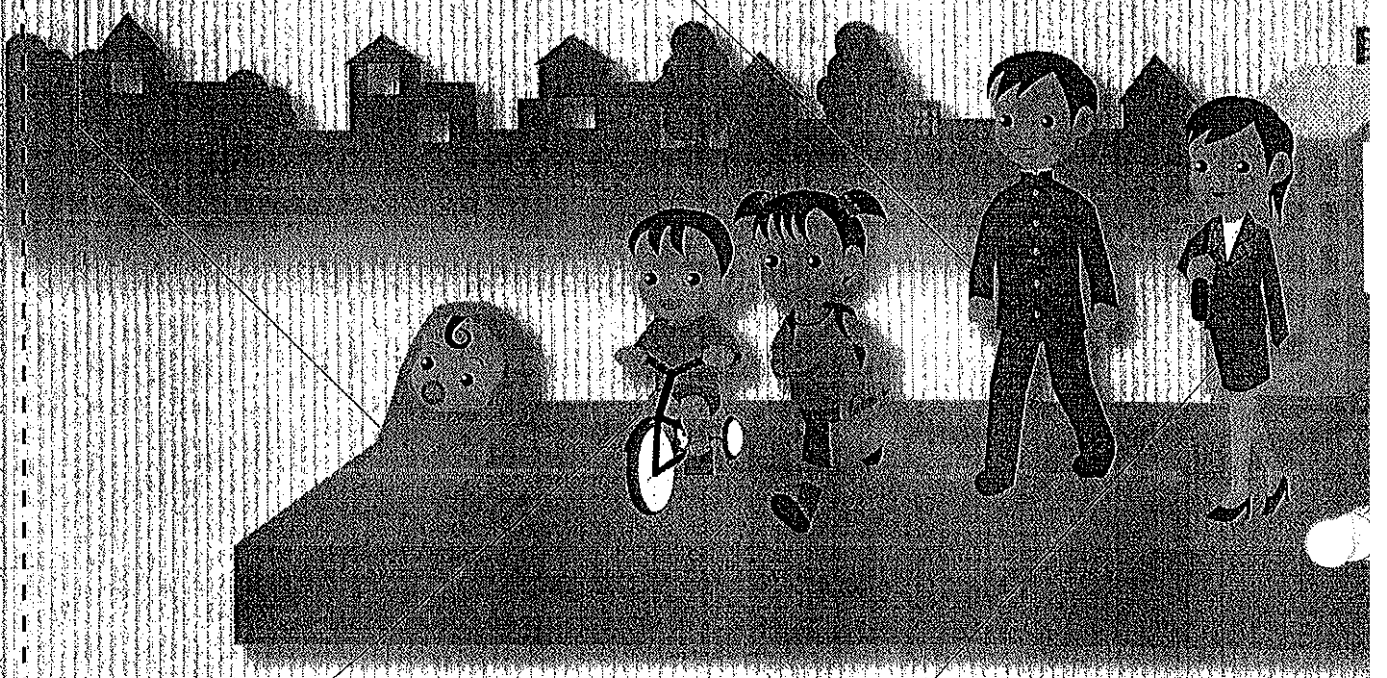
子どもが生まれたら…

4章－2節　地域福祉の充実
2項　児童福祉・子育て支援の充実

進学は？教育は…

5章－2節　教育の充実
2項　学校教育の充実
3項　高等教育の充実

戦略6　次世代の育成支援
II　若者の自立支援



子育ては…

4章－1節　家族や地域を支える絆づくり
1項　家族・地域の絆づくりの推進

戦略6　次世代の育成支援
I　支えあいによる子育て支援

就職は？　雇用は？

1章－1節　商工業の振興
1項　企業立地、事業拡大の推進
2項　市内企業の活性化の推進
3項　雇用拡大の推進　等

戦略2　地域産業の競争力強化
I　ビジネスチャンスをとらえた産業の創出

まちづくりは？

2章－2節　都市基盤の確立

1項　秩序ある都市環境の形成
2項　住宅環境の整備
3項　上下水道サービスの提供
4項　道路整備の推進
5項　交通機能の充実

定年後の生き甲斐は…

5章－2節　教育の充実

1項　社会教育の充実

くらしの安全は…

3章－2節　安心して暮らせる毎日の実現

1項　健全な消費・生活衛生環境の確保
2項　保健・医療体制の充実
3項　消防・救急体制の充実
4項　社会保障制度の確保

社会参加は…

4章－3節　市民の主体的な活動の実現

1項　市民による地域づくりの推進
2項　市民活動の促進

高齢者施策は…

4章－2節　地域福祉の充実

4項　高齢者福祉の充実

戦略5　エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現

II　高齢者の多様な能力の活用
IV　高齢者の交通手段の確保

総合計画推進のために

基本理念の実現に向け、行政サービスの向上と行政経営の確立により、総合計画を推進するための体制を整備するとともに、今後の本市の経営資源を最大限にいかしながら、市民と一緒にまちづくりを進めていくため、常に意識していくべき視点として、次の4つを設定しています。

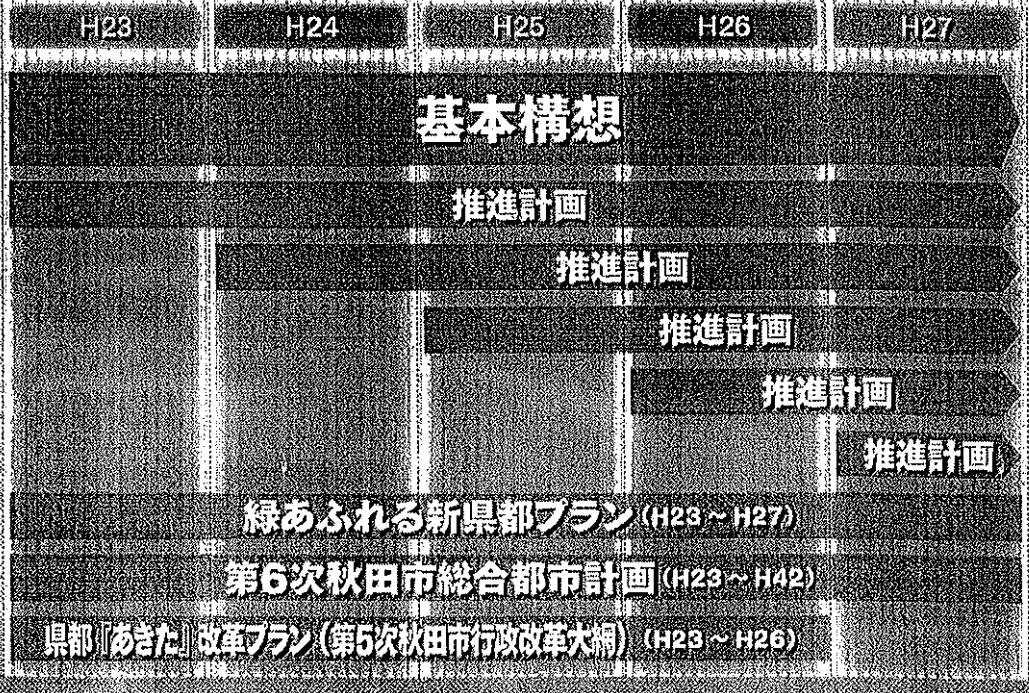
これらの視点は、すべての事務事業の実施にあたり、意識していくものです。

- 行財政改革
- 地方分権・地域主権改革への対応
- 市民協働
- 家族・地域の絆づくり

推進計画について

県都『あきた』成長プランは、「基本構想」と「推進計画」で構成します。

「推進計画」では、「基本構想」で示した5つの将来都市像と6つの成長戦略のもと、具体の事業や予算額などを示しています。計画期間中は、翌年度予算とあわせて取組・事業を更新し、毎年度作成します。



推進計画を含め、県都『あきた』成長プランについての詳細は、下記にお問い合わせください。

秋田市企画調整部企画調整課

〒010-8560　秋田市山王一丁目1番1号　TEL018-866-2032　FAX018-866-2278

第5 成長戦略

「元気なあきたの創造」「元気を支える基盤づくり」のテーマのもと、六つの成長戦略を設定します。戦略ごとの重点プログラムに基づく具体的な事務事業は、推進計画に位置づけます。

戦略1 都市イメージ「ブランドあきた」の確立

背景

秋田市のイメージが高まれば、人や企業の定着と交流を促すことにつながります。イメージを高めるために、元気な秋田市を広く市内外に発信していくことは、人や企業の定着や交流をはかる他の戦略と相まって、さらなる成長を促進します。

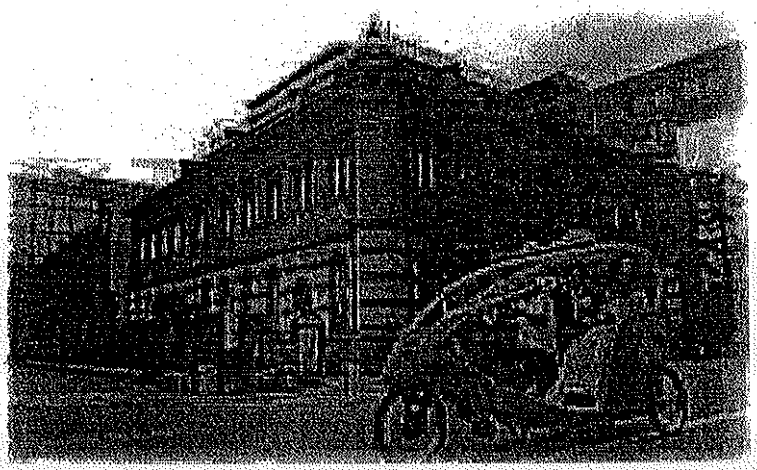
本市には、日本海沿岸の中核都市として発展してきた歴史とはぐくんできた文化、陸・海・空の交通拠点機能など、真に都市圏の核となる機能を備えた都市としてのバックボーンがあります。

一方で、なまはげや米といった秋田県全体のブランドイメージに埋没しがちなことや、まちの顔である中心市街地の空洞化などにより、現在は秋田市の元気を十分にアピールできていません。

今後は、芸術・文化をはじめとする様々な資源を活用しながら、「にぎわい」や「秋田らしさ」を創造し、本市のイメージアップをはかることが必要です。

戦略の方向性

◎秋田市オリジナルのイメージの確立
◎市民が誇れる魅力あるまちづくり



重点プログラム

Ⅰ　まちの顔づくり

Ⅱ　芸術・文化によるまちおこし

Ⅲ　秋田市ブランド商品の開発と振興

Ⅳ　クラブスポーツへの支援

戦略2　地域産業の競争力強化

背景

産業経済基盤を強化することは、地域の活力やその源泉である市民の活力を高め、本市の成長を牽引します。

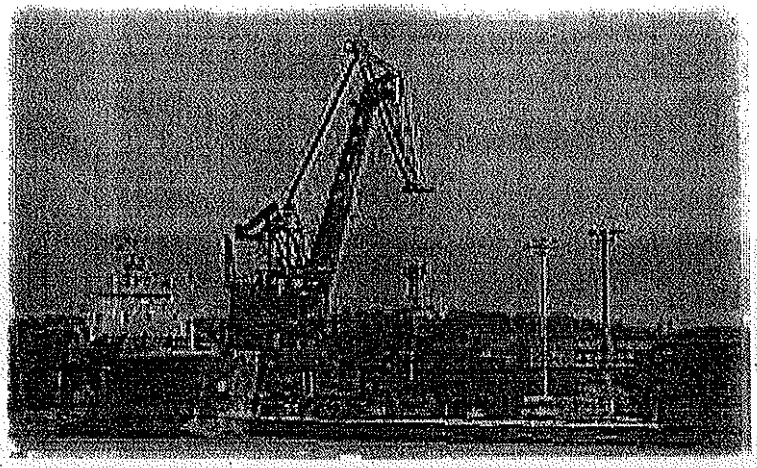
本市の産業は、経済不況による消費動向の変化などの影響を受けて力強さに欠けていますが、将来的に発展を遂げる大きな可能性を秘めています。

例えば、中国・ロシア沿海地方に近接する地理的優位性や豊富な農業資源、優れた環境リサイクル技術、恵まれた条件を兼ね備えた風力をはじめとする新エネルギーなどです。

外部環境の変化に対応しながら、こうした潜在力を戦略的に引き出して地域産業の競争力を高め、市民生活を支える雇用の創出と市民所得の向上をはかることが必要です。

戦略の方向性

◎新たな経済活動の創出
◎地元企業の育成と物流の活発化

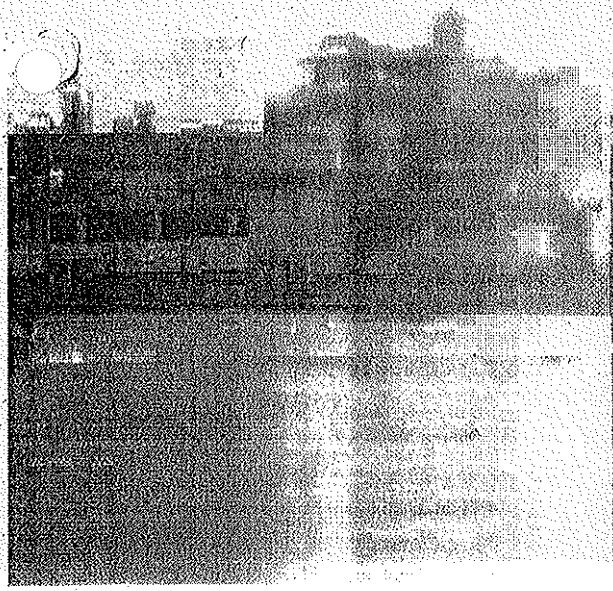


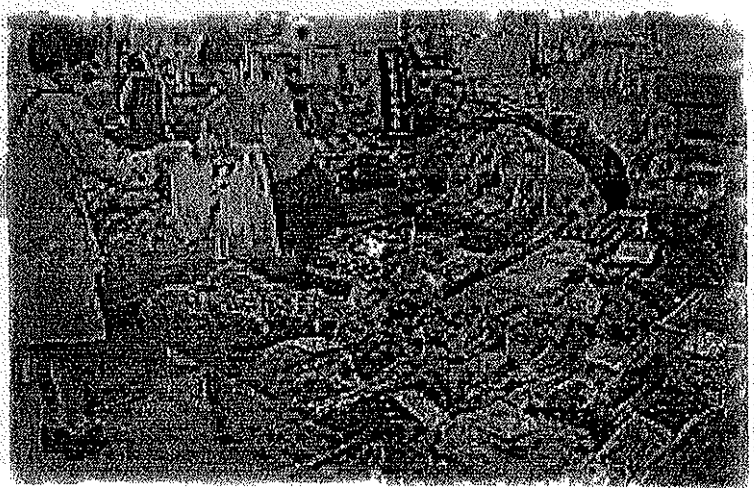
重点プログラム

Ⅰ　ビジネスチャンスをとらえた産業の創出

Ⅱ　環日本海貿易の促進

Ⅲ　戦略作目※による新たな農業ビジネスの展開





※　稲作依存型の農業構造からの脱却と、農家所得の向上・安定化を目指し、本市が県やJA等関係機関と連携し、戦略的に生産振興をはかることとする作目。「園芸作物」を戦略作目とし、本計画策定時点において、ほうれんそう、ねぎ、こまつな、ちんげんさい、しゅんぎく、ブロッコリー、アスパラガス、レタス、キャベツ、えだまめの10種の野菜と、花きについてはダリアを設定している。

戦略3　観光あきた維新

背景

観光産業は、経済効果の裾野が広い上、交流人口の増加により地域の活性化につながることから、様々な波及効果をもたらす期待度の高い成長分野です。

本市には、全国的な知名度を誇る秋田美人、千秋公園や大森山動物園などの観光スポット、多彩な食文化など、有形無形の魅力ある観光資源が数多く存在しています。

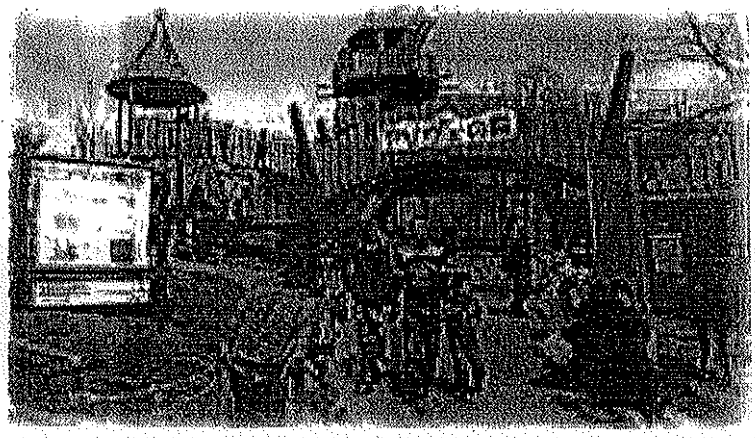
しかしながら、そのような魅力を磨き上げ、一年を通して多くの観光客に滞在してもらうためのしかけづくりや売り込み方に工夫の余地があります。

旅行者のニーズに的確に対応し、新たな視点と柔軟な発想によるオリジナリティあふれる観光動線を打ち出し、市外から人を呼び込むことが必要です。

戦略の方向性

○観光都市としての魅力創出

○交流人口増加による経済活動の活性化

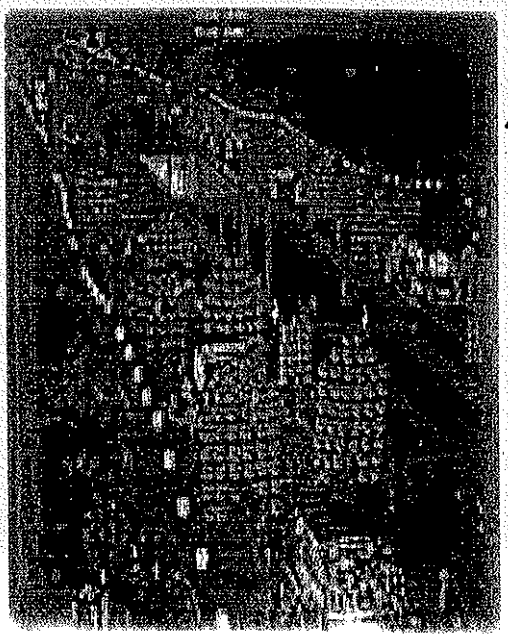


重点プログラム

Ⅰ　秋田市ならではの観光戦略構築

Ⅱ　観光資源の発掘、磨き上げ

Ⅲ　セールスプロモーションの強化



戦略4　環境立市あきたの実現

背景

地球温暖化対策には、脱温暖化をキーワードとした環境ビジネスというもう一つの側面があることから、環境分野は発展の新たな鍵となるポテンシャルの高い成長分野です。

我が国では、温室効果ガス排出量を大幅に削減する目標を掲げており、本市においても、「秋田市地球温暖化対策実行計画」に基づき、総合的な取組を推進しています。

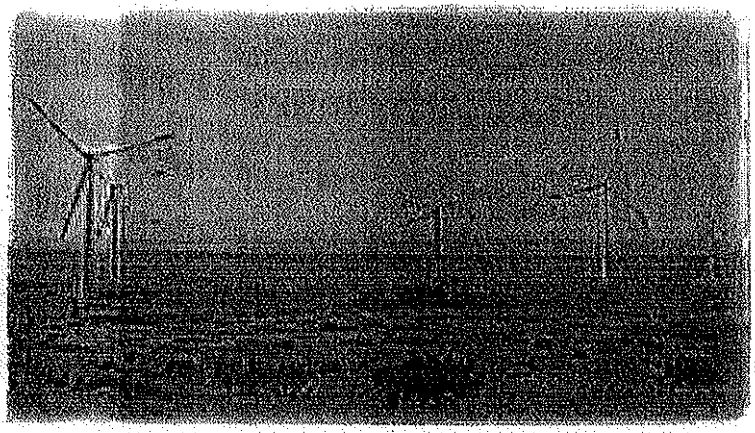
本市は豊かな自然環境に恵まれているものの、これまで温暖化対策と地域産業の活性化を両立させるという観点から環境分野をとらえた取組をしてきませんでした。

恵まれた環境をいかしながら、様々な環境関連施策を展開し、環境分野における本市のプラットフォームを高め、環境と経済の好循環を生み出すことが必要です。

戦略の方向性

◎積極的な地球温暖化対策

◎環境関連の新たな技術などを活用した産業振興

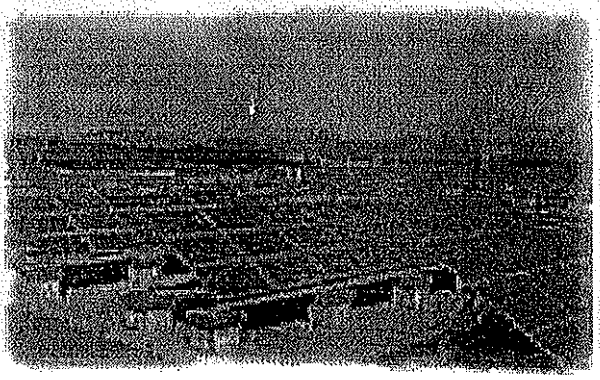


重点プログラム

Ⅰ　新（省）エネルギー設備の導入拡大

Ⅱ　環境関連事業の創出

Ⅲ　環境付加価値※の活用推進



※　二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しない発電や取組を金銭的価値として評価したもの。

戦略5　エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現

背景

秋田市を元気にする原動力は人そのものです。したがって、誰もがそれぞれの能力や意欲に応じて社会参加できる環境をつくることは、成長の基礎となります。

2024年には約3人に一人が高齢者になると推計され、かつてない超高齢社会を迎えることから、これからは高齢者をはじめから意識した「高齢者にやさしい都市」にならなければなりません。

このようなまちは、健康な高齢者はもちろん、介護が必要な高齢者や障がい者、子育て中の親や子どもなど、誰にでもやさしいまちとなります。

高齢化に適応しながら、誰もが可能性や意欲を制約されない寛容な支えあいの社会をつくるため、まちづくりから人々の意識に至るまで、総合的なアプローチで社会システム全体を見直すことが必要です。

戦略の方向性

○高齢者の社会参加の機会拡充
○高齢者の生活の利便性向上

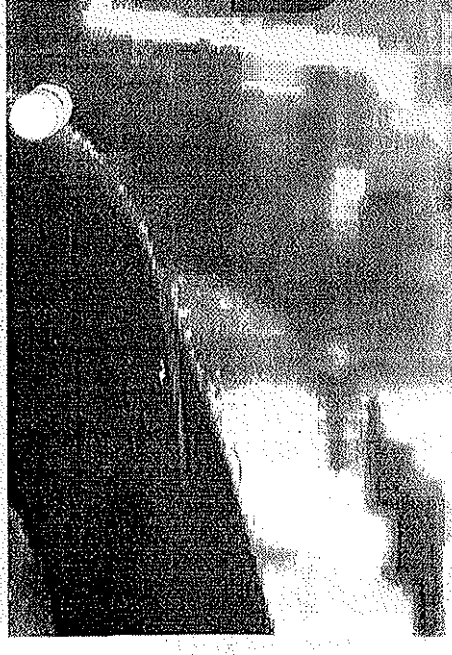
重点プログラム

Ⅰ　エイジフレンドリーシティ※1構想の普及啓発

Ⅱ　高齢者の多様な能力の活用

Ⅲ　バリアフリー※2化の促進

Ⅳ　高齢者の交通手段の確保



※1　「高齢者にやさしい都市」という意味で、WHO(世界保健機関)のプロジェクトにおいて提唱された。
※2　高齢者や障がい者などが生活していくうえで、障壁(バリア)となるものを取り除くこと。

戦略6　次世代の育成支援

背景

将来を担う次世代をはぐくみながら、市民の子育てに対する希望を実現し、元気な秋田市を次の世代に引き継ぐことは今の世代の責務であるとともに、成長の基盤となります。

晩婚化や未婚化の進行などで本市の合計特殊出生率※は依然低い水準にあり、進行する年少人口や生産年齢人口の減少は、都市経営や市民生活に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。

少子化の背景には、若者の経済的基盤が不安定な状況や、子育てしながら就業を継続することが困難な状況に加え、育児に関する不安感、教育費の負担感などが存在しています。

このような少子化を取り巻く問題を取り除き、市民の希望を実現するためには、少子化対策を未来への投資ととらえ、社会全体で子どもや子育て家庭を応援し、子どもを生み育てやすい社会を実現することが必要です。

戦略の方向性

○子どもを生み育てやすい環境づくり
○若年者の安定雇用

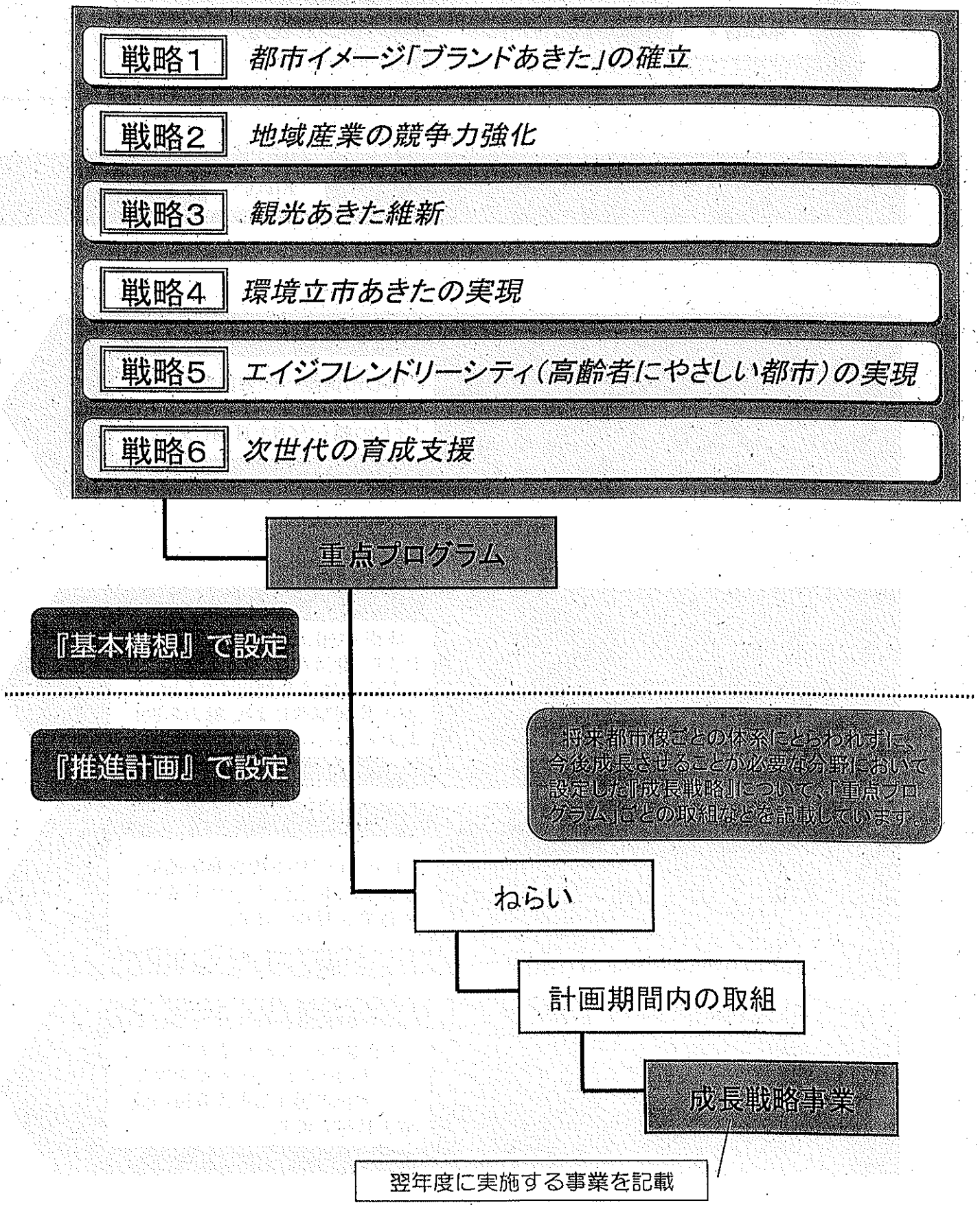
※　15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計した指標で、一人の女性が平均して一生の間に何人の子供を産むかを表します。

重点プログラム

Ⅰ　支えあいによる子育て支援

Ⅱ　若者の自立支援

第４　成長戦略別推進計画



戦略1　都市イメージ「ブランドあきた」の確立

重点プログラム	ねらい
Ⅰ　まちの顔づくり	中心市街地への来訪者に、秋田市を強く印象づけられるような「まちの顔」づくりを目指します。
Ⅱ　芸術・文化によるまちおこし	芸術・文化施設の一層の活用により、身近な場所で芸術・文化に触れる機会を創出するとともに、都市景観形成により、魅力あるまちのイメージを創ります。
Ⅲ　秋田市ブランド商品の開発と振興	秋田市ブランドの新商品開発と販路拡大により、「ブランド秋田」の確立を目指します。
Ⅳ　クラブスポーツへの支援	本市をホームタウンとするクラブチームのスポンサー支援や地元チームを応援する市民意識の醸成を目指します。

芸術・文化をはじめとする様々な資源を活用しながら「にぎわい」や「秋田らしさ」を創造することにより、本市のイメージアップをはかり、秋田市オリジナルのイメージの確立と市民が誇れる魅力あるまちづくりを進めます。

計画期間内の取組	成長戦略事業（平成23年度）
中心市街地において各種活性化施策を連続的に展開することにより、秋田駅前から中通一丁目地区を魅力ある一体的な集客エリアとし、中心市街地全体のにぎわい創出をはかります。 また、秋田駅に降り立った時の第一印象である、駅前の都市景観整備とにぎわい創出を進めます。	・秋田杉街並みづくり推進事業 （まちづくり整備室　P33） ・中心市街地活性化基本計画推進経費 （まちづくり整備室　P37） ・中心市街地にぎわい創出事業 （まちづくり整備室　P37） ・中通一丁目地区市街地再開発事業 （まちづくり整備室　P37） ・中心市街地商業集積促進事業 （商工労働課　P37） ・秋田駅周辺まちづくりイベント支援事業 （まちづくり整備室　P38） ・官民連携秋田駅周辺活性化事業 （秋田市民交流プラザ管理室　P38） ・秋田駅周辺にぎわいづくり推進事業 （秋田市民交流プラザ管理室　P38） ・まちの駅推進モデル事業 （まちづくり整備室　P38）
景観上重要な建造物の保存などへの支援やラッピングバス※P136による「ブランドあきた」のPR、秋田公立美術工芸短期大学による作品展示機会および講座の充実をはかります。また、市内に点在する文化財や文化施設を紹介する文化財イラストマップを作成し、マップを活用した事業を行います。	・バス車両活用情報発信事業 （交通政策課　P33） ・景観重要建造物等保存事業費補助金 （都市計画課　P51） ・文化施設及び文化資産ネットワーク推進事業 （文化振興室　P108） ・秋田公立美術工芸短期大学4年制大学化準備経費 （大学設置準備室　P120）
秋田市の素材をいかした特産品・名物を開発し、「秋田市ブランド」として市内外にPRし、販路を拡大します。	・地域特産品等販売促進経費 （農業農村振興課　P28）
本市をホームタウンとする秋田ノーザンハピネッツ、ブラウブリッツ秋田、秋田ノーザンブレッツ3チームのホームゲーム開催にあわせ、PRブースの設置やイベント開催など、地域でチームを支援する体制づくりを進めます。	・スポーツホームタウン構想推進事業 （企画調整課　P38） ・スポーツホームタウンにぎわい創出事業 （企画調整課　P38）

全国の大学・短大数の推移

資料５

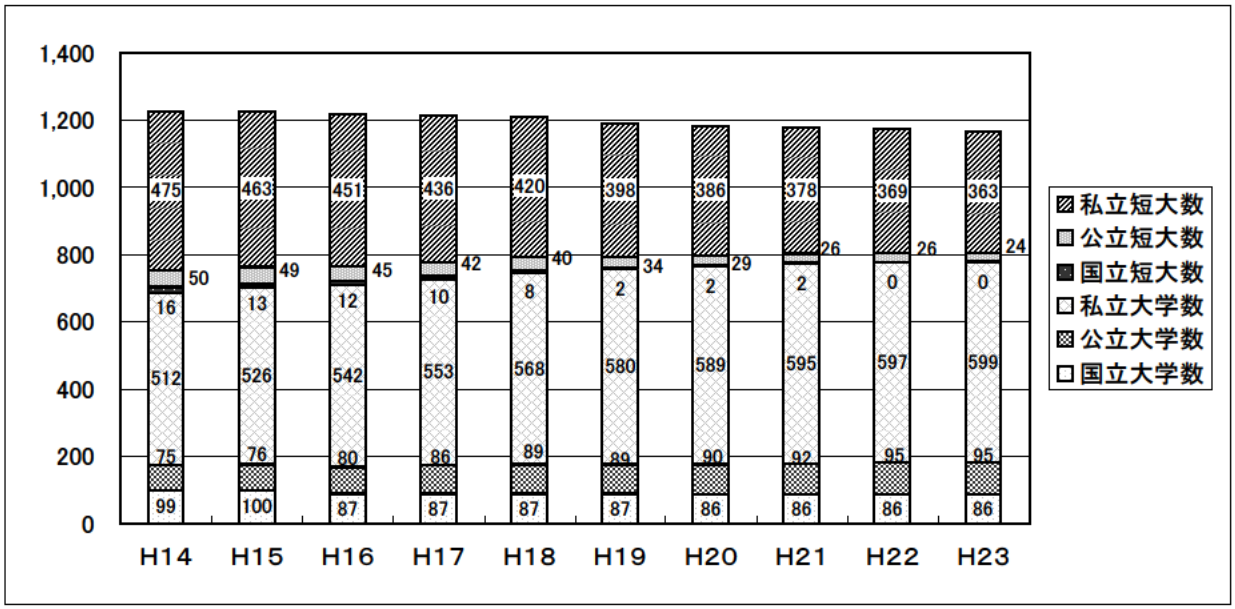
区　　分	区　　分	高等専門学校	短期大学	大　　学	専修学校	短大・大学合計
昭和23年	1948年	…	…	12	…	
24	49	…	…	178	…	
25	50	…	149	201	…	
26	51	…	180	203	…	
27	52	…	205	220	…	
28	53	…	228	226	…	
29	54	…	251	227	…	
30	55	…	264	228	…	
31	56	…	268	228	…	
32	57	…	269	231	…	
33	58	…	269	234	…	
34	59	…	272	239	…	
35	60	…	280	245	…	
36	61	…	290	250	…	
37	62	19	305	260	…	
38	63	34	321	270	…	
39	64	46	339	291	…	
40	65	54	369	317	…	
41	66	54	413	346	…	759
42	67	54	451	369	…	820
43	68	60	468	377	…	845
44	69	60	473	379	…	852
45	70	60	479	382	…	861
46	71	63	486	389	…	875
47	72	63	491	398	…	889
48	73	63	500	405	…	905
49	74	63	505	410	…	915
50	75	65	513	420	…	933
51	76	65	511	423	893	934
52	77	65	515	431	1,941	946
53	78	64	519	433	2,253	952
54	79	62	518	443	2,387	961
55	80	62	517	446	2,520	963
56	81	62	523	451	2,745	974
57	82	62	526	455	2,804	981
58	83	62	532	(1) 457	2,860	989
59	84	62	536	(1) 460	2,936	996
60	85	62	543	(1) 460	3,015	1003
61	86	62	548	(1) 465	3,088	1013
62	87	62	561	(1) 474	3,151	1035
63	88	62	571	(1) 490	3,191	1061
平成元	89	62	584	(1) 499	3,254	1083
2	90	62	593	(1) 507	3,300	1100
3	91	63	592	(1) 514	3,370	1106
4	92	62	591	(1) 523	3,409	1114
5	93	62	595	(1) 534	3,431	1129
6	94	62	593	(1) 552	3,437	1145
7	95	62	596	(1) 565	3,476	1161
8	96	62	598	(1) 576	3,512	1174
9	97	62	595	(1) 586	3,546	1181
10	98	62	588	(1) 604	3,573	1192
11	99	62	585	(1) 622	3,565	1207
12	2000	62	572	(2) 649	3,551	1221
13	01	62	559	(2) 669	3,495	1228
14	02	62	541	(2) 686	3,467	1227
15	03	63	525	(2) 702	3,439	1227
16	04	63	508	(4) 709	3,444	1217
17	05	63	488	(4) 726	3,439	1214
18	06	64	(1) 468	(4) 744	3,441	1212
19	07	64	(1) 434	(5) 756	3,435	1190
20	08	64	(1) 417	(6) 765	3,401	1182
21	09	64	(1) 406	(6) 773	3,348	1,179
22	10	58	(1) 395	(6) 778	3,311	1,173
23	11	57	(1) 387	(6) 780	3,266	1,167

(注)1　国・公・私立の合計数である。
　　2　本校・分校の合計数である。
　　3　「大学」は新制大学のみである。
　　4　(　)内の数値は通信教育のみを行う学校数で別掲である。

※　文部科学省「平成23年度学校基本調査」を基に作成

全国の大学・短大数（国・公・私立別）の推移

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
国立大学数	99	100	87	87	87	87	86	86	86	86
公立大学数	**75**	**76**	**80**	**86**	**89**	**89**	**90**	**92**	**95**	**95**
私立大学数	512	526	542	553	568	580	589	595	597	599
大学数合計	686	702	709	726	744	756	765	773	778	780
国立短大数	16	13	12	10	8	2	2	2	0	0
公立短大数	**50**	**49**	**45**	**42**	**40**	**34**	**29**	**26**	**26**	**24**
私立短大数	475	463	451	436	420	398	386	378	369	363
短大数合計	541	525	508	488	468	434	417	406	395	387
大学･短大数合計	1227	1227	1217	1214	1212	1190	1182	1179	1173	1167



※ 文部科学省「平成23年度学校基本調査」を基に作成

資料６

平成１９年３月

秋田県高等学校卒業者の進　路　状　況　調　査

平成１９年４月３日調査

秋田県教育庁高校教育課

目　　次

概況 …… 1

Ⅰ　進路概況 …… 3
(1) 全日制課程 …… 3
(2) 定時制課程 …… 5
(3) 志望達成率 …… 6

Ⅱ　全日制課程の進路状況 …… 7
(1) 進学者の内訳 …… 7
①　大学・短大の学部学科別進学状況 …… 7
②　大学・短大の地域別進学状況 …… 8
(2) 国公立・管外大学受験・合格状況 …… 9
(3) 専修学校等への分野別進学者数 …… １０
(4) 地域別就職状況 …… １１
(5) 業種別就職状況 …… １２
(6) 就職進学状況 …… １３
(7) その他の者の内訳 …… １３
(8) 秋田県内の大学への進学者数の推移 …… １３
(9) 秋田県内の大学・短大への進学者数 …… １４
(10) 学校別進路状況 …… １５
(11) 学校別進学状況 …… １６
(12) 参考 …… １７

Ⅲ　定時制課程の進路状況 …… １９
(1) 進路状況 …… １９
(2) 大学・短大の学部・学科別進学状況 …… １９
(3) 地域別大学等進学者数 …… １９
(4) 専修学校等への分野別進学者数 …… １９
(5) その他の者の内訳 …… ２０
(6) 地域別就職者数 …… ２０
(7) 秋田県内の大学・短大への進学者数 …… ２０
(8) 業種別就職者数 …… ２０
(9) 学校別進路状況 …… ２０

Ⅳ　大学別進学者数（全日制課程３月卒業者） …… ２１

概　　況

1　全日制課程（公・私立高校）

卒業者総数は 10,833名、前年比 397名減

ア　卒業者は 10,833名で、18年卒より 397名、17年卒より 663名少なくなっている。
イ　学科別の卒業者の割合は、普通科（理数科、英語科を含む）が 67.4%、職業学科が 28.9%、総合学科が 3.7%である。

（1）進　　学

大学進学率は 42.5%、前年比 1.0ポイント増加

ア　大学（四年制大学及び短期大学、ただし就職進学者は除く）への進学者は 4,600名で、18年卒より 63名少なく、17年卒より 57名多くなっている。
イ　大学進学率（卒業者総数に対する大学進学者の割合）は 42.5%で、18年卒より 1.0ポイント、17年卒より 3.0ポイント増加している。男子の進学率は 39.4%、女子の進学率は 45.6%である。

国立・公立・管外大への進学者は 1,559名、前年比 57名減

ア　国立・公立・管外大（四年制）への進学者は 1,559名で、18年卒より 57名減少、17年卒より 96名増加している。
　私立大学（四年制）への進学者は 2,074名で、18年卒より 44名、17年卒より 6名増加している。
　また、短期大学への進学者は 967名で、18年卒より 50名、17年卒より 45名少なくなっている。
イ　国立・公立・管外大（四年制）への進学者があった学校は 62校中(分校2校を含む) 52校である。
ウ　推薦による入学者は、国公立管外大が 408名(26.2%)である。

国公立・管外大学の合格率(延べ)は 43.3%、 1.4ポイント減少

ア　大学入試センター試験の受験者数は 3,592名、卒業者総数の 33.2%であり、18年卒より 183名多く、率では2.8ポイント増加している。
イ　国公立・管外大の延べ受験者数は 3,820名、延べ合格者数は 1,654名、延べ合格率は 43.3%で、18年卒より 1.4ポイント減少、17年卒より 0.2ポイント増加している。
ウ　国公立・管外大の推薦による合格者は 411名で、18年卒より 20名、17年卒より 55名増加している。内訳は、普通科(理数科、英語科含む) 319名、 工業科 53名、 農業科 15名、 商業科 14名、総合学科 10名で、18年卒より普通科は 26名多く、工業科は 5名少なく、農業科は 2名多く、商業科は 4名少なく、総合学科は 1名多くなっている。
エ　国公立・管外大学の一般試験による合格者は 1,243名で、18年卒より 73名少なく、17年卒より 8名多くなっている。内訳は、普通科（理数科、英語科含む）1,230名、工業科 4名、商業科 3名、総合学科 6名である。

国公立・管外大受験・合格状況(延べ数)

卒業年	平成19年			平成18年		
	推薦入学	一般受験	合　計	推薦入学	一般受験	合　計
受験者	８２７	２，９９３	３，８２０	７５６	３，０６５	３，８２１
合格者	４１１	１，２４３	１，６５４	３９１	１，３１６	１，７０７
合格率	４９．７％	４１．５％	４３．３％	５１．７％	４２．９％	４４．７％

オ　私立大学は延べ受験者数が 7,114名、合格者数が 3,618名で、合格率は 50.9%である。(推薦入学を含む)

専修学校等への進学率は 20.4%

ア　専修学校等への進学者は 2,214名で、18年卒より 159名、16年卒より 305名少なくなっている。
イ　専修学校等への進学率は 20.4%で、18年卒より 0.7ポイント、17年卒より1.5ポイント少なくなっている。
ウ　大学・短大及び専修学校等への進学者数を合計した進学率は 62.9%で、18年卒より 0.2ポイント、17年卒より 1.5ポイント増加している。

(2) 就　　職

就職率は 31.6%、前年比 0.2ポイント増加

ア　就職者（自営、就職進学者を含む）は 3,422名で、18年卒より 107名、17年卒より 254名少なくなっている。
イ　就職率（卒業者総数に対する就職者の割合）は 31.6%で、18年卒より 0.2ポイント増加し、17年卒より 0.4ポイント減少している。

県内就職率は 61.7%、前年比 5.3ポイント減少

ア　県内就職者は 2,113名で、18年卒より 252名、17年卒より 483名少なくなっている。
イ　県内就職率（就職者総数に対する県内就職者の割合）は 61.7%で、18年卒よりも 5.3ポイント、17年卒より 8.9ポイント減少している。
ウ　県内就職率の高い学科（当該学科における就職者総数に対する県内就職者の割合）は、福祉科 85.0%、農業科72.9%、普通科 67.0%などである。
エ　県外就職者は 1,309名で、18年卒より 145名、17年卒より 229名多くなっている。
オ　県外就職率は 38.3%で、18年卒より 5.3ポイント、17年卒より 8.9ポイント増加している。

(3) その他

その他は 5.5%、進学準備者 454名、就職準備者（フリーターも含む）113名

ア　その他の者の数は 597名で、18年卒より 68名、17年卒より 161名少なくなっている。
イ　その他の者の内、進学準備者は 454名で、18年卒より 15名多く、17年卒より 66名少なくなっている。また、就職準備者（フリーターも含む）は 113名で、18年卒より 54名、17年卒より 85名少なくなっている。

2　定時制課程（公立高校）

卒業者数は 177名で前年比 35名減、就職率は 35.0%で1.3ポイント減少

ア　卒業生は18年卒より 35名、17年卒より 73名少なくなっている。
イ　就職者は 62名で、18年卒より 15名、17年卒より 28名少なくなっている。その内、県内就職者は 44名で、県内就職率は 71.0%である。
ウ　大学への進学者は 15名（四年制大学 7名、短大 8名）で、大学進学率は 8.5%である。
　　専修学校等への進学者は 33名で、18年卒より 2名少なくなっている。大学・短大及び専修学校等への進学率は 27.1%である。
エ　その他の人数は 67名で、その内、就職準備者（フリーターも含む）が 47名である。

3　通信制課程（公・私立高校）

卒業者数は 81名

Ⅰ 進 路 概 況

(1) 全日制課程

① 卒業者内訳

設置者別		普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	総合	合計
県立		5903	609	1339	320	146	57	31	32	181	96	374	9088
市立		96			447				25				568
私立		1022		37	58	31						29	1177
合計	19年	7021	609	1376	825	177	57	31	57	181	96	403	10833
	18年	7242	615	1441	892	154	74	24	55	164	95	474	11230
	17年	7453	581	1538	942	159	81		25	108	120	489	11496

注) 調理科は家庭、平成16年までの衛生看護科は福祉に集計。

② 進路状況

進路項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	総合	合計
大学	国立公立管外	19年	1334	15	56	17	0	0	0	0	107	14	16	1559
		18年	1367	13	66	20	0	0	0	0	118	21	11	1616
		17年	1293	10	57	15	0	0		0	61	18	9	1463
	私立	19年	1546	59	183	144	12	2	1	7	35	38	47	2074
		18年	1525	47	196	128	3	2	3	2	21	40	63	2030
		17年	1569	39	190	130	3	0		2	18	50	67	2068
短大	19年	国公立	122	3	22	14	1	1	0	0	0	3	7	173
		私立	627	37	24	36	28	1	0	2	0	13	26	794
		計	749	40	46	50	29	2	0	2	0	16	33	967
	18年	計	784	43	50	57	26	1	1	1	0	8	46	1017
	17年	計	756	50	49	74	17	2		1	0	22	41	1012
専修学校等		19年	1435	147	270	170	44	8	11	8	7	14	100	2214
		18年	1516	130	318	212	37	10	5	4	7	11	123	2373
		17年	1576	145	333	245	49	11		4	0	12	144	2519
就職(自営含む)		19年	1477	340	801	415	87	41	18	40	2	7	194	3422
		18年	1514	366	786	450	85	61	10	43	0	6	208	3529
		17年	1647	323	876	452	80	66		17	1	9	205	3676
その他		19年	480	8	20	29	5	4	1	0	30	7	13	597
		18年	536	16	25	25	3	0	5	5	18	9	23	665
		17年	611	14	33	26	11	2		1	28	9	23	758

③　進学者合計・進学率・専修学校等進学率

項　目	学科	普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	総合	合 計
進学者合計	大学	2880	74	239	161	12	2	1	7	142	52	63	3633
	短大	749	40	46	50	29	2	0	2	0	16	33	967
	19年	3629	114	285	211	41	4	1	9	142	68	96	4600
	18年	3676	103	312	205	29	3	4	3	139	69	120	4663
	17年	3618	99	296	219	20	0		3	79	90	117	4543
大学・短大進学率	19年	51.7%	18.7%	20.7%	25.6%	23.2%	7.0%	3.2%	15.8%	78.5%	70.8%	23.8%	42.5%
	18年	50.8%	16.7%	21.7%	23.0%	18.8%	4.1%	16.7%	5.5%	84.8%	72.6%	25.3%	41.5%
	17年	48.6%	17.0%	19.2%	23.2%	12.5%	2.5%		12.0%	73.1%	75.0%	23.9%	39.5%
専修学校等進学率	19年	20.4%	24.1%	19.6%	20.6%	24.9%	14.0%	35.5%	14.0%	3.9%	14.6%	24.8%	20.4%
	18年	20.9%	21.1%	22.1%	23.8%	24.0%	13.5%	20.8%	7.3%	4.3%	11.6%	25.9%	21.1%
	17年	21.1%	25.0%	21.7%	26.0%	30.6%	13.6%		16.0%	0.0%	10.0%	29.4%	21.9%

④　就職率・県内･県外就職状況（自営者も含む）

項　目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	総合	合 計
就職率		19年	21.0%	55.8%	58.2%	50.3%	49.2%	71.9%	58.1%	70.2%	1.1%	7.3%	48.1%	31.6%
		18年	20.9%	59.5%	54.5%	50.4%	55.2%	82.4%	41.7%	78.2%	0.0%	6.3%	43.9%	31.4%
		17年	22.1%	55.6%	57.0%	48.0%	50.0%	81.5%		68.0%	0.9%	7.5%	41.9%	32.0%
県内	人数	19年	990	248	395	240	46	24	10	34	1	1	124	2113
		18年	1045	289	468	306	57	38	8	34	0	3	117	2365
		17年	1190	264	547	313	60	52		14	0	1	155	2596
	構成率	19年	67.0%	72.9%	49.3%	57.8%	52.9%	58.5%	55.6%	85.0%	50.0%	14.3%	63.9%	61.7%
		18年	69.0%	79.0%	59.5%	68.0%	67.1%	62.3%	80.0%	79.1%	%	50.0%	56.3%	67.0%
		17年	72.3%	81.7%	62.4%	69.2%	75.0%	78.8%		82.4%	0%	11.1%	75.6%	70.6%
県外	人数	19年	487	92	406	175	41	17	8	6	1	6	70	1309
		18年	469	77	318	144	28	23	2	9	0	3	91	1164
		17年	457	59	329	139	20	14		3	1	8	50	1080
	構成率	19年	33.0%	27.1%	50.7%	42.2%	47.1%	41.5%	44.4%	15.0%	50.0%	85.7%	36.1%	38.3%
		18年	31.0%	21.0%	40.5%	32.0%	32.9%	37.7%	37.7%	20.0%	%	50.0%	43.8%	33.0%
		17年	27.7%	18.3%	37.6%	30.8%	25.0%	21.2%		17.6%	100%	88.9%	24.4%	29.4%

資料６

平成 23 年３月

秋田県高等学校卒業者の
進　路　状　況　調　査

平成 23 年３月 31 日調査

秋田県教育庁高校教育課

目　　次

概　況 …… 1

Ⅰ　進路概況 …… 3
（１）全日制課程 …… 3
（２）定時制課程 …… 5
（３）志望達成率 …… 6

Ⅱ　全日制課程の進路状況 …… 7
（１）進学者の内訳 …… 7
①　大学・短大の学部学科別進学状況 …… 7
②　大学・短大の地域別進学状況 …… 8
（２）国公立・管外大学受験・合格状況 …… 9
（３）専修学校等への分野別進学者数 …… １０
（４）地域別就職状況 …… １１
（５）職種別就職状況 …… １１
（６）業種別就職状況 …… １２
（７）就職進学状況 …… １３
（８）その他の者の内訳 …… １３
（９）秋田県内の大学への進学者数の推移 …… １３
(10) 秋田県内の大学・短大への進学者数 …… １４
(11) 学校別進路状況 …… １５
(12) 学校別進学状況 …… １６
(13) 参考 …… １７

Ⅲ　定時制課程の進路状況 …… １９
（１）進路状況 …… １９
（２）大学・短大の学部・学科別進学状況 …… １９
（３）地域別大学等進学者数 …… １９
（４）専修学校等への分野別進学者数 …… １９
（５）その他の者の内訳 …… １９
（６）地域別就職者数 …… ２０
（７）職種別就職者数 …… ２０
（８）業種別就職者数 …… ２０
（９）秋田県内の大学・短大への進学者数 …… ２０
(10) 学校別進路状況 …… ２０

Ⅳ　大学別進学者数（全日制課程３月卒業者） …… ２１

概　　況

1　全日制課程（公・私立高校）

卒業者総数は 9,603 名、前年比 80 名減少

ア　卒業者は 9,603名で、22年卒より 80名、21年卒より 262名減少している。
イ　学科別の卒業者の割合は、普通科（理数科、英語科、国際科を含む）が 69.0%、職業学科が 26.9%、総合学科が 4.1%である。

（1）　進　　学

大学進学率は 45.6%、前年比 1.4 ポイント減少

ア　大学（四年制大学及び短期大学、ただし就職進学者は除く）への進学者は 4,379名で、22年卒より 170名、21年卒より 51名減少している。
イ　大学進学率（卒業者総数に対する大学進学者の割合）は 45.6%で、22年卒より 1.4ポイント減少、21年卒より 0.7ポイント増加している。男子の進学率は 43.3%、女子の進学率は 47.9%である。

国公立・管外大への進学者は 1,614 名、前年比 51 名増加

ア　国公立・管外大（四年制）への進学者は 1,614名で、22年卒より 51名、21年卒より 78名増加している。
　私立大（四年制）への進学者は 2,014名で、22年卒より 148名、21年卒より 125名減少している。
　また、短期大学への進学者は 751名で、22年卒より 73名、21年卒より 4名減少している。
イ　国公立・管外大（四年制）への進学者があった学校は 62校中(分校2校を含む) 47校である。
ウ　推薦・ＡＯ入試による進学者は、国公立・管外大が 472名 (29.2%)である。

国公立・管外大の合格率（延べ）は 36.9%、4.3 ポイント減少

ア　大学入試センター試験の受験者数は 3,772名、卒業者総数の 39.3%であり、22年卒より 12名減少、率では 0.2ポイント増加している。
イ　国公立・管外大の延べ受験者数は 4,602名、延べ合格者数は 1,700名、延べ合格率は 36.9%で、22年卒より 4.3ポイント、21年卒より 6.2ポイント減少している。
ウ　国公立・管外大の推薦・ＡＯによる合格者は 475名で、22年卒より 1名、21年卒より 43名増加している。内訳は、普通科(理数科、英語科、国際科含む) 379名、工業科 50名、農業科 14名、商業科 25名、総合学科 7名で、22年卒より普通科は 4名、工業科は 3名、農業科は 4名、情報科は 1名減少し、商業科は 12名、総合学科は 1名増加している。
エ　国公立・管外大の一般試験による合格者は 1,225名で、22年卒より 28名減少、21年卒より4名増加している。内訳は、普通科（理数科、英語科、国際科含む）1,224名、商業科 1名である。

国公立・管外大受験・合格状況(延べ数)

卒業年	平 成 23 年			平 成 22 年		
	推薦・ＡＯ	一般受験	合　計	推薦・ＡＯ	一般受験	合　計
受験者	１，０８９	３，５１３	４，６０２	１，０９３	３，０９９	４，１９２
合格者	４７５	１，２２５	１，７００	４７４	１，２５３	１，７２７
合格率	４３．６％	３４．９％	３６．９％	４３．４％	４０．４％	４１．２％

オ　私立大は延べ受験者数が 7,259名、合格者数が 3,703名で、合格率は 51.0％である（推薦入学を含む）。

専修学校等への進学率は 20.6%

ア　専修学校等への進学者は 1,979名で、22年卒より 23名減少、21年卒より 139名増加している。
イ　専修学校等への進学率は 20.6%で、22年卒より 0.1ポイント減少、21年卒より 2.0ポイント増加している。
ウ　大学・短大及び専修学校等への進学者数を合計した進学率は 66.2%で、22年卒より 1.4ポイント減少、21年卒より 2.7ポイント増加している。

（2）　就　　職

就職率は 27.8%、前年比 1.2 ポイント増加

ア　就職者（自営、就職進学者を含む）は 2,671名で、22年卒より 93名増加、21年卒より 337名減少している。
イ　就職率（卒業者総数に対する就職者の割合）は 27.8%で、22年卒より 1.2ポイント増加、21年卒より 2.7ポイント減少している。

県内就職率は 62.3%、前年比 5.5 ポイント増加

ア　県内就職者は 1,663名で、22年卒より 199名、21年卒より 84名増加している。
イ　県内就職率（就職者総数に対する県内就職者の割合）は 62.3%で、22年卒よりも 5.5ポイント、21年卒より 9.8ポイント増加している。
ウ　県内就職率の高い学科(当該学科における就職者総数に対する県内就職者の割合)は、情報科 88.2%、総合学科 72.5%、福祉科 72.4%などである。
エ　県外就職者は 1,008名で、22年卒より 106名、21年卒より 421名減少している。
オ　県外就職率は 37.7%で、22年卒より 5.5ポイント、21年卒より 9.8ポイント減少している。

（3）　その他

その他は 6.0%、進学準備者 453 名、就職準備者 86 名

ア　その他の者の数は 574名で、22年卒より 20名増加、21年卒より 13名減少している。
イ　その他の者の内、進学準備者は 453名で、22年卒より 29名増加、21年卒より 11名減少している。また、就職準備者は 86名で、22年卒より 23名、21年卒より 16名減少している。

2　定時制課程（公立高校）

卒業者数は 198 名で前年比 5 名減、就職率は 35.9% で前年比 5.8 ポイント増加

ア　卒業者は22年卒より 5名減少、21年卒より 12名増加している。
イ　就職者は 71名で、22年卒より 10名、21年卒より 12名増加している。その内、県内就職者は 54名で、県内就職率は 76.1%である。
ウ　大学への進学者は 19名（四年制大学 10名、短大 9名）で、大学進学率は 9.6%である。
　　専修学校等への進学者は 47名で、22年卒より 4名増加している。大学・短大及び専修学校等への進学率は 33.3%である。
エ　その他の人数は 61名で、その内、就職準備者が 46名である。

3　通信制課程（公・私立高校）

卒業者数は 123 名で前年比 11 名増加

Ⅰ　進　路　概　況

（1）全日制課程

①　卒業者内訳

		普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	国際	総合	合計
県　　立		5342	515	1128	285	36	62	33	20	200	99	31	363	8114
市　　立		109	0	0	404	0	0	0	21	0	0	0	0	534
私　　立		842	0	0	39	40	0	0	0	0	0	0	34	955
合計	23年	6293	515	1128	728	76	62	33	41	200	99	31	397	9603
	22年	6447	505	1103	708	63	66	33	40	205	93	35	385	9683
	21年	6526	493	1243	765	101	53	31	50	166	104		333	9865

②　進路状況

		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	国際	総合	合計
大学	国立公立管外	23年	1358	14	50	26	0	0	0	0	132	15	12	7	1614
		22年	1294	18	54	15	0	0	1	0	137	19	13	12	1563
		21年	1319	9	55	15	0	0	1	0	101	20		16	1536
	私立	23年	1516	43	140	156	9	2	2	1	34	32	12	67	2014
		22年	1676	42	146	145	3	2	2	2	30	33	16	65	2162
		21年	1614	46	174	136	3	3	4	2	34	42		81	2139
短大	23年	国公立	100	7	30	6	0	2	0	0	0	2	4	7	158
		私　立	463	32	10	45	8	0	2	1	0	6	1	25	593
		計	563	39	40	51	8	2	2	1	0	8	5	32	751
	22年	計	590	49	43	69	7	5	0	0	0	14	6	41	824
	21年	計	584	29	44	38	12	1	0	1	1	16		29	755
専修学校等		23年	1299	142	185	175	17	7	12	6	11	22	1	102	1979
		22年	1266	162	195	192	10	20	14	2	6	17	0	118	2002
		21年	1181	131	192	174	33	15	8	7	1	16		82	1840
就　職（自営含む）		23年	1084	262	698	309	39	44	17	29	2	9	0	178	2671
		22年	1157	219	657	278	41	39	13	35	0	5	0	134	2578
		21年	1333	268	763	385	51	33	13	39	0	3		120	3008
その他		23年	473	15	15	11	3	7	0	4	21	13	1	11	574
		22年	464	15	8	9	2	0	3	1	32	5	0	15	554
		21年	495	10	15	17	2	1	5	1	29	7		5	587

③　進学者合計・進学率・専修学校等進学率

	学科	普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	国際	総合	合計
進学者合　計	大学	2874	57	190	182	9	2	2	1	166	47	24	74	3628
	短大	563	39	40	51	8	2	2	1	0	8	5	32	751
	23年	3437	96	230	233	17	4	4	2	166	55	29	106	4379
	22年	3560	109	243	229	10	7	3	2	167	66	35	118	4549
	21年	3517	84	273	189	15	4	5	3	136	78		126	4430
大学・短大進学率	23年	54.6%	18.6%	20.4%	32.0%	22.4%	6.5%	12.1%	4.9%	83.0%	55.6%	93.5%	26.7%	45.6%
	22年	55.2%	21.6%	22.0%	32.3%	15.9%	10.6%	9.1%	5.0%	81.5%	71.0%	100.0%	30.6%	47.0%
	21年	53.9%	17.0%	22.0%	24.7%	14.9%	7.5%	16.1%	6.0%	81.9%	75.0%		37.8%	44.9%
専修学校等進学率	23年	20.6%	27.6%	16.4%	24.0%	22.4%	11.3%	36.4%	14.6%	5.5%	22.2%	3.2%	25.7%	20.6%
	22年	19.6%	32.1%	17.7%	27.1%	15.9%	30.3%	42.4%	5.0%	2.9%	18.3%	0.0%	30.6%	20.7%
	21年	18.1%	26.6%	15.4%	22.7%	32.7%	28.3%	25.8%	14.0%	0.6%	15.4%		24.6%	18.7%

④　就職率・県内・県外就職状況（自営者も含む）

		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	水産	情報	福祉	理数	英語	国際	総合	合計
就職率		23年	17.2%	50.9%	61.9%	42.4%	51.3%	71.0%	51.5%	70.7%	1.0%	9.1%	0.0%	44.8%	27.8%
		22年	17.9%	43.4%	59.6%	39.3%	65.1%	59.1%	39.4%	87.5%	0.0%	5.4%	0.0%	34.8%	26.6%
		21年	20.4%	54.4%	61.4%	50.3%	50.5%	62.3%	41.9%	78.0%	0.0%	2.9%		36.0%	30.5%
県内	人数	23年	734	182	337	198	22	20	15	21	1	4	0	129	1663
		22年	712	152	280	165	22	21	9	24	0	2	0	77	1464
		21年	736	186	309	200	32	12	8	25	0	0		71	1579
	構成率	23年	67.7%	69.5%	48.3%	64.1%	56.4%	45.5%	88.2%	72.4%	50.0%	44.4%	－－	72.5%	62.3%
		22年	61.5%	69.4%	42.6%	59.4%	53.7%	53.8%	69.2%	68.6%	－－	40.0%	－－	57.5%	56.8%
		21年	55.2%	69.4%	40.5%	51.9%	62.7%	36.4%	61.5%	64.1%	－－	0.0%		59.2%	52.5%
県外	人数	23年	350	80	361	111	17	24	2	8	1	5	0	49	1008
		22年	445	67	377	113	19	18	4	11	0	3	0	57	1114
		21年	597	82	454	185	19	21	5	14	0	3		49	1429
	構成率	23年	32.3%	30.5%	51.7%	35.9%	43.6%	54.5%	11.8%	27.6%	50.0%	55.6%	－－	27.5%	37.7%
		22年	38.5%	30.6%	57.4%	40.6%	46.3%	46.2%	30.8%	31.4%	－－	60.0%	－－	42.5%	43.2%
		21年	44.8%	30.6%	59.5%	48.1%	37.3%	63.6%	38.5%	35.9%	－－	100.0%		40.8%	47.5%

（注）進学率・就職率・構成率は小数第２位で四捨五入した値

資料６

秋田公立美術工芸短期大学の４年制大学化検討に関するアンケート調査

集計結果報告

集計･分析：(財)日本地域開発センター

目次

１－１．アンケート実施概要 ……1-1

１－２．美術系大学を取り巻く環境の検証 ……1-2

２－１．アンケート集計結果報告 ……2-1

３－１．調査結果の総括 ……3-1

1-1．アンケート実施概要

秋田公立美術工芸短期大学に入学実績のある高等学校のうち、北海道及び東北6県に在所する300校を対象に本校の４年制大学化に関するアンケートを実施した。

アンケートの質問内容の概要は次の通りである。

１．進路全般に関する項目

・在学生徒数

・希望進路

２．美術系４年制大学及び短大への進学希望者に関する項目

・入学実績の動向

・本年度の志望者数

・進路志望の傾向

３．秋田公立美術工芸短期大学に対する評価

・進路指導の視点から見た評価

・進路指導における本学の位置付け

・４年制大学化に関する評価

・進路指導において必要な情報提供

・４年制大学化に関する意見

■アンケートの実施時期と実施規模

配付時期　　：平成22年12月04日各高等学校に送付

回収期限　　：平成22年12月22日締切

（12月28日に未回答の高等学校にアンケートの協力を電話で要請）

アンケート対象：秋田公立美術工芸短期大学に入学実績のある北海道及び東北6県に在所する高等学校300校

（回答者として進路指導教諭又は美術教諭を指定）

サンプル数及び、回収率：下表の通り

	配付数	回収数	回収率
	(通)	(通)	
総数	300	162	54%

一般に行われる郵送配布、郵送回収によるアンケートの回収率は、20%から30%が標準的な割合である。今回のアンケートの回収率54%は同様のアンケートとしては高い数値の回収率を示している。

また、設問によっては、未回答の項目があるため、集計結果のパーセンテージが100%に満たない場合がある。

１－２．美術系大学を取り巻く環境の検証

アンケート調査結果の実施にあたって、美術系大学を取り巻く環境の検証を行う。

(1)．人口減少

北海道及び東北地方の０歳～19 歳の将来人口は、人口問題研究所による推計では、急激な減少となることが示されている。

北海道地域では、平成 17 年（2005 年）1,013 千人の人口が、20 年後の平成 37 年（2025 年）に 625 千人、30 年後の平成 47 年（2035 年）に 507 千人まで減少する。東北地方では、平成 17 年（2005 年）1,854 千人の人口が、20 年後の平成 37 年（2025 年）に 1,194 千人、30 年後の平成 47 年（2045 年）には 996 千人までに減少する。

平成 17 年の人口を 100 とした場合、平成 47 年には全国で 59.9 迄減少し、同様に北海道地方では 50.1、東北地方では 53.7 まで減少する。

秋田県では 47.5 まで減少すると推計され、全国平均を大きく上回るペースで０歳～19 歳の人口が減少すると推計されている。

将来の地域別0-19歳人口推計

今後の我が国の若年層人口は，総人口以上のペースで減少し，平成42年には，17年の水準の64%に下がる。もっとも減少する北海道が55%であり，東京は76%に減少。

		平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)
人数(単位:千人)	北海道	1,013	901	803	710	625	560	507
	東北	1,854	1,659	1,489	1,331	1,194	1,087	996
	北関東	1,372	1,262	1,156	1,038	930	848	788
	南関東	4,101	3,906	3,636	3,284	2,938	2,687	2,529
	東京	2,014	1,984	1,919	1,801	1,657	1,522	1,434
	甲信越	1,055	966	874	778	698	639	595
	北陸	593	548	501	447	399	365	341
	東海	2,964	2,801	2,614	2,373	2,148	1,990	1,888
	京都・大阪	2,153	2,029	1,878	1,677	1,496	1,363	1,274
	近畿	1,854	1,719	1,579	1,412	1,261	1,154	1,079
	中国	1,463	1,343	1,230	1,104	988	903	840
	四国	752	682	618	549	487	441	405
	九州	2,991	2,741	2,525	2,307	2,105	1,943	1,810
	全国	24,178	22,542	20,823	18,810	16,925	15,502	14,486
平成17年の人口を100とした場合	北海道	100.0	89.0	79.3	70.2	61.7	55.3	50.1
	東北	100.0	89.5	80.3	71.8	64.4	58.6	53.7
	北関東	100.0	92.0	84.3	75.7	67.8	61.8	57.5
	南関東	100.0	95.2	88.7	80.1	71.6	65.5	61.7
	東京	100.0	98.5	95.3	89.4	82.3	75.6	71.2
	甲信越	100.0	91.5	82.8	73.7	66.2	60.6	56.4
	北陸	100.0	92.4	84.6	75.4	67.2	61.5	57.5
	東海	100.0	94.5	88.2	80.1	72.5	67.1	63.7
	京都・大阪	100.0	94.3	87.3	77.9	69.5	63.3	59.2
	近畿	100.0	92.7	85.2	76.1	68.0	62.2	58.2
	中国	100.0	91.8	84.1	75.5	67.5	61.8	57.4
	四国	100.0	90.7	82.2	73.0	64.7	58.6	53.9
	九州	100.0	91.6	84.4	77.1	70.4	65.0	60.5
	全国	100.0	93.2	86.1	77.8	70.0	64.1	59.9

国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)」結果表・表3(1)を基に作成(出生中位・死亡中位で仮定)

出典：中央教育審議会大学分科会(第 78 回、平成 21 年 4 月 14 日)資料 2-2「大学の量的規模等に関連する資料」

将来の秋田県の 0-19 歳人口推計

	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)
0歳～19歳人口(千人)	198	173	151	131	116	104	94
平成17年を100とした場合	100.0	87.4	76.3	66.2	58.6	52.5	47.5

※　国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成 19 年 5 月推計)
結果表・表 3(1)を基に作成(出生中位・死亡中位で仮定)

(2). 大学をはじめとする高等教育機関の学校数動向

平成元年以降、大学数は増加している。短期大学は一様に減少を続けている。

大学は平成元年（1989 年）499 校から増加を続け、平成 22 年（2010 年）には 778 校を数えている。一方、短期大学は平成元年（1989 年）584 校あったが、平成 8 年（1996 年）598 校をピークに減少を続け、平成 22 年（2010 年）には 395 校となっている。また、専修学校は、平成 10 年（1998 年）3,573 校をピークに減少を続け、平成 22 年（2010 年）には 3,310 校となっている。

年号	高等専門学校	短期大学		大学		専修学校		西暦	短大・大学合計
		学校数	前年比増減数	学校数	前年比増減数	学校数	前年比増減数		
平成元	62	584		(1) 499		3,254		89	1083
2	62	593	9	(1) 507	8	3,300	46	90	1100
3	63	592	−1	(1) 514	7	3,370	70	91	1106
4	62	591	−1	(1) 523	9	3,409	39	92	1114
5	62	595	4	(1) 534	11	3,431	22	93	1129
6	62	593	−2	(1) 552	18	3,437	6	94	1145
7	62	596	3	(1) 565	13	3,476	39	95	1161
8	62	598	2	(1) 576	11	3,512	36	96	1174
9	62	595	−3	(1) 586	10	3,546	34	97	1181
10	62	588	−7	(1) 604	18	3,573	27	98	1192
11	62	585	−3	(1) 622	18	3,565	−8	99	1207
12	62	572	−13	(2) 649	27	3,551	−14	2000	1221
13	62	559	−13	(2) 669	20	3,495	−56	01	1228
14	62	541	−18	(2) 686	17	3,467	−28	02	1227
15	63	525	−16	(2) 702	16	3,439	−28	03	1227
16	63	508	−17	(4) 709	7	3,444	5	04	1217
17	63	488	−20	(4) 726	17	3,439	−5	05	1214
18	64	(1) 468	−20	(4) 744	18	3,441	2	06	1212
19	64	(1) 434	−34	(5) 756	12	3,435	−6	07	1190
20	64	(1) 417	−17	(6) 765	9	3,401	−34	08	1182
21	64	(1) 406	−11	(6) 773	8	3,348	−53	09	1179
22	60	(1) 395	−11	(6) 778	5	3,310	−38	10	1173

（注）1　国・公・私立の合計数である。
2　本校・分校の合計数である。
3　「大学」は新制大学のみである。
4　（　）内の数値は通信教育のみを行う 学校数で別掲である。
5　平成22年は速報値である。以下同じ。

データ出典：文部科学省「平成 22 年度学校基本調査」を基に編集作成

(3). 北海道・東北地方における美術系高等教育機関の現状

北海道・東北地方において、美術・デザイン関連を学べる大学は14校、短期大学は3校、専門学校は5校ある。その内、美術系大学は4校あるが、3校は北海道に所在し、東北地方には山形県にある東北芸術工科大学の1校のみである。また、公立の美術系大学は北海道にある札幌市立大学(デザイン学部)のみで、東北地方にはない。

	大学	短期大学	専門学校
北海道	**【美術系大学】** **●公立** **・札幌市立大学（デザイン学部）** ○私立 ・道都大学（美術学部） ・東海大学（旭川　芸術工学部）	**【美術系短期大学】** ○私立 ・札幌大谷大学短期大学部（美術科）	・札幌デザイナー学院 ・北海道造形デザイン専門学校 ・北海道芸術デザイン専門学校
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・北海道教育大学（教育学部） ○私立 ・北翔大学（生涯学習システム学部）		
青森県	**【美術系大学】** **なし**		
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・弘前大学（教育学部）		
岩手県	**【美術系大学】** **なし**		
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・岩手大学（教育学部）		
宮城県	**【美術系大学】** **なし**		・仙台デザイン専門学校
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・宮城教育大学（教育学部） ○私立 ・東北生活文化大学（家政学部） ・東北工業大学（ライフデザイン学部）		
秋田県	**【美術系大学】** **なし**	**【美術系短期大学】** **●公立** ・秋田公立美術工芸短期大学	
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・秋田大学（教育文化学部）		
山形県	**【美術系大学】** ○私立 ・東北芸術工科大学		・山形デザイン専門学校
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・山形大学（地域教育文化学部）		
福島県	**【美術系大学】** **なし**	**【美術系短期大学】** **○私立** ・郡山女子大学短期大学部（生活芸術科）	
	【教員養成等関連大学】 **●**国立 ・福島大学（人文社会学群）		

2-1　アンケート集計結果報告(詳細)

Ｏ：フェイスシート

(1)：アンケート配付高校概要

今回のアンケート調査は、本学に入学実績のある北海道及び東北6県に所在する高校300校を対象としている。
アンケートを送付した高校の所在地は、北海道、東北の全域に及ぶ。またその種別も普通科、商業高校や工業高校、農業高校などの職業科、通信制、単位制など幅広いものとなっている。
アンケートの回収率は、全体で54%である。
県別でみると、秋田県内の高校の回収率は90%である。また、他県の回収率は、岩手県が56%、山形県が51%の順で高い値を示している。
また、高校受験ナビによる偏差値別でみると、偏差値55以上59未満に位置づけられている高校からの回収率が高く62%となっている。
回収率から、秋田県内はもとより岩手県・山形県の高校が本学の4年制大学化に高い関心を持っていると考えられる。

県別配付校数

	配付数	回答数	回収率
合計	300	162	54%
北海道	52	19	37%
青森県	41	19	46%
岩手県	48	27	56%
宮城県	36	12	33%
秋田県	61	55	90%
山形県	43	22	51%
福島県	19	8	42%

公立・私立別

	配付数	回答数	回収率
合計	300	162	54%
私立高校	53	26	49%
公立高校	247	136	55%

偏差値別配付校数（高校受験ナビによる）

	配付数	回答数	回収率
合計	300	162	54%
偏差値64以上	12	5	42%
偏差値60以上64未満	29	14	48%
偏差値55以上59未満	42	26	62%
偏差値50以上54未満	64	33	52%
偏差値50未満	143	79	55%
その他	10	5	50%

(2)：回答教員属性

アンケートの回答者として、進路指導教諭又は美術教諭を指定し、アンケートを送付した。
アンケートで回答をしていただいた教員の属性は、進路指導教諭が131人でアンケート全体のうち81%、美術教諭が43人でアンケート全体のうち27%となっている。

	回答人数	割合
合計	162 人	100%
進路指導教諭	116 人	72%
美術教諭	28 人	17%
進路指導及び美術教諭兼任	5 人	3%
進路指導教諭及び美術教諭がそれぞれ回答	10 人	6%
無回答	3 人	2%

1：御校の進路全般について、お聞きします

問１ ：御校の生徒数を教えてください

各校の生徒数の規模は、各学年200人程度である。最大規模は1年生492人、2年生458人、3年生604人であり、最小規模は、1年生23人、2年生24人、3年生18人という結果となった。

学校規模別で分類すると全学生数が600人を超える高校が76校、300人以上600人未満の高校が65校、300人未満の高校が20校となっている。

各学年間の生徒数の差をみると、全体の平均でも、学校規模別の集計でも、1年生の生徒が最も多く、2年生になると学生数が少なくなっている。

(1)：単純集計

	平均	最大	最小
１年生（単位：人）	201	492	23
２年生（単位：人）	193	458	24
３年生（単位：人）	195	604	18

備考
・アートデザインコースなどの専門課程で分かれている高校がある。
・通信制高校、定時制では4年制となっている高校がある

(2)：学校規模別集計

	学校数	平均学生数		
		1年生	2年生	3年生
全学生数：600人以上	76	268.49	259.96	262.74
全学生数：300人以上600人未満	65	163.57	156.89	157.97
全学生数：300人未満	20	74.33	66.19	67.81

問２ ：３年生で進学を希望する生徒と就職を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください

単純集計による進学希望者数の平均をみると、3年生の生徒のうち72%が進学希望、27%の生徒が就職希望となっている。

一方、進学希望者の割合に着目し、学校数を整理（以下「進学率別」と呼ぶ）すると、進学希望80%以上の高校（以下「進学校」と呼ぶ）が84校で過半数を占め、52%となっている。進学希望50%以上80%未満の高校（以下「普通校」と呼ぶ）が43校で27%、進学希望50%未満の高校（以下「就職校」と呼ぶ）が35校で22%となっている。

このことから、本学に入学実績のある高校の内訳は、進学希望80%以上の進学校が過半数を占めていることが分かる。

(1)：単純集計

希望者数割合

	平均値
進学希望者	72%
就職希望者	27%

高校の傾向

	学校数	割合
合計	162 校	100%
進学希望者80%以上の高校数（進学校）	84 校	52%
進学希望者50%以上80%未満の高校数（普通校）	43 校	27%
進学希望者50%未満の高校数（就職校）	35 校	22%

問３　：進学を希望する生徒は今後どうなると考えますか。（１つ選んでください）

単純集計をみると、「変わらない」が56%と過半数を占めている。次いで、「やや多くなる」が28%、「多くなる」が11%で、合計39%を占めている。

進学率別でみると、進学校では、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて36%であり、「変わらない」が63%という結果となった。普通校では、「多くなる」「やや多くなる」が合計52%を占め、就職校では、「多くなる」「やや多くなる」が合計30%を占めている。

進学を希望する生徒の動向について、普通校では過半数の高校で「増加する」と考えている。また、進学校、就職校でも3割強の高校で進学希望の生徒が増加するという見通しを持っている。多くの高校で、進学を希望する生徒数は現状維持又は増加するという見通しであると考えられる。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．多くなる	17	11%
２．やや多くなる	45	28%
３．変わらない	90	56%
４．やや少なくなる	8	5%
５．少なくなる	0	0%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
母数（回答者総数）	84	42	34
１．多くなる	12%	12%	6%
２．やや多くなる	24%	40%	24%
３．変わらない	63%	40%	59%
４．やや少なくなる	1%	7%	12%
５．少なくなる	0%	0%	0%

問４　：進学希望者の中で、４年制大学、短期大学及び専門学校を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください。

単純集計をみると、進学希望者の占める割合の平均は、4年制大学への進学希望者は52%、短期大学への進学希望者は13%、専門学校への進学希望者は35%となった。

進学率別でみると、進学校では4年制大学への進学希望者が70%を占めている。普通校では4年制大学への進学希望者が34%を占め、専門学校への進学希望者が49%を占めている。また、就職校では、4年制大学への進学希望者が29%を占め、専門学校への進学希望者が57%を占めている。短期大学への進学希望者は、進学校、普通校、就職校全てにわたって、12%から15%である。

地域別でみると、秋田県内では、4年制大学への進学希望者が45%を占め、短期大学への進学希望者が20%を占めている。また、秋田県外では、4年制大学への進学希望者が55%を占め、短期大学への進学希望者が10%を占めている。秋田県内と秋田県外を比べると、４年制大学への進学希望者と短期大学への進学希望者とで10%ずつの違いが生じている。

進学希望者の生徒の多くは、４年制大学か専門学校を希望している。短大を希望する生徒の割合は少なく２割程度である。

(1)：単純集計

	平均値
１．４年制大学希望者	52%
２．短期大学希望者	13%
３．専門学校希望者	35%

（【注】各項目パーセンテージの平均値を表記しているため、縦軸の合計が100%にならない場合がある）

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
母数（回答者総数）	84	43	35
１．４年制大学希望者	70%	34%	29%
２．短期大学希望者	13%	15%	12%
３．専門学校希望者	18%	49%	57%

（【注】各項目パーセンテージの平均値を表記しているため、縦軸の合計が100%にならない場合がある）

(3)：地域別集計

	秋田県内	秋田県外
母数（回答者総数）	55	107
１．４年制大学希望者	45%	55%
２．短期大学希望者	20%	10%
３．専門学校希望者	39%	32%

（【注】各項目パーセンテージの平均値を表記しているため、縦軸の合計が100%にならない場合がある）

問５ ：進学先を希望する生徒の理由は何だと考えますか。（それぞれ最大２つまで選択）

単純集計をみると、4年制大学を希望する生徒の希望理由として考えられている項目は、「専門知識等を身につけたいから」が85%と最も多く、次いで「就職に有利だから」35%、「資格を取得したいから」33%の順となった。短期大学を希望する生徒の希望理由として考えられている項目は、「資格を取得したいから」が57%で最も多く、「専門知識等を身につけたいから」が41%となっている。また、「地元にあるから」「学費が安いから」がともに25%の値を示しており、他の進学先よりも大きい値を示している。専門学校を希望する生徒の希望理由として考えられている項目は、「資格を取得したいから」が82%で最も多く、「専門知識等を身につけたいから」が38%、「就職に有利だから」が33%の順となっている。

4年制大学を希望する生徒について、進学率別で比較を行うと、進学校、普通校、就職校、ほぼ同じ割合で項目が選択されている。「専門知識を身につけたいから」が最も多い。

短期大学を希望する生徒について、進学率別で比較を行うと、進学校では、「地元にあるから」を理由とする割合が30%で高い割合を占めている。また、「学費が安いから」は進学校、普通校では25%を超える割合となっている。

４年制大学、短期大学、専門学校では、進路を希望する理由が異なることが読み取れる。４年制大学を希望する生徒たちは「専門知識を身につける」「資格の取得」を重視していると考えられている。短期大学では、同じ項目の割合は高いものの、「地元にあること」「学費の安さ」も大きな要素であると考えられている。また、専門学校は「資格の取得」を際立って重視していると考えられている。

(1)：単純集計

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．専門知識等を身につけたいから	85%	41%	38%
２．資格を取得したいから	33%	57%	82%
３．就職に有利だから	35%	17%	33%
４．地元にあるから	9%	25%	7%
５．学費が安いから	3%	25%	7%
６．その他	7%	2%	1%

(2)：進学率別及び地域別集計

4年制大学を希望する生徒

	進学率別			地域別	
	進学校	普通校	就職校	秋田県	秋田県外
母数	84	43	35	55	107
１．専門知識等を身につけたいから	85%	77%	94%	89%	82%
２．資格を取得したいから	30%	40%	31%	35%	32%
３．就職に有利だから	40%	35%	20%	29%	37%
４．地元にあるから	10%	2%	17%	5%	11%
５．学費が安いから	4%	5%	0%	4%	3%
６．その他	6%	9%	9%	9%	7%

短期大学を希望する生徒

	進学率別			地域別	
	進学校	普通校	就職校	秋田県	秋田県外
母数	84	43	35	55	107
１．専門知識等を身につけたいから	32%	53%	49%	47%	38%
２．資格を取得したいから	55%	65%	54%	65%	53%
３．就職に有利だから	20%	9%	20%	13%	20%
４．地元にあるから	30%	16%	23%	27%	23%
５．学費が安いから	27%	26%	20%	15%	31%
６．その他	2%	2%	0%	4%	1%

専門学校を希望する生徒

	進学率別			地域別	
	進学校	普通校	就職校	秋田県	秋田県外
母数	84	43	35	55	107
１．専門知識等を身につけたいから	30%	44%	51%	42%	36%
２．資格を取得したいから	82%	81%	83%	84%	81%
３．就職に有利だから	32%	33%	34%	29%	35%
４．地元にあるから	6%	7%	9%	4%	8%
５．学費が安いから	6%	7%	9%	5%	7%
６．その他	2%	0%	0%	2%	1%

(3)：その他の理由

■４年制大学を希望

回答内容
様々な経験を通して人間形成したいから
広く教養を身につけ人間的成長を図る
学歴取得
幅広い人間形成、リーダーの素質等
生産管理・設計などの技術職や事務職に就くため
将来を模索するため
知的好奇心の探究、学問追及心
視野を広げ将来の選択肢を多くしたいから
保護者のアドバイス
スポーツの継続
就職したくない

■短期大学を希望

回答内容
幅広い人間形成、リーダーの素質等
就職したくない

■専門学校を希望

回答内容
入りやすいから

問６ ：それぞれの進学先を希望する生徒は、今後どうなると考えますか

単純集計をみると、4年制大学を希望する生徒について、「多くなる」「やや多くなる」と考えている高校が合わせて53%を占めている。短期大学を希望する生徒について、「少なくなる」「やや少なくなる」と考えている高校は合わせて26%を占めており、「多くなる」「やや多くなる」に比べて10%上回っている。専門学校を希望する生徒については、「多くなる」「やや多くなる」と考える高校が22%で、「少なくなる」「やや少なくなる」と考える高校が22%となっている。

進学率別でみると、進学校では、4年制大学への希望者が増加する（「多くなる」「やや多くなる」）と考える高校が全体の63%を占めている。一方で、短期大学への希望者は減少する（「やや少なくなる」「少なくなる」）と考えている高校が40%を占めている。専門学校への希望者についても、30%が減少すると考えている。

普通校では、4年制大学への希望者が増加すると考える高校が51%ある。また、短期大学への希望者が増加すると考える高校が23%ある。

就職校では、短期大学への希望者が増加すると考える高校が20%ある。専門学校への希望者が増加すると考えている高校は、46%ある。

多くの高校が４年制大学を希望する生徒が増加するという見通しを持っている一方で、短期大学を希望する生徒は、減少すると考えている。特に、進学校ではその傾向が顕著である。

(1)：単純集計

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．多くなる	15%	1%	2%
２．やや多くなる	38%	14%	20%
３．変わらない	38%	54%	50%
４．やや少なくなる	4%	19%	20%
５．少なくなる	1%	7%	2%

(2)：進学率別及び地域別集計

進学校

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．多くなる	19%	0%	0%
２．やや多くなる	44%	8%	11%
３．変わらない	35%	49%	54%
４．やや少なくなる	1%	29%	27%
５．少なくなる	0%	11%	5%

普通校

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．多くなる	16%	2%	7%
２．やや多くなる	35%	21%	19%
３．変わらない	35%	58%	51%
４．やや少なくなる	5%	9%	16%
５．少なくなる	2%	2%	0%

就職校

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．多くなる	3%	0%	3%
２．やや多くなる	29%	20%	43%
３．変わらない	51%	63%	40%
４．やや少なくなる	11%	9%	9%
５．少なくなる	3%	6%	0%

問７ ：それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向をお教えください

単純集計をみると、4年制大学を希望する生徒は、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」が合わせて53%であり、「地元志望が多い」を上回っている。短期大学を希望する生徒は、「地元志望が多い」が63%となっている。また、専門学校を希望する生徒は、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」を合わせて53%であり、「地元志望が多い」を上回っている。

進学率別にみると、4年制大学を希望する生徒及び専門学校を希望する生徒は、進学校、普通校、就職校にかかわらず、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」の合計が「地元志望が多い」を上回っている。短期大学を希望する生徒について、進学校、普通校、就職校の全てで「地元志望が多い」が60%を超えている。

地域別でみると、秋田県では、4年制大学を希望する生徒について、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」が合わせて65%となっている。

４年制大学を希望する生徒や専門学校を希望する生徒は、地元志向に拘らない傾向が強い。特に秋田県内の高校ではその傾向が強く出ている。一方、短期大学を希望する生徒は、地元志向が強い。

(1)：単純集計

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．地元志望が多い	44%	63%	42%
２，地元以外の志望が多い	22%	13%	25%
３．特にこだわらない	31%	19%	28%

(2)：進学率別集計

進学校

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．地元志望が多い	45%	62%	40%
２，地元以外の志望が多い	19%	10%	25%
３．特にこだわらない	35%	23%	29%

普通校

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．地元志望が多い	40%	60%	44%
２，地元以外の志望が多い	23%	19%	30%
３．特にこだわらない	33%	16%	21%

就職校

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．地元志望が多い	49%	69%	43%
２，地元以外の志望が多い	29%	14%	20%
３．特にこだわらない	23%	11%	37%

(3)：地域別集計

秋田県

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．地元志望が多い	35%	62%	25%
２，地元以外の志望が多い	27%	15%	38%
３．特にこだわらない	38%	20%	33%

秋田県外

	４年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
１．地元志望が多い	50%	64%	50%
２，地元以外の志望が多い	20%	12%	19%
３．特にこだわらない	28%	18%	26%

２：御校の美術系の４年制大学や短期大学を希望する生徒について、お聞きします

問８　：美術系の４年制大学や短期大学への入学実績を、昨年度と一昨年度で記入してください
問９　：美術系の４年制大学や短期大学を希望する生徒は、３年生で何人いますか。

単純集計をみると、美術系4年制大学では、一昨年から昨年度の入学実績、本年度志望者までの生徒数は、277人、272人、292人と推移している。一方美術系短期大学では、94人、105人、121人と推移している。

入学者を出している高校数の推移は、美術系4年制大学では、87校、82校、88校と推移し、美術系短期大学では、71校、65校、64校と推移している。

過去2年間に入学実績がある高校（以下「入学実績高校」という）1校当たりの入学生徒数は、美術系4年制大学では、3.2人、3.3人、3.3人と推移している。

進学率別集計でみると、美術系4年制大学では、各年の入学実績数、志望者数の8割が進学校で占められている。短期大学では、過半数が進学校の生徒で占められている。進学校における入学実績高校１校あたりの入学人数は、美術系4年制大学では3～4人程度、美術系短期大学では1.3～2.0人程度で推移している。

地域別集計でみると、秋田県では入学実績校1校当たりの入学実績数、本年度志望者数の推移は、2.0人、1.4人、1.6人であり、県外の入学実績校1校当たりの推移に比べて下回っているが、４年制大学への高校実績数は16校、20校、27校と年々増加している。

美術系4年制大学への入学実績校は、全体ではほぼ横ばいであるが、短大への入学実績校は減少する傾向を示している。

秋田県における美術系4年制大学への入学実績校は、増加傾向にある。

美術系4年制大学及び美術系短期大学への入学実績校の過半数は進学校で占められており、またその入学者数の割合も、進学校が大部分を占めている。

(1)：単純集計

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	277	272	292
２．美術系短期大学	94	105	121

②入学実績高校数の推移

母数　　162 校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	87	82	88
２．美術系短期大学	71	65	64

③集計平均（高校１校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	集計母数1校当たり	1.7	1.7	1.8
	入学実績高校1校当たり	3.2	3.3	3.3
２．美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.6	0.6	0.7
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.6	1.9

(2)：進学率別集計

進学校

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	236	230	253
２．美術系短期大学	53	64	71

②入学実績高校数の推移

母数　　84 校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	62	58	62
２．美術系短期大学	45	38	36

③集計平均（高校１校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	集計母数1校当たり	2.8	2.7	3.0
	入学実績高校1校当たり	3.8	4.0	4.1
２．美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.6	0.8	0.8
	入学実績高校1校当たり	1.2	1.7	2.0

普通校

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	30	31	21
２．美術系短期大学	24	25	35

②入学実績高校数の推移

母数　　43 校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	17	16	16
２．美術系短期大学	18	16	18

③集計平均（高校１校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	集計母数1校当たり	0.7	0.7	0.5
	入学実績高校1校当たり	1.8	1.9	1.3
２．美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.6	0.6	0.8
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.6	1.9

就職校

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	11	11	18
２．美術系短期大学	17	16	15

②入学実績高校数の推移

母数　　35 校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	8	8	10
２．美術系短期大学	8	11	10

③集計平均（高校１校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	集計母数1校当たり	0.3	0.3	0.5
	入学実績高校1校当たり	1.4	1.4	1.8
２．美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.5	0.5	0.4
	入学実績高校1校当たり	2.1	1.5	1.5

(3)：地域別集計

秋田県

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	32	28	42
２．美術系短期大学	41	50	60

②入学実績高校数の推移

母数　　55 校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	16	20	27
２．美術系短期大学	31	26	31

③集計平均（高校１校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	集計母数1校当たり	0.6	0.5	0.8
	入学実績高校1校当たり	2.0	1.4	1.6
２．美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.7	0.9	1.1
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.9	1.9

秋田県外

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	245	244	250
２．美術系短期大学	53	55	61

②入学実績高校数の推移

母数　　107 校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	71	62	61
２．美術系短期大学	40	39	33

③集計平均（高校１校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
１．美術系４年制大学	集計母数1校当たり	2.3	2.3	2.3
	入学実績高校1校当たり	3.5	3.9	4.1
２．美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.5	0.5	0.6
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.4	1.8

問10 ：美術系の４年制大学や短期大学を生徒に薦める際、重視することは何ですか。(最大2つを選択)

単純集計をみると、「生徒が希望する分野・コース等がある」が45%を占めている。次に、「教育内容の質が高い」が27%となっている。

回答教員属性別集計でみると、主な項目の割合は単純集計の場合と同じだが、美術教諭による回答では、「生徒の学力にあっている」という点が重視されている。

「生徒が希望する分野・コースなどがある」が美術系の4年制大学や短期大学の進路の選択において重要な要素となっている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．生徒が希望する分野・コース等がある	135	45%
２．就職に有利である	29	10%
３．生徒の学力にあっている	22	7%
４．教育内容の質が高い	80	27%
５．施設・工房等が充実している	24	8%
６．地元にある	3	1%
７．その他	4	1%

(2)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭		美術教諭	
	回答数	割合	回答数	割合
１．生徒が希望する分野・コース等がある	103	47%	36	43%
２．就職に有利である	22	10%	6	7%
３．生徒の学力にあっている	13	6%	10	12%
４．教育内容の質が高い	58	26%	23	28%
５．施設・工房等が充実している	19	9%	5	6%
６．地元にある	3	1%	1	1%
７．その他	2	1%	2	2%

(3)：その他の理由及び欄外の記入

その他の理由

回答内容
授業料や生活費や奨学制度
短大では編入も視野に入れられる
学校から出るエネルギーのようなもの…？抽象的ですみません
これまで美術系志望がなく、申し訳ありませんが不明です

欄外コメント

回答内容
学費のことも重要

問11 ：それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向を教えてください

単純集計をみると、美術系4年制大学を希望する生徒では、「関東志望が多い」「特にこだわらない」で56%を占めるが、美術系短期大学を希望する生徒では、「北海道・東北志望が多い」が57%を占めている。

進学率別集計でみると、就職校の美術系の短期大学を希望する生徒では「関東志望が多い」「特にこだわらない」で54%を占めている。

地域別集計を見ると、秋田県の美術系4年制大学を希望する生徒では、「関東志望が多い」「特にこだわらない」が62%を占めている。

美術系の4年制大学を希望する生徒は、一般の4年制大学希望者と同様に、地元志向にこだわらない傾向がある。一方、美術系短期大学を希望する生徒は地元・近県の学校を希望する傾向が強い。

(1)：単純集計

	美術系の４年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
１．北海道・東北志望が多い	63	43%	78	57%
２．関東志望が多い	21	14%	3	2%
３．特にこだわらない	62	42%	55	40%

(1)：進学率別集計

進学校

	美術系の４年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
１．北海道・東北志望が多い	40	49%	45	62%
２．関東志望が多い	12	15%	0	0%
３．特にこだわらない	30	37%	28	38%

普通校

	美術系の４年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
１．北海道・東北志望が多い	16	44%	20	57%
２．関東志望が多い	5	14%	2	6%
３．特にこだわらない	15	42%	13	37%

就職校

	美術系の４年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
１．北海道・東北志望が多い	7	25%	13	46%
２．関東志望が多い	4	14%	1	4%
３．特にこだわらない	17	61%	14	50%

(3)：地域別集計

秋田県

	美術系の４年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
１．北海道・東北志望が多い	19	38%	38	76%
２．関東志望が多い	10	20%	0	0%
３．特にこだわらない	21	42%	12	24%

秋田県外

	美術系の４年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
１．北海道・東北志望が多い	44	46%	40	47%
２．関東志望が多い	11	11%	3	3%
３．特にこだわらない	41	43%	43	50%

３：秋田公立美術工芸短期大学について、お聞きします。

問12 ：秋田公立美術短期大学に対する評価について伺います。

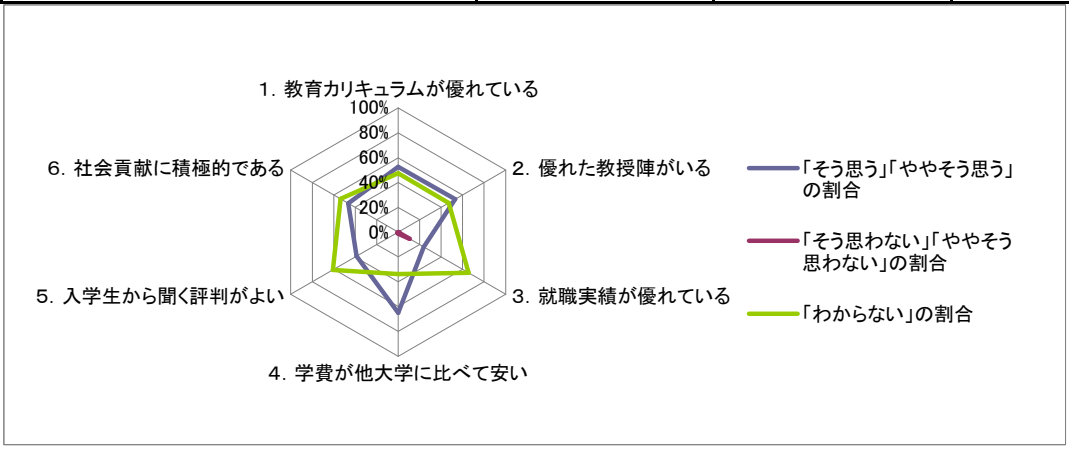
単純集計をみると、「学費が他大学に比べて安い」が「そう思う」「ややそう思う」を合わせて65%を占めている。その一方で、「就職実績が優れている」では、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて20%程度しか評価されていない。他の評価項目についても、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて40%程度の評価となっている。

回答教員属性別集計でみると、進路指導教諭では、「わからない」と回答した割合が、「学費が他大学に比べて安い」以外の全ての項目で50%を超える値を示している。一方、美術教諭による評価では、「就職実績が優れている」以外の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた値が70%を越えている。

学費の安さが大きな評価を得ている一方で、就職実績については高い評価を得られていない。また、美術教諭における本学の認知と評価は高いものの、進路指導教諭への認知は必ずしも高いものではない。

(1)：単純集計

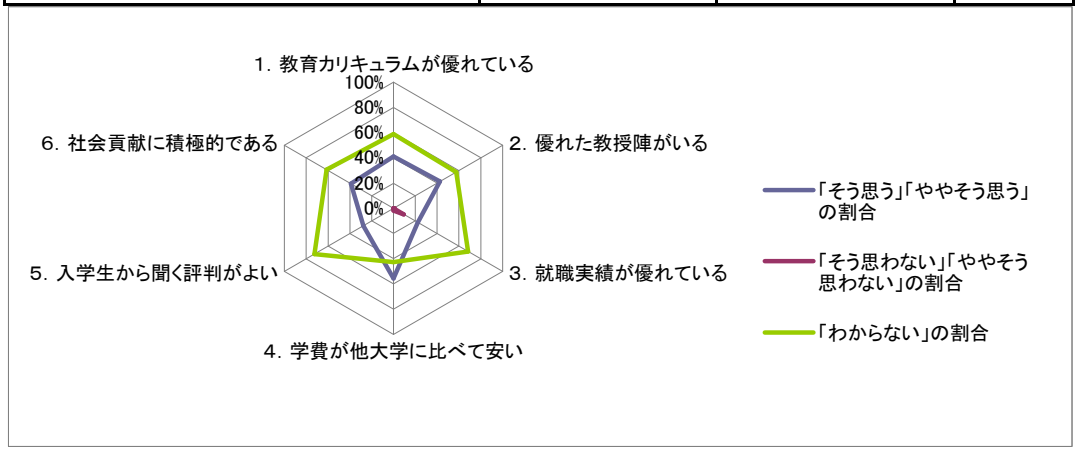
	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
１．教育カリキュラムが優れている	26	56	0	0	74
割合		53%		0%	47%
２．優れた教授陣がいる	33	50	0	0	73
		53%		0%	47%
３．就職実績が優れている	7	30	15	2	102
		24%		11%	65%
４．学費が他大学に比べて安い	59	43	2	0	53
		65%		1%	34%
５．入学生から聞く評判がよい	18	42	1	0	94
		39%		1%	61%
６．社会貢献に積極的である	21	51	0	0	83
		46%		0%	54%



(2)：回答教員属性別集計

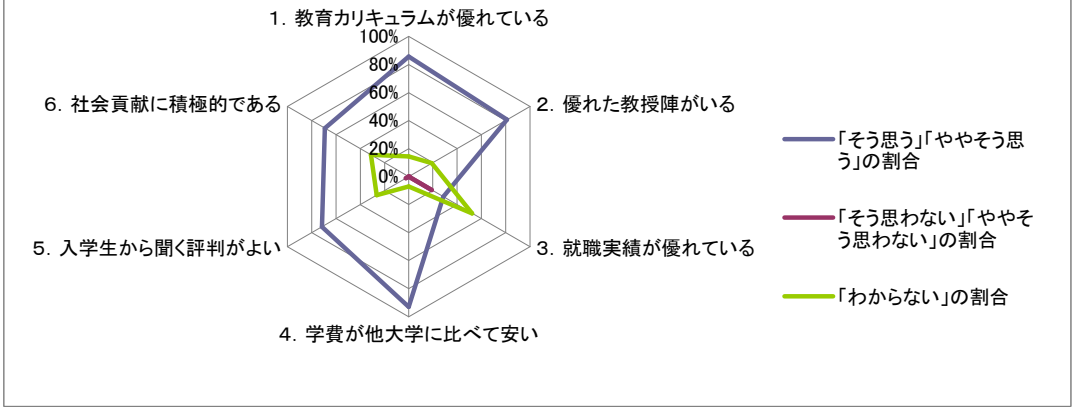
進路指導教諭

	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1．教育カリキュラムが優れている	15	33	0	0	69
		41%		0%	59%
2．優れた教授陣がいる	18	32	0	0	67
		43%		0%	57%
3．就職実績が優れている	4	22	10	1	80
		22%		9%	68%
4．学費が他大学に比べて安い	31	34	2	0	50
		56%		2%	43%
5．入学生から聞く評判がよい	7	25	0	0	84
		28%		0%	72%
6．社会貢献に積極的である	10	35	0	0	71
		39%		0%	61%



美術教諭

	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1．教育カリキュラムが優れている	11	25	0	0	6
		86%		0%	14%
2．優れた教授陣がいる	17	17	0	0	8
		81%		0%	19%
3．就職実績が優れている	3	9	6	2	22
		29%		19%	52%
4．学費が他大学に比べて安い	31	9	0	0	3
		93%		0%	7%
5．入学生から聞く評判がよい	10	20	1	0	11
		71%		2%	26%
6．社会貢献に積極的である	11	18	0	0	13
		69%		0%	31%



問13 ：秋田公立美術短期大学を美術系志望の生徒に薦める際、志望校としての位置付けを教えてください。（最大2つを選択）

単純集計をみると、「第一志望として薦めたい短大の１つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせて、58%を占めている。
進学率別集計では、「第一志望として薦めたい短大の１つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせた割合は、進学校では59%、普通校では55%、就職校では60%となった。
地域別集計では、「第一志望として薦めたい短大の１つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせてた割合は、秋田県が63%となった。
回答教員属性別では、美術教員において「第一志望として薦めたい短大の１つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせて占める割合が67%となった。
本学は、志望校としては薦められる短期大学として位置づけられているが、第一志望よりも併願校としての性格が強いと判断される。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．第一志望として薦めたい短大の1つ	59	25%
２．志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	77	33%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	85	36%
４．あまり積極的には薦められない短大の1つ	0	0%
５．その他	12	5%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．第一志望として薦めたい短大の1つ	20%	27%	36%
２．志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	39%	28%	24%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	36%	38%	36%
４．あまり積極的には薦められない短大の1つ	0%	0%	0%
５．その他	5%	7%	4%

(3)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
１．第一志望として薦めたい短大の1つ	31%	22%
２．志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	32%	34%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	36%	37%
４．あまり積極的には薦められない短大の1つ	0%	0%
５．その他	1%	7%

(4)：回答教員属性別集計

	回答数	進路指導教諭	美術教諭
１．第一志望として薦めたい短大の1つ	40	24%	30%
２．志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	52	31%	37%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	64	38%	31%
４．あまり積極的には薦められない短大の1つ	0	0%	0%
５．その他	11	7%	1%

(5)：その他の理由

回答内容
基本的には短大は薦めない
オープンキャンパスで確認させるようにしています
短大希望者はほぼいないといってよいので何ともいえない
遠いのが問題
これまで進学したことがない為わかりかねます
すみませんがあまり判らず回答できません
大変申し訳ありませんが勉強不足で分かりません
当該生徒がほとんどいないのでわからない
ほとんど情報がないので
まったくわからない
申し訳ありませんが不明です
わからない

問14 ：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になることは、受験生にとって好ましいと考えますか

単純集計をみると、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、66%を占めている。一方「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」を合わせて10%となった。

進学率別集計でみると、進学校では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、79%を占めている。普通校では、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、64%を占めているが、「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」を合わせて12%を占めている。また、就職校では、「どちらでもない」が40%を占め、「どちらかといえば好ましくない」が20%を占めている。

地域別集計でみると、秋田県では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、62%を占めている。一方で、「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」が合わせて10%を占めている。また、秋田県外では、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、69%を占めている。

回答教員属性別でみると、進路指導教諭では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、64%を占めている。美術教諭では、70%となっている。

本学の4年制大学化を「好ましい」と評価する割合が66%を占め、「好ましくない」の10%を大きく上回っている。特に、美術系大学の進学者の大多数を占める進学校の中での割合は79%を占めている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．好ましい	55	35%
２．どちらかといえば好ましい	49	31%
３．どちらでもない	38	24%
４．どちらかといえば好ましくない	14	9%
５．好ましくない	1	1%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．好ましい	44%	33%	17%
２．どちらかといえば好ましい	35%	31%	23%
３．どちらでもない	18%	24%	40%
４．どちらかといえば好ましくない	4%	10%	20%
５．好ましくない	0%	2%	0%

(3)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
１．好ましい	32%	37%
２．どちらかといえば好ましい	30%	32%
３．どちらでもない	28%	22%
４．どちらかといえば好ましくない	8%	10%
５．好ましくない	2%	0%

(4)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭	美術教諭
１．好ましい	30%	50%
２．どちらかといえば好ましい	34%	20%
３．どちらでもない	25%	23%
４．どちらかといえば好ましくない	10%	8%
５．好ましくない	1%	0%

問15 ：「好ましい」「どちらかといえば好ましい」と回答した理由（最大2つを選択）

単純集計をみると、「４年制大学の選択肢が増えるから」が37%を占め、次いで「授業料の安い国公立大学が増えるから」が25%、「幅広い知識を身につけたい受験生が多いから」が24%を占めている。

進学率別集計をみると、進学校では、「４年制大学の選択肢が増えるから」が40%を占め、次いで「授業料の安い国公立大学が増えるから」が32%となっている。普通校では、「４年制大学の選択肢が増えるから」が40%を占め、「幅広い知識を身につけたい受験生が多いから」が31%を占めている。就職校では、「幅広い知識を身につけたい受験生が多いから」が35%を占め、次いで「４年制大学は就職に有利だから」が23%を占めている。

「4年制大学の選択肢が増えること」と「授業料の安い国公立大学が増えること」が大きなメリットとして認識されている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．幅広い知識を身につけたい受験生が多いから	43	24%
２．４年制大学の選択肢が増えるから	66	37%
３．４年制大学は就職に有利だから	12	7%
４．授業料の安い国公立大学が増えるから	45	25%
５．その他	11	6%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．幅広い知識を身につけたい受験生が多いから	19%	31%	35%
２．４年制大学の選択肢が増えるから	40%	40%	19%
３．４年制大学は就職に有利だから	5%	2%	23%
４．授業料の安い国公立大学が増えるから	32%	12%	19%
５．その他	4%	14%	4%

(3)：その他の理由

回答内容
地域に根ざした学び・取組みが期待できるから
秋田の美術のレベルが高くなる
短大の存在意義が薄れてきている。高学歴化の現在、大学卒が普通になってきている。
やはり短大で美術工芸を学ぶのには限界があると思います。
４年制になる事でより多くの資格が取れると思うので
短大では学ぶ時間が足りないと思うから
２年では短い
４年制大学への編入を考えず、学びに集中できるから。
他の（県内４年制）大学での「ゼロ免課程」検討の話に危機感を抱く中。貴学の教職資格取得可能なカリキュラムの検討に期待したから
短大も残してもらえると選択の幅が増える。
よく分からないが受験生にとっては１だと思う

問16 ：「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」と回答した理由（最大2つを選択）

単純集計をみると、「経済的な負担が増えるから」が41%を占め、次いで「合格水準が上がると入学が難しくなるから」「短期大学の選択肢が減るから」がともに21%を占めている。

進学率別集計をみると、進学校では、「短期大学の選択肢が減るから」が38%を占め、次いで「経済的な負担が増えるから」が25%を占めている。普通校では、「経済的な負担が増えるから」が40%を占め、次いで「合格水準が上がると入学が難しくなるから」が30%を占めている。就職校では、「経済的な負担が増えるから」が55%を占めている。

「経済的な負担の増加」が4年制大学化の一番のデメリットとして挙げられている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．短期大学で十分という受験生が多いから	4	14%
２．合格水準が上がると入学が難しくなるから	6	21%
３．短期大学の選択肢が減るから	6	21%
４．経済的な負担が増えるから	12	41%
５．その他	1	3%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．短期大学で十分という受験生が多いから	13%	20%	9%
２．合格水準が上がると入学が難しくなるから	13%	30%	18%
３．短期大学の選択肢が減るから	38%	10%	18%
４．経済的な負担が増えるから	25%	40%	55%
５．その他	13%	0%	0%

(3)：その他の理由

回答内容
編入を前提と出来なくなる

問17 ：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になることによる、受験を希望する生徒数の見通しについて

単純集計をみると、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて56％である。

進学率別集計をみると、進学校では、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて68％である。普通校では、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて52％であるが、一方で「やや少なくなる」「少なくなる」を合わせて12％となっている。就職校では、「変わらない」が52％を占め、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて29％を占めている。「やや少なくなる」「少なくなる」を合わせて19％である。

地域別をみると、秋田県が「多くなる」「やや多くなる」を合わせて49％であり、秋田県外は、59％を占めている。

過半数の56％の高校で、受験を希望する生徒数は増加すると考えている。地域別でも、秋田県で49％、秋田県外でも59％の高校が、受験を希望する生徒数が増加すると考えている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．多くなる	23	16%
２．やや多くなる	58	40%
３．変わらない	51	35%
４．やや少なくなる	12	8%
５．少なくなる	2	1%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．多くなる	19%	15%	10%
２．やや多くなる	49%	37%	19%
３．変わらない	27%	37%	52%
４．やや少なくなる	4%	10%	16%
５．少なくなる	1%	2%	3%

(3)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
１．多くなる	12%	18%
２．やや多くなる	37%	41%
３．変わらない	39%	33%
４．やや少なくなる	8%	8%
５．少なくなる	4%	0%

問18 ：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になった場合、美術系志望の生徒に薦める際の志望校としての位置付け（最大2つを選択）

単純集計をみると、「第一志望として薦めたい大学の一つ」「志望校および併願校として薦めたい大学の1つ」を合わせて63%である。

進学率別をみると、進学校では、「第一志望として薦めたい大学の一つ」「志望校および併願校として薦めたい大学の1つ」を合わせて70%となった。普通校及び就職校では、同じ項目で、それぞれ60%、53%を占めている。

地域別をみると、同様の項目で、秋田県では73%、秋田県外でも59%を占めている。

回答教師属性別でみると、同様の項目で、進路指導教諭では59%、美術教諭では74%を占めている。

4年制大学になることにより、短大時の位置づけに比べ、「第一志望として進めたい大学」が5ポイント上回っている。特に進学校では、11ポイントほど増加している。

秋田県内においても、短大時の位置づけに比べて「第一志望として薦めたい大学」が10ポイント上回っている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．第一志望として薦めたい大学の1つ	68	30%
２．志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	75	33%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	75	33%
４．あまり積極的には薦められない大学の1つ	1	0%
５．その他	5	2%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．第一志望として薦めたい大学の1つ	31%	31%	29%
２．志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	39%	29%	24%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	27%	36%	47%
４．あまり積極的には薦められない大学の1つ	0%	2%	0%
５．その他	3%	2%	0%

(3)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
１．第一志望として薦めたい大学の1つ	41%	25%
２．志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	32%	34%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	27%	37%
４．あまり積極的には薦められない大学の1つ	1%	0%
５．その他	0%	3%

(4)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭	美術教諭
１．第一志望として薦めたい大学の1つ	27%	37%
２．志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	32%	37%
３．生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	37%	25%
４．あまり積極的には薦められない大学の1つ	1%	0%
５．その他	3%	0%

(5)：その他の理由

回答内容
今は東北芸術工科大第一希望が多いが４年制大学になれば、ほとんど秋田さんの方へ本校生徒は流れると思う。
希望が有れば考える
志望生徒が出た際に検討したいと思います
卒業後専門を生かした職種に進みたい場合は薦めない
卒業年が出て一定の評価が出るまでは指導が難しい

問19 ：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、生徒に身につけさせたい知識や能力は何ですか。（最大2つを選択）

単純集計をみると、「専門的な知識・技術」が43%を占め、続いて「創造力・デザイン力」が25%、「社会人として対応できるスキル」が17%となっている。

進学率別をみると、「専門的な知識・技術」は進学校、普通校、就職校ともに、40%以上を占めている。進学校では、普通校や就職校に比べて「創造力・デザイン力」の占める割合が大きい。就職校では、「社会人として対応できるスキル」が進学校や普通校と比べて24%と大きい値を示している。

回答教諭属性別をみると、進路指導教諭では、「幅広い教養」が占める割合が12%を占め、美術教師の同じ項目に比べて大きい。

4年制大学になることで「専門的な知識・技術」「創造力・デザイン力」の育成を期待している教諭が多い。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．専門的な知識・技術	132	43%
２．幅広い教養	33	11%
３．創造力・デザインカ	76	25%
４．コミュニケーション能力	16	5%
５．社会人として対応できるスキル	53	17%
６．その他	0	0%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．専門的な知識・技術	42%	45%	40%
２．幅広い教養	9%	12%	12%
３．創造力・デザインカ	29%	20%	21%
４．コミュニケーション能力	6%	6%	3%
５．社会人として対応できるスキル	14%	17%	24%
６．その他	0%	0%	0%

(3)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭	美術教諭
１．専門的な知識・技術	42%	45%
２．幅広い教養	12%	5%
３．創造力・デザインカ	25%	23%
４．コミュニケーション能力	4%	8%
５．社会人として対応できるスキル	17%	19%
６．その他	0%	0%

(5)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）

回答内容
実は１，２，３，４全て
地域（東北全体を含む）との連携

問20 ：秋田公立美術短期大学が4年制大学になった場合、大学に望むものは何ですか(最大2つを選択)

単純集計をみると、「就職支援体制」が36%を占め、次いで「優れたカリキュラム」が31%占めている。

進学率別をみると、進学校では「優れたカリキュラム」が33%を占め、次いで「就職支援体制」が31%となっている。普通校では、「就職支援体制」が40%を占め、次いで「優れたカリキュラム」が33%となっている。就職校では「就職支援体制」が、42%を占め、次いで「優れたカリキュラム」が23%となっている。

4年制大学化に向けて、「優れたカリキュラム」と「就職支援体制」をつくることが求められている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．優れたカリキュラム	93	31%
２．優れた教授陣	54	18%
３．就職支援体制	107	36%
４．授業料の安さ	41	14%
５．その他	5	2%

(2)：進学率別集計

進学希望者別集計　全生徒数80%以上が進学希望

	進学校	普通校	就職校
１．優れたカリキュラム	33%	33%	23%
２．優れた教授陣	21%	14%	15%
３．就職支援体制	31%	40%	42%
４．授業料の安さ	12%	12%	18%
５．その他	2%	1%	2%

(3)：その他の理由

回答内容
秋田県の美術教育と文化の向上
教職課程の設置。教職課程での学生の学びの経験は、新たな刺激や、表現の可能性、コミュニケーション能力の育成に結びつくと思っています。
産学連携や地域とのつながり
ハイレベルな芸術性を身につけるための指導力と相応の実績
美術教師のいない高校も多く、工芸やデザインの内容を理解しないまま進学する事も予想されるので遠い地域（県北県南）にも説明会や体験学習で知ってから選択する機会が欲しい

(4)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）

回答内容
芸術家・作家としての経歴も大事だが社会との連結を考えれば優れた指導者・教育者の充実がより大事かと思う。現在の美工短は非常に充実している
教授先生方のチームワーク、高等学校への支援

問21 ：秋田公立美術短期大学での最もニーズがあると思われるコースと分野

単純集計をみると、「グラフィックデザイン」「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」が60%を超える値を示している。

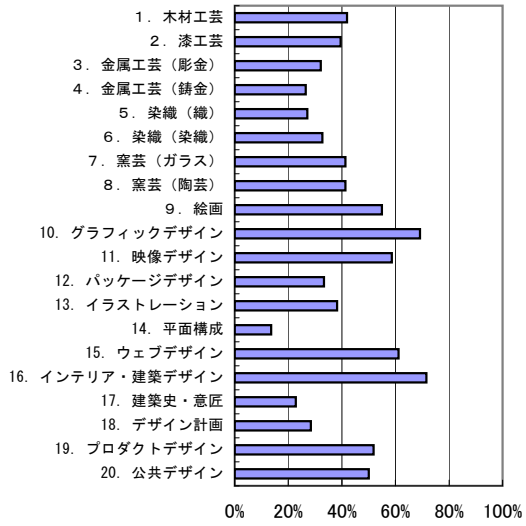
地域別でみると、秋田県では単純集計の結果と同様に「グラフィックデザイン」「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」等が60%を超える値を示している。一方、秋田県外では、、「グラフィックデザイン」「映像デザイン」「インテリア・建築デザイン」が60%を超える値を示している。

回答教諭属性別でみると、進路指導教諭では、「グラフィックデザイン」「インテリア・建築デザイン」が60%を超える値を示している。一方、美術教諭では、「窯芸(ガラス)」「絵画」「グラフィックデザイン」「映像デザイン」「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」「プロダクトデザイン」が60%を超える値を示している。

全体では、「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」などがニーズがあると認識されている。美術教諭では、「プロダクトデザイン」が最もニーズがあると認識されている。

(1)：単純集計

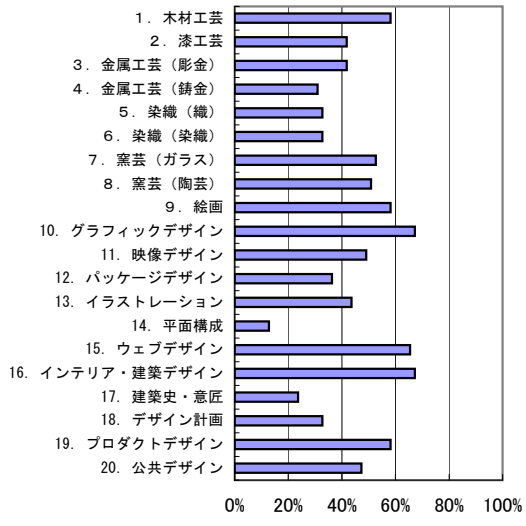
	支持数
1．木材工芸	42%
2．漆工芸	40%
3．金属工芸（彫金）	32%
4．金属工芸（鋳金）	27%
5．染織（織）	27%
6．染織（染織）	33%
7．窯芸（ガラス）	41%
8．窯芸（陶芸）	41%
9．絵画	55%
10．グラフィックデザイン	69%
11．映像デザイン	59%
12．パッケージデザイン	33%
13．イラストレーション	38%
14．平面構成	14%
15．ウェブデザイン	61%
16．インテリア・建築デザイン	72%
17．建築史・意匠	23%
18．デザイン計画	28%
19．プロダクトデザイン	52%
20．公共デザイン	50%



(2)：地域別集計

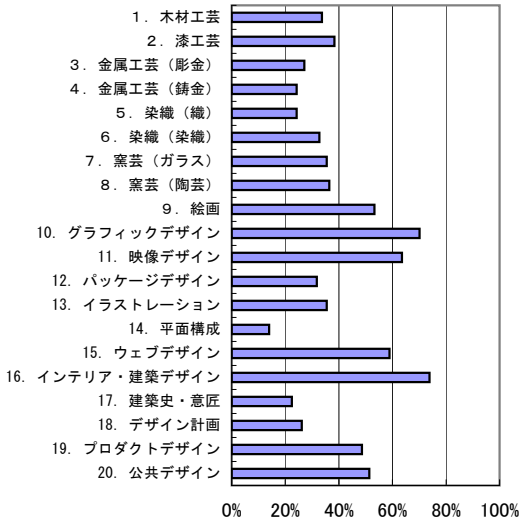
秋田県

	支持数
1．木材工芸	58%
2．漆工芸	42%
3．金属工芸（彫金）	42%
4．金属工芸（鋳金）	31%
5．染織（織）	33%
6．染織（染織）	33%
7．窯芸（ガラス）	53%
8．窯芸（陶芸）	51%
9．絵画	58%
10．グラフィックデザイン	67%
11．映像デザイン	49%
12．パッケージデザイン	36%
13．イラストレーション	44%
14．平面構成	13%
15．ウェブデザイン	65%
16．インテリア・建築デザイン	67%
17．建築史・意匠	24%
18．デザイン計画	33%
19．プロダクトデザイン	58%
20．公共デザイン	47%



秋田県外

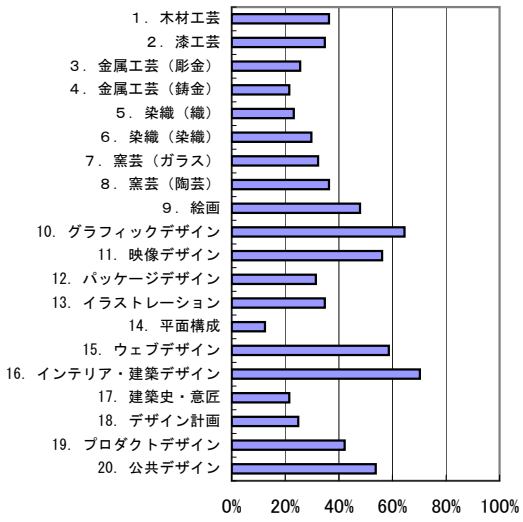
	支持数
1．木材工芸	34%
2．漆工芸	38%
3．金属工芸（彫金）	27%
4．金属工芸（鋳金）	24%
5．染織（織）	24%
6．染織（染織）	33%
7．窯芸（ガラス）	36%
8．窯芸（陶芸）	36%
9．絵画	53%
10．グラフィックデザイン	70%
11．映像デザイン	64%
12．パッケージデザイン	32%
13．イラストレーション	36%
14．平面構成	14%
15．ウェブデザイン	59%
16．インテリア・建築デザイン	74%
17．建築史・意匠	22%
18．デザイン計画	26%
19．プロダクトデザイン	49%
20．公共デザイン	51%



(3)：回答教員属性別集計

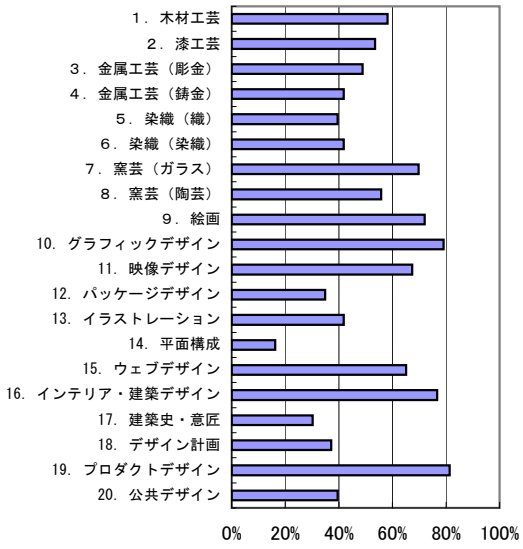
進路指導教諭

	支持数
1．木材工芸	36%
2．漆工芸	35%
3．金属工芸（彫金）	26%
4．金属工芸（鋳金）	21%
5．染織（織）	23%
6．染織（染織）	30%
7．窯芸（ガラス）	32%
8．窯芸（陶芸）	36%
9．絵画	48%
10．グラフィックデザイン	64%
11．映像デザイン	56%
12．パッケージデザイン	31%
13．イラストレーション	35%
14．平面構成	12%
15．ウェブデザイン	59%
16．インテリア・建築デザイン	70%
17．建築史・意匠	21%
18．デザイン計画	25%
19．プロダクトデザイン	42%
20．公共デザイン	54%



美術教諭

	支持数
1．木材工芸	58%
2．漆工芸	53%
3．金属工芸（彫金）	49%
4．金属工芸（鋳金）	42%
5．染織（織）	40%
6．染織（染織）	42%
7．窯芸（ガラス）	70%
8．窯芸（陶芸）	56%
9．絵画	72%
10．グラフィックデザイン	79%
11．映像デザイン	67%
12．パッケージデザイン	35%
13．イラストレーション	42%
14．平面構成	16%
15．ウェブデザイン	65%
16．インテリア・建築デザイン	77%
17．建築史・意匠	30%
18．デザイン計画	37%
19．プロダクトデザイン	81%
20．公共デザイン	40%



問22 ：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学に移行する場合、開学までに高等学校が必要とする情報は何ですか

単純集計をみると、「４年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報」「４年制大学の学生募集や入学試験の情報」が83%を占めており、次いで「４年制大学で取得できる資格等の情報」が76%を占めている。
進学率別でみると、単純集計と同じ傾向を示すものの、就職校では「４年制大学への３年次編入の情報」が40%を占めている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．４年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報	134	83%
２．４年制大学で取得できる資格等の情報	123	76%
３．４年制大学の学生募集や入学試験の情報	135	83%
４．４年制大学への３年次編入の情報	59	36%
５．４年制大学の教授陣の情報	56	35%
６．その他	10	6%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
１．４年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報	85%	79%	83%
２．４年制大学で取得できる資格等の情報	74%	81%	74%
３．４年制大学の学生募集や入学試験の情報	83%	86%	80%
４．４年制大学への３年次編入の情報	36%	35%	40%
５．４年制大学の教授陣の情報	35%	40%	29%
６．その他	6%	2%	11%

(3)：その他コメント

回答内容
①4年制になる良い点について。生徒にとってのメリット ②2年制の時とどこが違うかアピールポイントを！！
Web上でのリアルタイムな情報
学費
学費全般・寮等学生が増えることへの対応
学費と生活
就職支援プログラムの内容
卒業後の進路先等
短大から４年制になることで就職（求人）の枠は増えてくるのか？
予想される就職先

(4)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）

回答内容
短大が完全になくなるのかどうか、今までのような推薦の形をとるのか（受験の形）

問23 ：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になった場合、高等学校が受験希望者のために大学に求めることは何ですか。

単純集計をみると、「出張進学説明会」が69%を占めており、次いで「デッサン講習会」が41%を占めている。

地域別でみると、秋田県では「出張進学説明会」が64%を占めており、次いで「デッサン講習会」が56%を占めている。秋田県外では「出張進学説明会」が72%を占めており、次いで「デッサン講習会」が34%を占めている。

回答教諭属性別でみると、美術教諭では、「出張進学説明会」が79%を占めており、次いで「出張授業」が47%を占めている。

受験希望者に対する支援として、「出張進学説明会」を求めている高校が多く69%を占めている。特に、地域別で秋田県外に着目すると、高校の72%が希望している。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．出張進学説明会	112	69%
２．デッサン講習会	67	41%
３．デザイン（平面構成等）講習会	52	32%
４．出張授業	52	32%
５．その他	8	5%

(2)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
１．出張進学説明会	64%	72%
２．デッサン講習会	56%	34%
３．デザイン（平面構成等）講習会	44%	26%
４．出張授業	36%	30%
５．その他	7%	4%

(3)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭	美術教諭
１．出張進学説明会	62%	79%
２．デッサン講習会	39%	37%
３．デザイン（平面構成等）講習会	30%	30%
４．出張授業	25%	47%
５．その他	2%	12%

(4)：その他コメント

回答内容
オープンキャンパス（送迎付き）
芸大美大の併願先になれるような受験科目と受験日程の設定
高教研美術部会が短大で行っている実技講習会などを引き続き協力的に行って頂くこと
進学説明会（出張不要）
生徒自らが調べられる態勢、ネット上の情報公開等
人間交流(高・大の連携による)
志望者がいないので特に求めません
送迎バス等

(5)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）

回答内容
１は出張ではなく大学内でも良い。４は出張ではなく大学内や他の施設でも良い
オープンキャンパス
高等学校との交流
志望する生徒のため
専門外なので詳しくは判りませんが合格に必要なスキルが確認できれば良いと思います
多面的評価によるAO入試
東北芸工大さんの授業は何度か受けました

問24 ：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になった場合、教職・学芸員の資格を取得できる方が学生にとって好ましいと考えますか。

単純集計では、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、95%を占め、４年制大学化により、教職・学芸員の資格取得を希望する回答が圧倒的に多い。

(1)：単純集計

	回答数	割合
１．好ましい	123	76%
２．どちらかといえば好ましい	31	19%
３．どちらでもない	6	4%
４．どちらかといえば好ましくない	1	1%
５．好ましくない	0	0%

問25 ：平成25年4月開学を目処とする4年制大学への移行に対する意見

肯定的評価の記述が、記述回答の72%を占めている。一方、否定的な評価は、全体の7%である。多くの記述が好意的な内容となっている。

主な意見として、「芸術系の国公立大学が東北にできることに対して期待をしている」記述が多く見られた。「大学自体が増えることによる進路先の選択肢の増加」、そして、「学費の安い4年制大学ができることなどが評価」されている。また、4年制大学になることにより、「時間をかけて充分な知識や技術を身につけられる」ことなどが期待されている。

「開学時期についても、早期開学を望む」記載が多く、平成25年4月開学の目処についても好意的に受け止められている。

要望事項を「開学時期に関する記述」「入試・カリキュラム等に関する記述」「就職に関する記述」「情報提供・情報発信に関する記述」「地域貢献に関する記述」「経済的に関する記述」に分類整理を行った。

「開学時期に関する記述」では、早期実現を要望する記述がみられた。

「入試・カリキュラム等に関する記述」では、入試に関して、入試難易度が上がることによる地元学生の入学が難しくなることの懸念。芸大などの入試等への配慮などを求める記述が記載されていた。運営体制については、短大の機能も併存することを要望する記述がある。また、カリキュラムについて、周辺の美術学校との差別化を明確にするなどの要望が記載されていた。

「就職に関する記述」では、卒業生の就職先の確保に関する要望等が記載されている。特に、4年制化によって短大と比べて何が有利になるのかを示す要望などがあった。

「情報提供・情報発信に関する記述」では、他大との違いを明確にアピールしてほしいとの要望が記載されている。また、就職・進路の情報や入試情報などの速やかな発信などが要望として記載されている。

「地域貢献に関する記述」では、地域の産業界などの連携を求める記述がみられる。また、就職や進路先への受け皿がないことによる人材の県外流出などの懸念等の記載がある。

(1)：記述からみる評価の整理

	回答数	割合
１．肯定的評価	82	72%
２．否定的評価	8	7%
３．中立的意見	24	21%
４．無回答	48	-

(2)：記述からみる要望の整理

		回答数
１．懸念	合計数	74
	開学時期に関する記述	16
	入試･カリキュラム等に関する記述	21
	就職に関する記述	6
	情報提供・情報発信に関する記述	16
	地域貢献に関する記述	10
	経済的な問題に関する記述	5

問26 ：秋田公立美術短期大学が4年制大学になることに対する意見

肯定的評価の記述が、記述回答の56%を占めている。一方、否定的な評価は、全体の6%を占めている。

美術系を志望する学生にとって、公立の美術大学が身近にできることを大きなメリットとして評価する記述が多く見られた。また、4年制大学になることによりカリキュラムが充実する期待などが記載されている。他県の高校の中には、推薦枠を希望する学校も見られた。同様に今後、受験生に推薦したいという記載も見られた。

4年制大学になることによって短期大学以上に地域貢献を果たすことを期待する記述も見られた。大学と地域の企業が連携して、地元に人材を根付かせるなどの仕組みなどを提案する記載などもある。大学のみならず、大学院まで設置できないかという提案も見られる。

記述項目の中の要望事項を「入試・カリキュラム等に関する記述」「就職に関する記述」「情報提供・情報発信に関する記述」「地域貢献に関する記述」「経済的に関する記述」に分類整理を行った。

「入試・カリキュラム等に関する記述」では、入試に関して、芸大などの美術大学と同じような水準の入試を求める記述などがあった。カリキュラムについては、就職などの進路の確保も見据えた内容を求める記述が多くみられる。また、他大との差別化を要望する記載などもみられる。

「就職に関する記述」では、4年制化によってもたらされるメリットを示してほしいという要望が記載されている。また、人材が県外へ流出することへの要望等が記載されている。

「情報提供・情報発信に関する記述」では、人材育成や進路の方向性、出口の確保の方針などを示してほしいという要望が多く寄せられている。また、周辺大学や、高校、企業等との連携などを求める記載がある。

「地域貢献に関する記述」では、前述のような地域連携とともに、地元企業との産学連携などのコーディネートなどを要望する記載とともに、県内の受験生に対する配慮や、県内の進学者に対する経済的支援の要望等の記載がある。

(1)：記述からみる評価の整理

	回答数	割合
1．肯定的評価	53	56%
2．否定的評価	6	6%
3．中立的意見	35	37%
4．無回答	68	-

(2)：記述からみる要望の整理

		回答数
1．懸念	合計数	73
	入試･カリキュラム等に関する記述	21
	就職に関する記述	16
	情報提供・情報発信に関する記述	11
	地域貢献に関する記述	12
	経済的な問題に関する記述	13

3－1．調査結果の総括

(1)．アンケート調査結果の総括

0)．クロス集計の概要

本アンケートでは、単純集計とともに次の分類項目でクロス集計を行った。

①進学率別集計

問 2 における高校の進学希望者数を基に、アンケートを回答した高校を、進学校、普通校、就職校に分類し集計を行った。

・進学校：3 年生のうち、進学希望者数の割合が 80%以上を占める学校
・普通校：3 年生のうち、進学希望者数の割合が 50%以上 80%未満を占める学校
・就職校：3 年生のうち、進学希望者数の割合が 50%未満の学校

②地域別集計

回答した高校を所在地ごとに分類し、集計を行った。

・秋田県：秋田県に所在する高校
・秋田県外：秋田県以外の道県に所在する高校

③回答教員属性別集計

アンケートを回答している教員の種別に応じて集計を行った。

・進路指導教諭
・美術教諭

1)．アンケートの調査結果総括：高校の進路全般に関して（アンケート問 1～問 7）

問 1：御校の生徒数を教えてください

各校の生徒数の規模は、各学年 200 人程度である。最大規模は 1 年生 492 人、2 年生 458 人、3 年生 604 人であり、最小規模は、1 年生 23 人、2 年生 24 人、3 年生 18 人という結果となった。

学校規模別で分類すると全学生数が 600 人を超える高校が 76 校、300 人以上 600 人未満の高校が 65 校、300 人未満の高校が 20 校となっている。

各学年間の生徒数の差をみると、全体の平均でも、学校規模別の集計でも、1 年生の生徒が最も多く、2 年生になると学生数が少なくなっている。

問 2. ３年生で進学を希望する生徒と就職を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください

進学希望者数の平均をみると、3 年生の生徒のうち 72%が進学希望、27%の生徒が就職希望となっている。

また、進学率別のクロス集計で見ると、回答数 162 校の内、84 校が進学校となっており、本学に入学実績のある高校の内、過半数が進学校からの入学であることが分かる。

問３：進学を希望する生徒は今後どうなると考えますか。（１つ選んでください）

進学希望する生徒の動向について、普通校では過半数の高校で増加すると考えている。また、進学校、就職校でも３割強の高校で進学希望の生徒が増加するという見通しを持っている。今後は、多くの高校で、進学を希望する生徒数は増加するという見通しであると考えられる。

問４：進学希望者の中で、４年制大学、短期大学及び専門学校を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください。

進学を希望者する生徒は、過半数が４年制大学を希望し、４割程度が専門学校を希望している。なお、短大を希望する生徒の割合は非常に少なく１割程度である。

問５：進学先を希望する生徒の理由は何だと考えますか。（それぞれ最大２つまで選択）

４年制大学、短期大学、専門学校では、進路を希望する理由が異なることが読み取れる。４年制大学を希望する生徒は「専門知識を身につける」「資格の取得」を重視していると考えられる。短期大学では、同じ項目の割合は高いものの、「地元にあること」「学費の安さ」も大きな要素であると考えられる。また、専門学校は「資格の取得」を際立って重視していると考えられる。

短期大学は、比較的、「地元志向」や「安価な学費」を重視して希望する生徒が多く、「専門知識の取得」や「卒業後の就職」については、あまり重視されていないと判断される。

問６：それぞれの進学先を希望する生徒は、今後どうなると考えますか

多くの高校が４年制大学を希望する生徒が増加するという見通しを持っている。

また、短期大学を希望する生徒は、減少すると考えている。特に、進学校ではその傾向が顕著である。

問７：それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向をお教えください

４年制大学を希望する生徒や専門学校を希望する生徒は、地元志向にこだわらない傾向が強い。特に秋田県内の高校ではその傾向が強く出ている。

短期大学を希望する生徒は、秋田県内、秋田県外共に、地元志向が強い。

2). アンケートの調査結果総括：美術系の 4 年制大学や短期大学を希望する生徒の動向と見通し（アンケート問 8～問 11）

問 8：美術系の４年制大学や短期大学への入学実績を、昨年度と一昨年度で記入してください
及び
問 9：美術系の４年制大学や短期大学を希望する生徒は、３年生で何人いますか。

美術系 4 年制大学への入学実績校は、全体ではほぼ横ばいであるが、美術系短期大学への入学実績校は減少する傾向を示している。

秋田県における美術系 4 年制大学への入学実績校は、増加傾向にある。

美術系 4 年制大学及び美術系短期大学への入学実績校の過半数は進学校で占められており、また、その入学者数の割合も、進学校が大部分を占めている。

問 10：美術系の４年制大学や短期大学を生徒に薦める際、重視することは何ですか。（最大 2 つを選択）

「生徒が希望する分野・コースなどがある」が美術系の 4 年制大学や短期大学の進路の選択において重要な要素となっている。

また、その他の記述から、奨学金制度や編入制度についても重要な要素になると思われる。

問 11. それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向を教えてください

美術系の 4 年制大学を希望する生徒は、一般の 4 年制大学希望者と同様に、地元志向にこだわらない傾向がある。一方、美術系短期大学を希望する生徒は地元・近県の学校を希望する傾向が強い。

現在、東北・北海道に所在する美術系の大学の学校が少ないため、志望先の大学の所在地にこだわらない傾向があると考えられる。ただし、美術系 4 年制大学への希望者のうち 43%は「北海道・東北志望」としているため、４年制大学でも一定の近県志望があると考えられる。また、問 25 や問 26 の「本学の 4 年制大学化に関する自由記述」の質問においても、公立の美術大学ができることに対して賛同する記述が非常に多いことから、本学の 4 年制大学化へのニーズは高いと考えられる。

3). 本学が 4 年制大学化を進めていくことに対する評価と意見(アンケート問 12～問 26)

問 12：秋田公立美術短期大学に対する評価について伺います。

学費の安さが大きな評価を得ている一方で、就職実績については高い評価を得られていない。また、美術教諭における本学の認知と評価は高いものの、進路指導教諭の認知は必ずしも高いものではない。

問 10 の美術系 4 年制大学などへの進路を薦める際に重視する点において、「生徒が希望する分野・コース等がある」という項目が 45%と最も大きい割合を占めていることと、進路指導教諭の認知度の低さとの差を、4 年制大学化の検討を通して埋めていくことが今後の課題の一つとなると考えられる。

問 13：秋田公立美術短期大学を美術系志望の生徒に薦める際、志望校としての位置付けを教えてください。（最大 2 つを選択）

本学は、志望校としては薦められる短期大学として位置づけられているが、第一志望よりも併願校としての性格が強い。

問 4 では、短期大学への進学希望者の割合が低いことが示され、問 6 では、進学の希望者の見通しでも減少が見込まれている。これらの点から、高校卒業後の進路先として、短期大学は積極的な選択肢として取り上げられていないと考えられる。

問 14：秋田公立美術工芸短期大学が 4 年制大学になることは、受験生にとって好ましいと考えますか

本学の 4 年制大学化を「好ましい」と評価する割合が 66%を占め、「好ましくない」の 10%を大きく上回っている。特に、美術系大学の進学者の大多数を占める進学校の中での割合は 79%を占めている。

問 15：問 14 の回答で「好ましい」「どちらかといえば好ましい」と回答した理由（最大 2 つを選択）

「4 年制大学の選択肢が増えること」と「授業料の安い国公立大学が増えること」が大きなメリットとして認識されている。

現在、東北・北海道における国公立の美術系 4 年制大学は、1 校しかなく、本学が 4 年制大学になることの意義は大きい。問 25 や問 26 の自由記入においても、4 年制大学化に対する好意的な意見や、期待が綴られた内容が大半となっている。

問 16：問 14 の回答で「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」と回答した理由（最大 2 つを選択）

「経済的な負担の増加」が 4 年制大学化の一番のデメリットとして挙げられている。

短期大学への進学を希望する生徒からみた「経済的な負担の増加」に対する懸念の一方で、4 年制大学への進学を希望する生徒からみると、国公立の 4 年制大学が地元にできることで「経済的な負担が軽減」される。問 6 では 4 年制大学の希望者は今後増えるという見通しを持った高校が多いことを配慮すると、4 年制大学化は多くの生徒にメリットがあると言える。

問 17：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になることによる、受験を希望する生徒数の見通しについて

過半数の 56%の高校で、受験を希望する生徒数は増加すると考えている。地域別でも、秋田県で 49%、秋田県外でも 59%の高校が、受験を希望する生徒数が増加すると考えている。

問 18：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になった場合、美術系志望の生徒に薦める際の志望校としての位置付け（最大 2 つを選択）

第一志望や併願校に薦めたいという割合が短大時の 58%から 63%に増加している。

4 年制大学になることにより、短大時の位置づけに比べ、「第一志望として進めたい大学」が 5 ポイント上回っている。特に進学校では、11 ポイント増加している。

秋田県内においても、短大時の位置づけに比べて「第一志望として薦めたい大学」が 10 ポイント上回っている。

問 19：秋田公立美術工芸短期大学が 4 年制大学になった場合、生徒に身につけさせたい知識や能力は何ですか。（最大 2 つを選択）

4 年制大学化になることで「専門的な知識・技術」「創造力・デザイン力」の育成を期待している教諭が多い。

問 15 の記入欄には、「2 年では短い」「4 年制になる事でより多くの資格が取れると思うので」などをはじめ、4 年制大学になる事によって、短大の倍の修業時間が得られ、より専門的な知識・技術を習得できることに期待を寄せている。

問 20：秋田公立美術短期大学が 4 年制大学になった場合、大学に望むものは何ですか（最大 2 つを選択）

4 年制大学化に向けて、「優れたカリキュラム」と「就職支援体制」をつくることが求められている。

問 21：秋田公立美術短期大学での最もニーズがあると思われるコースと分野

全体では、「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」などのニーズがあると認識されている。美術教諭では、「プロダクトデザイン」が最もニーズがあると認識されている。

問 22：秋田公立美術工芸短期大学が 4 年制大学に移行する場合、開学までに高等学校が必要とする情報は何ですか

単純集計をみると、「４年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報」「４年制大学の学生募集や入学試験の情報」が 83%を占めており、次いで「４年制大学で取得できる資格等の情報」が 76%を占めている。

問 23：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になった場合、高等学校が受験希望者のために大学に求めることは何ですか。

受験希望者に対する支援として、「出張進学説明会」を求めている高校が多く 69%を占めている。特に、地域別で秋田県外に着目すると、高校の 72%が希望している。

問５の結果より、進学校、普通校、職業校のそれぞれに進学する生徒の理由が異なることから、それぞれの高校の特性に合わせた、出張進学説明会を行うことが有効であると考えられる。

問 24：秋田公立美術工芸短期大学が４年制大学になった場合、教職・学芸員の資格を取得できる方が学生にとって好ましいと考えますか。

「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、95％を占めている。

４年制大学化により、教職・学芸員資格の取得を求める回答が圧倒的であり、問５の「進学先を希望する生徒の理由」と照らし合わせても、４年制化による資格の取得は必須であると判断される。

問 25：平成 25 年 4 月開学を目処とする 4 年制大学への移行に対する意見

肯定的評価の記述が、記述回答の 72％を占めている。一方、否定的な評価は、全体の 7％であり、多くの記述が好意的な内容となっている。

開学時期については、「早期開学を望む」記載が多く、平成 25 年 4 月開学の目処についても好意的に受け止められている。

また、主な意見として、「芸術系の国公立大学が東北にできることに対して期待をしている」記述が多く見られた。「大学自体が増えることによる進路先の選択肢の増加」、そして、「学費の安い 4 年制大学ができること」などが評価されている。また、「4 年制大学になることにより、時間をかけて充分な知識や技術を身につけられること」などが期待されている。

問 26：秋田公立美術短期大学が 4 年制大学になることに対する意見

肯定的評価の記述が、記述回答の 56％を占めている。一方、否定的な評価は、全体の 6％である。

美術系を志望する学生にとって、「公立の美術大学が身近にできることを大きなメリットとして評価する」記述が多く見られた。また、「4 年制大学になることによりカリキュラムが充実することに期待する」などが記載されている。「他県の高校の中には、推薦枠を希望する」学校も見られた。同様に今後、「受験生に推薦したい」という記載も見られた。

４年制大学になることによって「短期大学以上に地域貢献を果たすことを期待する」記述も見られた。「大学と地域の企業が連携して、地元に人材を根付かせるなどの仕組みなどを提案する」記載などもある。大学のみならず、「大学院まで設置」できないかという提案も見られた。

(2)．アンケート調査結果に基づく考察

アンケートの問 14 の「秋田公立美術短期大学が 4 年制大学になることは、受験生にとって好ましいと考えますか」に対し、「好ましい」（35%）、「どちらかといえば好ましい」（31%）と、回答の内 66%の高等学校が、4 年制化への取り組みについて好意的な評価を行っている。

また、自由記述の設問である問 25 の「平成 25 年 4 月開学を目処とする 4 年制大学への移行に対する意見」では 82 件の肯定的な回答が得られ、問 26 の「4 年制大学になることに対する意見」でも 53 件の肯定的な回答が得られており、かつ、早期開学を求める要望も多く、本学の 4 年制大学化への関心や期待は非常に高いものと考えられる。

これらの期待感が顕著になっている一方で、4 年制化の実現に向けて、また実現後の周辺環境の動向も見据えながら検討を重ねるためにも、その論点を整理しておく必要がある。

1)．高校の特性から考察されること

今回のアンケート調査では、進学率の割合から、回答した高校を進学校（進学率 80%以上）、普通校（50%以上 80%未満）、就職校（50%未満）という分類を行い、分析を進めた。美術系大学及び短大の今年度志望者を含めた過去 2 年間の実績をみると、美術系大学の進学者の 80%以上、美術系短期大学の 60%近くが進学校からの生徒であることが明らかになった。また、問 4 の「進学希望者それぞれのパーセンテージ」では大学、短期大学、専門学校の各分野への進学希望の割合等から、普通校及び就職校では、4 年制大学を志望校に選ぶことよりも、卒業後直ぐ就職に結びつくような進路を希望する傾向があることが分かった。一部の大学及び短大側も各種学校的で資格が取れることをＰＲするところもある。

問 5 の「進学先を希望する理由」をみると、大学、短期大学、専門学校などを志望する生徒の具体的な目的は、各分野で、かなり違いがある。

これらから、進学校の生徒、普通校の生徒、就職校の生徒の進路進学を選ぶ土台に違いがあることが伺える。具体的には、普通校や就職校の生徒は、直接卒業後の進路や就職に結びつくスキルを求める傾向があるが、進学校では「知的好奇心」に代表される教養を身につけることを期待して進学先を選ぶ傾向が強いと考えられる。

大学・短大は、どのような生徒をターゲットとして学生を募集するかによって学科のカリキュラムなどに大きな違いが生じることが推察される。

2)．４年制大学化による地域貢献の考え方

アンケートでは、4 年制大学化が歓迎される一方で、地元学生に対して入学の配慮などの要望なども自由記入欄で記載されている。しかし、美術系の高等教育機関に限った場合、秋田県内の高等学校から美術系大学や美術系短期大学へ進学する進学実績（問 8 及び問 9）は、秋田県外からの進学実績と比べて、短期大学では同程度であるものの、4 年制大学では少なくなっている。むしろ、近県を含めた周辺からの生徒が、当学の４年生大学化に対する期待を持っていると考えられる。近隣県の進学校の生徒が当学を希望することによって、受験者数が増加することが期待される。

このことは、今後の人口推計における若年層の減少や大都市への流出に対する歯止めと、大学が立地する地域への貢献の足がかりとして極めて重要である。美術系をはじめとしたクリエイティブな分野の人材を輩出する地域は、都市の魅力や地域の魅力の情報発信をする核として機能し、またそこに集まる交流人口の増加を促すことにもなる。

そして、近県から集まる生徒を、地元に根付かせる事ができれば、人口減少によって生じる地元地域の経済活動の停滞や衰退を抑えるとともに、地域の情報発信力と魅

力を高める効果も生まれるであろう。そのためには、地元への就職や進路先を整備する準備を早期から行う必要がある。いわゆる、「入口」もそうだが「出口」の整備である。

例えば、横浜市がクリエイティブシティ（文化芸術創造都市）を 2006 年頃から始動したのに呼応するように「横浜美術短期大学」が学生募集を停止し、2010 年４月１日から４年制の「横浜美術大学」として生まれ変わったことに注目せざるを得ない。

3)．美術系大学に対する認知度について

問 12 の当学の評価からも伺えるとおり、地域の中で大学の活動や理念がうまく情報発信されていないように思える。回答教諭属性別による分析では、進路指導教諭の場合、多くの項目で「わからない」が選択されており、当学の特性や、基本的な情報が伝わっていないことが明らかとなっている。

問 25 及び問 26 の自由回答欄では、地域ぐるみの情報発信なども要望として上げられており、地域貢献、産学連携等と関連した複合的な情報発信を行う必要がある。

資料6

平成２３年２月１６日

秋田市長

穂　積　　志　様

要　望　書

秋田公立美術工芸短期大学の四年制大学化の実現について

秋田県高等学校長協会

会　長　　菊　谷

秋田公立美術工芸短期大学は、創立以来広く地域に開かれた大学として、多様化する生涯学習のニーズに対応しながら特色ある社会貢献活動を展開するなど、その活動の成果は高く評価されているところであります。また、高大連携講座やプロフェッショナルの活用、美術系大学進学実技講習会への支援等をとおして、県内高等学校の芸術教育に対してご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、近年１８歳人口は減少しているものの、高学歴志向に伴い四年制大学への進学を希望する高校生の割合は年々増加する傾向にあります。しかし、美術系大学を志願する高校生にとって、東北地方には公立の四年制大学がないことから、首都圏の大学への進学を余儀なくされ家庭の経済的な負担も大きくなっております。

このような状況の中で、秋田公立美術工芸短期大学の教育内容をさらに充実させ、より豊かな教養と深い専門性を身につけた人材の育成を目指して公立の美術系四年制大学にすることは、県内外の受験希望者の増大につながっていくものと思われます。そして、秋田の伝統や文化を生かし発展させる大学、新しい芸術領域を創造し挑戦する大学、秋田から世界へ発信するグローバルな人材を育成する大学、まちづくりに貢献し地域社会とともに歩む大学としての魅力を名実ともに高めることによって、他の大学に負けない競争力を備えていくものと考えます。

さらに学生の集う秋田市は、教育立県を掲げる本県のイメージを一層高め、芸術・文化を生かしたまちづくりをとおして、都市イメージを向上させることにもつながっていくものと確信します。

以上のことから、２０１３年度の秋田公立美術工芸短期大学の四年制大学化を実現されるよう強く要望いたします。

資料10

美短卒業生の進路状況および就職内定状況

（平成23年４月30日現在）

（１）進路希望調査状況

（単位；人）

学生区分	学　　科	卒業者数	就　職 希望者	専攻科	他大学等	一時的な 就職希望者	その他 （未定含む）
本科生	工芸美術	５９	３８	１０	5	2	4
	産業デザイン	７６	５８	7	１１	－	－
	小　　計	１３５	９６	１７	１６	2	4
		(100.0%)	(71.1%)	(12.6%)	(11.8%)	(1.5%)	(3.0%)
専攻科生	工芸美術	１１	7	－	4	－	－
	産業デザイン	8	8	－	－	－	－
	小　　計	１９	１５	－	4	－	－
		(100.0%)	(78.9%)	(0%)	(21.1%)	(0%)	(0%)
	合　　計	１５４	１１１	１７	２０	2	4
		(100.0%)	(72.1%)	(11.0%)	(13.0%)	(1.3%)	(2.6%)
	再　　計	１５４	１４８名（96.1%）			６名（3.9%）	

（２）学科別就職内定状況

（単位；人）

学　　科	学生区分	就　職 希望者	就職者	内定率
工芸美術	本科生	３８	２４	６３．２%
	専攻科生	7	6	８５．７%
	計	４５	３０	６６．７%
産業デザイン	本科生	５８	４３	７４．１%
	専攻科生	8	7	８７．５%
	計	６６	５０	７５．６%
	合　　計	１１１	８０	７２．１%

※就職者８０人のうち、正規雇用３９人・非正規雇用４１人

（３）年度別進路状況

（単位；人）

年　度	卒業・ 修了者数	就　　職				進　　学		その他
		希望者	決定者	未定者	就職率	本　学 専攻科	他大学等	
平成２２年度	１５４	１１１	８０	３１	７２．１%	１７	２０	6
平成２１年度	１５４	１０１	７２	２９	７１．３%	１７	２１	１５
平成２０年度	１７０	９１	７１	２０	７８．０%	１５	２８	３６
平成１９年度	１５１	６９	６０	9	８７．０%	２４	１９	３９
平成１８年度	１５２	８０	７２	8	９０．０%	１５	１４	４３
平成１７年度	１６０	７７	７２	5	９３．５%	１２	２２	４９

（４）年度別正規・非正規就職状況　　（単位；人）

年　度	正規 就職者数	非正規 就職者数	合計	正規 就職者の割合	非正規 就職者の割合
平成２２年度	３９	４１	８０	４８．８％	５１．３％
平成２１年度	３７	３５	７２	５１．４％	４８．６％
平成２０年度	４４	２７	７１	６２．０％	３８．０％
平成１９年度	４１	１９	６０	６８．３％	３１．７％

H22年度美短卒業生就職先一覧（H23.4.30時点）

資料11

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
1	産業	デザイン計画	ノリット・ジャポン	正規	ブランディング開発・企画、書籍、カタログ、雑誌、ウェブサイトなどの企画・編集・デザイン制作、新規プロジェクト、イベントの企画、アドバイス、商品企画、販売	デザイナー
2	工芸	金属工芸・彫金	(株)Ｊ-one	正規	オリジナルジュエリーの製造販売、および大手ブランドOEM受託	制作スタッフ
3	産業	グラフィックデザイン	株式会社トラストネットワーク	非正規	放送関連事業（テレビ局技術者）、人材派遣業（テレビ局での送出技術、放送準備、制作技術、番組制作等）	
4	工芸	木材工芸	秋田木工株式会社	正規	家具製造	製造（家具製造）
5	産業	イラストレーション	株式会社こどもの館	正規	キャラクター雑貨・玩具を主体とする玩具類の企画、開発・デザイン制作および各種造形活動	
6	産業	建築史・意匠	比内時計工業(株)	正規	精密機械器具（時計・同部分品）	事務
7	産業	映像デザイン	花巻農業協同組合	正規	販売、指導、経済、信用、共済、共同の各種事業	一般事務
8	工芸	金属工芸・彫金	(株)ベルモード	正規	婦人服製造業	縫製（布の裁断、縫製など）
9	産業	建築史・意匠	(株)大栄木工	正規	木製防火戸・木製一般ドア・和風建具	技術職（建具の設計図製作）
10	工芸	染織・織	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員
11	産業	映像デザイン	(有)マゼンタ	正規	デザイン事務所	デザイナー
12	工芸	漆工芸	(株)わらび座	正規	劇団全国公演、温泉・ホテル業、酒類製造販売(地ビール)	舞台スタッフ
13	産業	デザイン計画	(株)アメニティ	正規	独自の製品・システムによるトイレ総合メンテナンスのFC本部 ●トイレの環境改善を目的とした専門店 ・トイレの4K問題を究明するためのトイレ診断 ・トイレの4K問題を解決する予防メンテナンス ・トイレ環境改善に必要な商品の開発 ●上下水道水周りの環境改善 ・施設全体の使用水量の適正化確認中	事務
14	産業	グラフィックデザイン	積水ハウス(株)	非正規	建設業(住宅、アパート等請負施工)、不動産業(建売住宅、土地等販売)	インテリアコーディネート（３年契約）
15	産業	ウェブデザイン	(有)マゼンタ	正規	デザイン事務所	デザイナー
16	産業	グラフィックデザイン	(株)スペースプロジェクト	正規	イベント企画・制作、舞台美術、証明・音響、デザイン	デザイナー
17	産業	パッケージデザイン	(株)内藤デザイン事務所	正規	オリジナルブランド製品のデザイン・製造・販売、ライセンスブランド製品のデザイン・製造・販売。	
18	工芸	漆工芸	秋田朝日放送（株）	非正規	放送事業	短期契約社員(3年、延長あり)
19	産業	グラフィックデザイン	（有）アシスト實務工房	正規	フリーペーパーの発行、住宅雑誌の編集、ホームページの制作	DTPデザイナー
20	産業	イラストレーション	鹿角市役所	非正規	公務	臨時職員
21	産業	建築･インテリアデザイン	和光技研(株)	正規	建設コンサルタント	技術職（3D CADオペレーター・土木設計）
22	工芸	木材工芸	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員
23	産業	映像デザイン	（株）山形コミュニティ新聞社	正規	やまがたコミュニティ新聞の発行、チラシ等のポスティング、広告代理業	グラフィックデザイナー（試用期間：３カ月）
24	産業	ウェブデザイン	(有)インフォテック	正規	パソコンサポート、パソコンメンテナンス、Webコンテンツ制作及び運用管理受諾、コンピューター販売、ネットワーク構築、ソフト開発・保守、コンピュータ教育	Webデザイナー
25	工芸	絵画	幻冬舎	非正規	書籍・雑誌の発行及び販売業務	
26	産業	映像デザイン	（株）アジタス	正規	Webデザイン、グラフィックデザイン、Web制作、	
27	産業	パッケージデザイン	（株）アジタス	正規		
28	工芸	窯芸（陶芸）	(有)サービスマート	正規	飲食業	接客
29	工芸	窯芸（ガラス）	秋田市中央図書館明徳館	非正規	公務	
30	工芸	窯芸（ガラス）	(株)澤口写真館	正規	写真撮影制作、写真集制作販売	カメラ撮影
31	産業	ウェブデザイン	宮城県仙台教育事務所	非正規	事務	
32	産業	プロダクト	秋田市大森山動物園	非正規	飼育員	２年間
33	産業	イラストレーション	秋田市大森山動物園	非正規	飼育員	２年間
34	産業	グラフィック	青森県立美術館	非正規	美術館	６カ月
35	工芸	染織（織）	エフジー工業	正規		トライアル雇用（試用期間３カ月）
36	産業	デザイン計画	（株）ドリームワールド	正規	飲食店員	
37	産業	イラストレーション	東京新宿ベジブル株式会社	正規		

38	産業	イラストレーション	シュープラザ	非正規		
39	産業	パッケージデザイン	（株）ヨドバシカメラ	正規		
40	産業	イラストレーション	角館総合病院	非正規	事務	
41	産業	公共デザイン	特定非営利法人　不登校を考える親の会あきた	正規		
42	産業	ウェブデザイン	特定非営利法人　不登校を考える親の会あきた	正規		
43	産業	グラフィックデザイン	彌高神社	非正規	神社（巫女）	
44	工芸	染織・織	秋田公立美術工芸短期大学教務補助員	非正規		
45	工芸	染織・織	(株)モリタ	正規		
46	工芸	染織・染色	九州三菱自動車	正規	営業・事務	
47	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ	(株)みどり光学社	非正規		
48	産業	建築・ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ENOTECA Olmo del Caucaso	正規	ホールスタッフ	
49	産業	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ	米沢織物工業組合	非正規	織物業	
50	産業	ﾃﾞｻﾞｲﾝ計画	秋田学術振興財団	正規	事務職員	
51	産業	ﾃﾞｻﾞｲﾝ計画	奥州市商工観光部	非正規	事務職員	
52	工芸	木材工芸	(株)ジェイファクトリー	非正規	飲食業	
53	工芸	金属工芸・彫金	自営	正規		
54	工芸	染織・織	米織会館	正規		
55	工芸	染織・織	千秋軒	非正規		
56	工芸	染織・染色	ﾐｽﾀｰﾄﾞｰﾅｯﾂ	非正規		
57	工芸	染織・染色	NPO法人あきた地域資源ネットワーク	非正規		チャレンジオフィスあきた内
58	工芸	窯芸・陶芸	ダイソー	非正規		
59	工芸	窯芸・陶芸	マツモトキヨシ	非正規		
60	工芸	絵画	県臨時職員	非正規		
61	工芸	絵画	スクールIE大曲店	非正規		
62	工芸	絵画	(株)ナイス新屋店	非正規		
63	産業	映像ﾃﾞｻﾞｲﾝ	イタリア料理ラサラ	非正規		
64	産業	ﾊﾟｯｹｰｼﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	セブンイレブン	正規		
65	産業	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ	さきがけ新報社	非正規	雑誌「マリマリ」編集	
66	産業	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ	ラビナ	非正規		
67	産業	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ	秋田県警（青少年防犯）	正規		アルヴェ内
68	産業	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ	NTC株式会社	非正規		
69	産業	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ	菓子ケーキ製造	非正規		
70	産業	平面構成	ビックボーイ	非正規		
71	産業	ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	スーパーマーケット店員	非正規		東京都足立区内
72	産業	ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	(株)トラパンツ	非正規		
73	産業	ﾃﾞｻﾞｲﾝ計画	トイザラス茨島店	非正規		
74	産業	ﾃﾞｻﾞｲﾝ計画	アルバイト'（小売業）	非正規		
75	産業	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ	ドラックストアツルハ	非正規		
76	工芸	金属工芸・彫金	アルバイト	非正規		
77	工芸	金属工芸・彫金	アルバイト	非正規		
78	工芸	金属工芸・鋳金	新聞配達員	非正規		
79	工芸	絵画	(有)スタジオちゅうりっぷ	正規		アニメ関係
80	産業	ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	(株)トラパンツ	非正規		

H21年度美短卒業生就職先一覧（H22.5.1時点）

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
1	工芸	木材工芸	株式会社フラワーホーム	正規	新築･リフォーム、宅地建物取引業、インテリア、損害保険代理店	事務・営業（CAD及びインテリアコーディネーター）
2	工芸	染織（染色）	三幸株式会社	正規	大型食料品スーパーマーケット、インストアベーカリー	販売
3	工芸	染織（染色）	株式会社伊藤染工場	正規	衣服・その他の繊維製品製造業	染め物のデザインから製造
4	工芸	漆工芸	トナミ運輸株式会社	正規	貨物自動車運送事業、貨物利用運送事業、倉庫業・コンピュータによる情報処理、ソフトウェアの開発・販売　損害保険代理業・物品販売ならびに委託販売	総合事務
5	工芸	窯芸（陶芸）	ホテルアイリス	正規	婚礼、宴会、レストラン、ラウンジ、、サロン等	正社員
6	産業	平面構成	有限会社アトリエ久光	正規	屋外広告業	デザイン
7	産業	ウェブデザイン	秋田活版印刷株式会社	正規	総合印刷	クリエイト職
8	工芸	木材工芸	有限会社門脇木材	正規	木材の販売	木工品制作（勤務地：森の駅）
9	産業	デザイン計画	ヒューカラーズ株式会社	正規	1.教育図書、書籍、雑誌の出版・輸出入・販売並びに割賦販売 2.イー・ラーニング教材の開発、販売、指導並びに割賦販売 3.学習塾、語学教室並びにパソコン教室の経営	正社員：ドリームナビゲーター
10	産業	建築史・意匠	株式会社トラストネットワーク	正規	放送関連事業（テレビ局技術者）、人材派遣業（テレビ局での送出技術、放送準備、制作技術、番組制作等）	
11	産業	グラフィック	ＪＡ新庄もがみ	正規	販売、指導、経済、信用、共済、共同の各種事業	一般事務
12	産業	ウェブデザイン	パワーテクノロジー株式会社	正規	ウェブマーケティングおよびメディア事業	WEBデザイナー
13	産業	建築・インテリアデザイン	Beech株式会社	正規	インテリア雑貨製造販売業	営業・開発
14	産業	デザイン計画	農事組合法人美の郷	正規	道の駅	総合職
15	産業	映像デザイン	株式会社へいあん秋田	正規	冠婚葬祭業	編集デザイン制作
16	工芸	金属工芸（彫金）	イトキン株式会社	正規	婦人服･紳士服･子供服･クチュールフラワーの製造販売、輸出入業務	ファッションアドバイザー
17	工芸	窯芸（硝子）	有限会社ホットグラススタジオ沖縄工房「美らガラス」	正規	ガラス工房	制作
18	産業	ウェブデザイン		正規	広告制作業	デザイナー
19	産業	イラストレーション	神奈川県警察本部	正規	地方公務	警察事務職員
20	産業	プロダクトデザイン	株式会社岩田写真	正規	記念写真一般、各種写真・プリント、学校等記念アルバム作成、デジタル写真、DPE、各種写真用品販売	カメラマン
21	工芸	染織（織）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（織）
22	工芸	木材工芸	株式会社高作	正規	総合建設業、フィットネスクラブ運営	フィットネスクラブインストラクター
23	工芸	染織（織）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（織）
24	産業	ウェブデザイン	株式会社八郎潟印刷	正規	印刷業	デザイン製作
25	産業	イラストレーション	高尾工業株式会社	正規	電子部品製造	検査工
26	産業	ウェブデザイン	株式会社販促	正規	広告制作・宣伝制作サービス	アートディレクター（企画・編集）
27	産業	建築・インテリアデザイン	株式会社建築資料研究社	正規	教材開発、建築関連等のライセンススクール運営	教務事務
28	産業	ウェブデザイン	株式会社ダースエンターテイメント	正規	WEBマガジン、各種ホームページ等の企画・制作、デザイン制作、イベント企画、スポーツクラブ運営　等	デザイナー
29	産業	ウェブデザイン	エドモンド・オプティクス・ジャパン株式会社	正規	光学部品・製品・の製造・仕入・販売	正社員：DTP制作全般Orウェブサイト更新、HTMLメール制作
30	工芸	窯芸･ガラス	ケーズブローイング	正規	ガラス体験工房	９月まで試用期間
31	工芸	絵画	株式会社　綜合印刷	正規	総合印刷	ＤＴＰオペレーター
32	産業	パッケージデザイン	(株)平野新聞舗	正規	映像・音声・文字情報制作業	正社員
33	産業	イラストレーション	有限会社スタジオ天神	正規	アニメーション背景美術	
34	産業	イラストレーション	第一会館	正規	総合飲食業	正社員（試用期間有）総務、ホームページデザイン
35	産業	ウェブデザイン	大和印刷有限会社	正規	総合印刷	正社員（試用期間有）

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
36	産業	ウェブデザイン	(株)ウェーブ	正規	デザイン業	正社員（試用期間有）
37	産業	プロダクトデザイン	越中谷写真商会	正規	写真業	正社員(試用期間有）
38	工芸	窯芸（陶芸）	須恵沢窯	非正規	窯元	アルバイト（手伝い）
39	工芸	木材工芸	みちのく工房（盛岡てづくり村）	非正規	木工製品制作	職人見習い
40	産業	デザイン計画	有限会社ワーカホリック	非正規	織物・衣服・身の回り品小売業	販売（１年アルバイトを経て正社員）
41	産業	パッケージデザイン	秋田県立近代美術館	非正規	美術館	臨時職員（１年更新／最大６年まで）
42	産業	プロダクトデザイン	大手門温水プール　遊泳館	非正規	地方公務	由利本荘市臨時職員（１年更新）
43	工芸	窯芸（硝子）	野中内装	非正規	内装工事	アルバイト
44	産業	建築・インテリアデザイン	ストックエージェンシー秋田	非正規	イベント企画、派遣	アルバイト
45	工芸	金属工芸（彫金）	Around	非正規	イベント企画、HP制作等	秋田県創業支援室入居企業 ※3月から入居会社登録申請は4月以降
46	工芸	木材工芸	有限会社ワーカホリック	非正規	織物・衣服・身の回り品小売業	販売員（１年アルバイトを経て正社員）
47	工芸	染織（織）	秋田公立美術工芸短期大学	非正規	染織教務補助	教務補助
48	工芸	金属工芸（彫金）	秋田公立美術工芸短期大学	非正規	彫金教務補助	教務補助
49	産業	建築史・意匠	秋田公立美術工芸短期大学インフォメーション	非正規	一般事務	嘱託職員
50	産業	映像デザイン	山寺後藤美術館	非正規	美術館	
51	工芸	木材工芸	月山食堂	非正規	飲食業	アルバイト
52	工芸	漆工芸	ディッパーダン(秋田サティ内)	非正規	飲食料品小売業	アルバイト
53	工芸	金属工芸･彫金	ホームセンターサンデー	非正規	各種商品小売業	アルバイト
54	工芸	染織･織	秋田西武	非正規	各種商品小売業	アルバイト（4/19～）
55	工芸	絵画	(株)ジャパンコミュニティー	非正規	液晶製品の検査	契約社員
56	産業	グラフィックデザイン	有限会社ブレス	非正規	木材・木製品製造業（家具を除く）	契約社員（５月から）
57	産業	グラフィックデザイン	(株)みちのくジャパン	非正規	フランチャイズ・チェーンの事業展開	アルバイト（正社員登用有）デザイナー
58	産業	グラフィックデザイン	玉木歯科医院（歯科助手）	非正規	医療業	パート
59	産業	映像デザイン	秋田市自然科学学習館	非正規	公務	臨時職員
60	産業	映像デザイン	横手イオン	非正規	各種商品小売業	アルバイト（正社員登用有）
61	産業	イラストレーション	仙台フォーラス（4F）	非正規	各種商品小売業	アルバイト
62	産業	イラストレーション	障害者総合福祉センター夏泊	非正規	障がい福祉事業	非常勤職員
63	産業	ウェブデザイン	株式会社ヘイプ	非正規	リサイクル古着の販売	アルバイト
64	産業	建築史･意匠	コンビニエンスストア	非正規	飲食料品小売業	アルバイト
65	産業	建築史･意匠	（全国チェーン店）	非正規	雑貨販売	アルバイト
66	産業	デザイン計画	八峰町役場	非正規	公務	臨時職員：税務課
67	産業	公共デザイン	株式会社鈴丹（池袋アルパ店）	非正規	各種商品小売業	アルバイト(正社員登用有):接客、･販売
68	産業	公共デザイン	ミルキーウェイ	非正規	飲食サービス業	アルバイト店員(ウエイトレス)
69	工芸	金属工芸･鋳金	(株)シーフォース	非正規		彫金工具販売店
70	工芸	絵画	秋田市消防本部	非正規	公務	臨時職員
71	産業	パッケージデザイン	アルバイト	非正規		アルバイト(販売員)
72	産業	デザイン計画	コンビニエンスストア	非正規	飲食料品小売業	アルバイト

H20年度美短卒業生就職先一覧（H21.5.1時点）

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
1	工芸	絵画	株式会社スリーイー	正規	IT教育事業、営業代行業務、各種インフラコンサルティング業務、マーケティング業務、webデザイン企画･制作事業（自社開発、受託開発）、webシステム構築事業（自社開発、受託開発）	ＩＴ系（ネットワークエンジニア）
2	工専	金属工芸（鋳金）	黒谷美術株式会社	正規	建築装飾、河川修景施設、道路修景施設、公園修景施設、室内装飾の企画・設計・製作・施工	工房系
3	工芸	金属工芸（鋳金）	黒谷美術株式会社	正規	建築装飾、河川修景施設、道路修景施設、公園修景施設、室内装飾の企画・設計・製作・施工	工房系
4	産業	ウェブデザイン	株式会社ウィニングエッジ	正規	集客コンサルティング、Web広告･マーケティング業、オンライン出版等 提携先に新規顧客獲得サービス･コンサルティング等 のマーケティングサービス	デザイン系（webデザイナー）
5	産専	平面構成	株式会社天野金物	正規	スーパーセンター業態による総合小売業	販売
6	産業	グラフィックA	株式会社ファイブフォックス	正規	婦人服、子供服、紳士服、生活雑貨の生産販売	アパレル系（販売）
7	産業	ビジュアルアート	山二総合サービス株式会社	正規	損害保険、生命保険、一般物件リース、駐車場経営、その他	事務
8	工芸	金属工芸（鋳金）	京王電化工業株式会社	正規	メッキ加工	
9	工芸	窯芸（ガラス）	荻原舞台美術株式会社	正規	テレビ・舞台等の美術装飾制作	製作
10	産業	映像デザイン	ウッドオフィス株式会社	正規	テレビ番組・ビデオソフト・コマーシャル・デジタルソフト・イベント・セールスプロモーション企画制作　放送関連設備システム設計	アシスタントディレクター
11	産業	ウェブデザイン	株式会社佐々木印刷	正規	印刷、ラベル・シールの印刷	デザイン兼事務
12	工芸	窯芸（陶芸）	株式会社陽進堂	正規	医薬品の製造・販売	
13	工芸	窯芸（ガラス）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（ガラス）
14	工芸	窯芸（ガラス）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（ガラス）
15	工芸	窯芸（ガラス）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（ガラス）
16	工専	窯芸（ガラス）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（ガラス）
17	工専	窯芸（陶芸）	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（陶芸）
18	産業	グラフィックC	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（デザイナー）
19	産業	グラフィックC	社会福祉法人臥牛三敬会	正規	障害福祉事業	支援員（デザイナー）
20	工芸	窯芸（陶芸）	医療法人久幸会	正規	障害福祉事業	支援員（陶芸）
21	産業	グラフィックA	彌高神社	正規	神社	巫女
22	産業	プロダクト	有限会社葉っぱや	正規	野菜の企画・営業	営業員
23	工芸	染織（織）	尾崎印版店	正規		実家家業の手伝い
24	産業	日本建築史	マリエンバード工房株式会社	正規	グラスアート(壁面、オブジェ）制作	ガラスアート作家 アシスタント
25	産業	映像デザイン	株式会社澤口写真館	正規	写真業、スタジオ経営	写真編集制作、スタジオ助手
26	産専	プロダクト	株式会社アイドマセンサー	正規	広告全般製造（広告看板、式典装飾、イベント展示会場設営、ディスプレイ、ＰＯＰ）	看板デザイン
27	産専	グラフィックC	株式会社いなふく米菓	正規	米菓(あられ、せんべい、ぬれおかき)の製造及び販売	商品企画
28	工芸	染織（織）	株式会社桝屋高尾	正規	織物製造販売（帯・着尺・打掛・能衣装・タブロー・タペストリー等、織物全般）	織り手
29	産業	ウェブデザイン	LOHAS-Next株式会社	正規	営業アウトソーシング、コンサルティング、Webコンサルティング、通信販売（インターネット）	ウェブデザイン兼事務
30	産専	プロダクト	有限会社 シーガル・ディレクション	正規	洋服及び靴･カバン等のセレクトショップ(小売)	販売員で応募したがＷｅｂデザイナー採用
31	産業	グラフィックA	株式会社ヒューマンディレクト	正規	飲食店業を中心としたフランチャイズチェーンのシステム開発など	広報職(各種宣伝広告の企画)
32	工芸	染織（織）	有限会社ART LINE FIELD	正規	絵画展示販売	絵画（版画）の販売員(営業)
33	産業	ウェブデザイン	秋田スズキ	正規	スズキ(株)が製造する全商品の販売および整備	一般事務
34	産専	グラフィックA	(有)マゼンタ	正規	デザイン事務所	デザイナー
35	産業	ウェブデザイン	(有)マゼンタ	正規	デザイン事務所	Webデザイナー

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
36	産業	グラフィックA	株式会社ファインプリント	正規	商業印刷物の販促・企画・デザイン・制作・印刷全般	
37	工芸	染織（織）	株式会社若松	正規	唐織帯地問屋	営業職
38	産専	ビジュアルアート	株式会社ｅ・ジュネックス	正規	携帯コンテンツ企画・運営、雑誌出版、絵画(版画)・アート雑貨販売	デコメデザイナー
39	産業	グラフィックA	進和ラベル印刷株式会社	正規	ラベル・シール・ステッカーの制作および販売	制作室
40	産業	ビジュアルアート	株式会社牧家	正規	牧場の経営、乳製品・肉製品の製造および販売、食堂・レストランの経営	事務（広告デザイン等広報・販促事務）
41	産業	ウェブデザイン	株式会社スマイリングカンパニー	正規	商業印刷・オンデマンド印刷・デザイン制作・ホームページ制作・出版・総合広告計画・・ＣＭ制作・デジタルブック制作	デザイナー
42	産専	デザイン計画	有限会社ゴング	正規	広告、ＳＰ、カタログ等、企画・制作	グラフィックデザイナー
43	産業	平面構成	イエローハット大館店	正規	カー用品販売及び取付サービス	販売・レジスタッフ
44	工芸	木材工芸	株式会社ジェネス浜松支店	正規	電気通信事業の受託業務・代理店業務、情報通信サービス、回線・インターネツト接続業務の受託及びコンサルティング	営業職
45	工芸	染織(染色)	キャノンレスポンスサービス(株)秋田事業所	非正規	テレマーケティング業務、キャノン製品に関する電話応対業務	サービス系（コールオペレーター）
46	産業	日本建築史	salon de Kazuo美容室	非正規	美容室	実家美容室の手伝い(本人美容師免許あり)
47	産業	グラフィックB	有限会社カントリーガーデン	非正規	造園工事業、土木一式工事業	販促･企画
48	工芸	窯芸（ガラス）	秋田県立 保呂羽山少年自然の家	非正規	教育施設	補助教員（６ヶ月契約）
49	工芸	金属工芸（彫金）	株式会社竹谷本店	非正規	伝統工芸品「秋田銀線細工」を製作・販売	パート（販売）
50	工専	金属工芸(彫金)	秋田公立美術工芸短期大学事務局	非正規	公務	事務
51	産専	グラフィックB	株式会社ラプター	非正規	デザイン事業、出版事業、Web事業、システム事業、人材派遣業、職業紹介業等	デザイン事業部 グラフィックデザイナー
52	産業	ビジュアルアート	株式会社ほっとしばたケアセンター	非正規	高齢者福祉施設（デイサービス、ショートスティ、グループホーム）	介護士
53	産業	平面構成	秋田県雄勝地域振興局	非正規	公務	一般事務（臨時職員）
54	工芸	絵画	秋田県仙北地域振興局	非正規	公務	一般事務（臨時職員）
55	産業	グラフィックB	秋田市役所（都市整備部）	非正規	公務	一般事務（臨時職員）
56	産業	映像デザイン	ショップＦＡＭ（秋田フォーラス）	非正規	ZIPPO、アクセサリー等雑貨販売	販売員（アルバイト）※正社員制度有
57	産業	建築デザイン	ＧＡＰ（イオンモール秋田）	非正規	衣料品製造小売	販売員（アルバイト）※正社員制度有
58	産専	プロダクト	秋田市役所（児童家庭課）	非正規	公務	一般事務（臨時職員）
59	工芸	窯芸(ガラス)	株式会社オリエンタルランド	非正規	テーマパークの経営・運営および、不動産賃貸等	テーマパーク接客
60	工芸	木材工芸	大倉食品センター	非正規	スーパーマーケット・食料品店	販売員(パート)
61	工芸	金属工芸(彫金)	モチクリーム秋田西武店	非正規	食品小売業	販売員（パート）
62	工芸	金属工芸(鋳金)	有限会社武藤工芸鋳物	非正規	鋳物製造	アルバイト
63	工芸	漆工芸	フードマーケットマム	非正規	スーパーマーケット	販売員（パート）
64	工芸	絵画	スーパー	非正規	スーパーマーケット	販売員（パート）
65	産業	グラフィックA	ジャスコ土崎港店	非正規	総合デパート	アルバイト
66	産業	グラフィックC	プラスワン	非正規	靴製造・修理（自営）	アルバイト
67	産業	映像デザイン	みさとマーク株式会社	非正規	刺繍・マーキング・プリントの加工作業、学習塾・パソコン教室	アルバイト
68	産業	映像デザイン	秋田サティ	非正規	総合デパート	食品売り場アルバイト
69	産業	ビジュアルアート	秋田公立美術工芸短期大学事務局	非正規	公務	臨時職員
70	産業	デザイン計画	ペットショップ金鳥園	非正規	ペット、ペット関連商品販売	アルバイト
71	産業	建築デザイン	ホテルアイリス	非正規	ホテル業	アルバイト

H19年度美短卒業生就職先一覧（H20.5.1時点）

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
1	産業	ウェブデザイン	（株）テクモ	正規	自動車･建設機械を中心としたデザイン･デジタルモデル･設計、開発関係	デザイン係
2	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	（株）山形デザインエージェンシー	正規	会社案内・カタログ・パンフレット・ポスター等のデザイン・アートディレクション、印刷手配	デザイン係
3	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	デルタ総合企画	正規	広告代理店、各種印刷、イベント企画、ＣＭ制作	デザイン系
4	工芸	鋳金	黒谷美術株式会社	正規	建築装飾、河川修景施設、道路修景施設、公園修景施設、室内装飾の企画・設計・製作・施工	工房系
5	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸC	（株）長崎屋	正規	流通小売業	流通系
6	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	（株）アロー	正規	紳士・婦人・子供衣料、肌着、靴下、ファンデーション、服飾雑貨、履物	アパレル系
7	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸB	秋田印刷製本株式会社	正規	総合印刷	印刷系
8	工芸	織	株式会社　ディア	正規	婦人服、毛皮、靴、バックの販売 店舗の設計、企画、施工	アパレル系
9	産業	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｱｰﾄ	日本カーライフアシスト株式会社	正規	広告の企画・制作、会員カードの運営業務	広告関係（企画営業職）
10	産専	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｱｰﾄ	株式会社フォークテックジャパン	正規	各種印刷	デザイン系
11	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸC	株式会社　イング	正規	ジュエリー全般（主にブライダル）の販売、デザイン、生産	
12	産業	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ	株式会社　共育舎	正規	まなびや学習サポート、まなびやネットワーク事業	教育サービス
13	工芸	染色	丹野組株式会社	正規	建設業	一般事務
14	工芸	ガラス	グラスフォレストイン富良野	正規	ガラス工房	
15	産業	建築デザイン	株式会社　花坂ハウス工業	正規	ハウスメーカー	設計
16	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	株式会社東北映像秋田	正規	テレビ・ラジオ放送番組の制作、イベントの企画、制作、CM制作、各種ビデオ制作販売	
17	工芸	絵画	明和カレンダー株式会社	正規	カレンダー製造卸	
18	工芸	織	洛陽織物	正規	西陣織製造、販売	
19	産業	映像デザイン	シンタックス株式会社	正規	Ｗｅｂサイト、デジタル媒体企画、制作。展示会、イベント企画、ディスプレイ、ビデオ企画、制作。広告代理業	
20	産業	ウェブデザイン	自衛隊	正規	札幌地方協力本部	
21	産業	平面構成	株式会社コンセプト	正規	デザイン事務所	
22	工芸	絵画	荻原舞台美術株式会社	正規	舞台美術制作	一般事務
23	産業	デザイン計画	株式会社アドヴァンティクス	正規	広告宣伝に関する業務および企画制作	
24	産業	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｱｰﾄ	株式会社クラップス	正規	出版物の企画、編集、発行ならびに販売など	
25	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸB	株式会社四五コーポレーション	正規	各種印刷サービス、写真の現像、店頭看板、店舗外装工事など	
26	工専	鋳金	企業名非公開	正規	時計修理	
27	工芸	織	佐々木興業株式会社	正規	農業資材、設計施工、建設設備工事及びメンテナンス、情報サービス､一般産業廃棄物処理、他	一般事務
28	産業	デザイン計画	株式会社三森印刷	正規	総合美術印刷、広告代理業、企画・運営	
29	工芸	木工	株式会社ニトリ	正規	家具・インテリア･ホームファニシング商品の企画販売、新築住宅のコーディネート、海外直輸入品・開発商品の販売、広告・宣伝事業	パート
30	産業	映像デザイン	(株)マグネット	正規	映像制作（TV関係の下請け業者）	
31	産業	映像デザイン	株式会社スタッフ	正規	各種催事企画制作・実施運営、舞台進行・美術・音響・照明、ビデオ映像の企画制作・VP制作等	
32	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	有限会社アンチ・メディア	正規	広告代理店（月刊誌の出版等）	デザイナー
33	工芸	陶芸	堀越陶房	正規	陶芸教室	
34	産業	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ	株式会社トライ・トライ	正規	広告 映像美術、テレビCM、プロモーションビデオ、スチール撮影等の美術制作、大・小道具、造形物、塗装	

	学科	コース	内定企業	雇用形態	業務内容	備考
35	工芸	彫金	カガク印刷株式会社	正規	ホログラム全般の製造、マイクロカプセル全般の製造、印刷・加工・製品化	印刷系
36	産専	ｸﾞﾗﾌｨｯｸB	有限会社オズ・デザイン	正規	マーケティング、広告の立案・制作業務〈新聞・雑誌広告、パッケージ等各種グラフィック全般の業務〉	
37	工芸	陶芸	式会社野村硝子	正規	ガラス加工	
38	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	株式会社ユニゾン	正規	広告代理業	
39	工芸	絵画	株式会社KH	正規	高級婦人・成人女子・少女服製造、販売及び委託加工プラニング・マーチャンダイジング	
40	工芸	陶芸	小松屋	正規	和菓子製造販売	
41	工芸	彫金	株式会社スペリア	正規	精密金属加工、電子部品組立、機械装置組立、特殊コイル、洗浄装置組立設備設計製作、ソフトウェア開発	ゲームデザイン(イラスト等のデータ化)
42	産業	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ	秋田朝日放送株式会社	非正規	放送事業	放送系
43	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	フォーラムスタッフ株式会社	非正規	人材派遣会社	
44	産業	デザイン計画	EL RODEO（株式会社フェニックス）	非正規	アパレル系メーカー	アルバイト
45	産業	ｸﾞﾗﾌｨｯｸA	株式会社セントラルパートナーズ	非正規	保険事業コールセンター	保険事業コールセンター
46	工芸	ガラス	グラススタジオ・ヴェトロ	非正規	グラススタジオ	アシスタント
47	産業	ウェブデザイン	NHK秋田放送局	非正規	放送番組の企画・制作等	
48	産業	デザイン計画	株式会社アルタ	非正規	バラエティ雑貨・ギフトの企画製造卸	アルバイト
49	工芸	絵画	青森市役所生涯学習課	非正規	一般事務	臨時
50	産業	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｱｰﾄ	秋田オリエント精密株式会社	非正規	プリンターヘッド部品製造及び組立、水晶振動子の製造、超精密部品・金型治工具の製造加工	派遣（ｼﾞｬﾊﾟﾝｸﾘｴｲﾄ）
51	工芸	染色	OLIVE des OLIVE（秋田フォーラス内）	非正規	婦人服製造および販売	アルバイト
52	工芸	染色	秋田公立美術工芸短期大学インフォメーション	非正規	一般事務	
53	工芸	染色	SAAD（秋田フォーラス内）	非正規	アクセサリー及び革製品の小売業	アルバイト
54	工芸	鋳金	秋田公立美術工芸短期大学	非正規	基礎造形教務補助	
55	産業	デザイン計画	EMS&RETRO GIRL（株式会社エムズ）	非正規	カジュアルファッション服、身装小物、雑貨などの販売	アルバイト
56	産業	デザイン計画	GLAMOROUS L.A（秋田サティ内）	非正規	カジュアルファッション服、身装小物、雑貨などの販売	アルバイト
57	産業	ウェブデザイン	財団法人奥州市文化振興財団（埋蔵文化財調査センター）	非正規	一般事務	
58	工芸	彫金	株式会社ストーンマーケット	非正規	ジェムストーン・天然原石 シルバーアクセサリー・衣類・雑貨の輸入	アルバイト
59	産業	デザイン計画	ジュノー株式会社	非正規	ビデオ撮影・映像編集、写真撮影・アルバム製作、バンケットオペレーション（音響・演出）、ビデオアルバム製作、ウエイトドール販売	試用期間はアルバイト
60	工専	鋳金	株式会社センタス	非正規	カジュアル衣料、インテリア雑貨、靴、アクセサリーの販売	アルバイト

資料12

美術系４年制大学の主な就職先

○東京藝術大学美術学部

アルカ(総合職)、NEQ(原型制作)、ケイ・ウノ(デザイナー)、サンゲツ(デザイナー)、
ポーラ化成工業(デザイナー)、電通(アート職)、中川政七商店(総合職)、花王(デザイナー)、
コナミデジタルエンタテインメント(デザイナー)、コクヨ(デザイナー)、バンダイナムコゲームス、
ジュンク堂書店(総合職)、任天堂(デザイナー)、日建設計(設計)、野村工藝社(デザイナー)、
クリーク・アンド・リバー社(営業)、ギャラリーサンカイビ(企画運営)、岡崎市役所(事務)、
コンベンションリンゲージ(総合職)、生活の友社(編集)、
JR東日本ステーションリティリング(企画開発)、NHK(映像制作)、レプハウス(雑貨デザイナー)、
コーボー・ホールディングス(Web)、オロ(Web)、バンダイナムコホールディングス(デザイナー)、
平成建設(大工)、博報堂プロダクツ(デザイナー)、パオン(CGデザイナー)、
サイバーエージェント(デザイナー)、かまわぬ(デザイナー)、任天堂(デザイナー)、TOTO(デザイナー)、
電通(アート職)、花王(デザイナー)、アミューズ(デザイナー)、
デイトナインターナショナル(アパレル)、NHK(ディレクター職)、東宝(総合職)、
ベストブライダル(ウエディング)、ＡＱインタラクティブ(デザイナー)、ゲーム制作会社、
アイルデザイン(デザイナー)、タカラトミー(総合職)、毎日コミュニケーションズ(総合職)、
セイコーウオッチ(デザイナー)、任天堂(デザイナー)、電通(アート職)、
アルビオン(パッケージデザイナー)、サイバーエージェント(Ｗｅｂデザイナー)、
資生堂(パッケージデザイナー)、花王(パッケージデザイナー)、博報堂(デザイナー)、
ソニー(グラフィックデザイナー)、類設計(設計)、竹中工務店(設計)、
コム・デ・ギャルソン(生産企画)、幸福の科学(美術部門)、郵便事業(一般職)、
スープデザイン(デザイナー)、コムサ(販促)、凸版印刷(営業事務)、
ＩＭＪ(Ｗｅｂインテグレーション)、デジサーチ アンド アドバタイジング、
日本作業療法士協会(事務)、コム・デ・ギャルソン

○京都市立芸術大学美術学部

イプサ、イワサキ、カプコン、ケイ・ウノ、宝塚舞台、マリークヮントコスメチックスジャパン、
テー・オー・ダブリュー(TOW)、アクワイア、味の素、オンキヨー、コナミデジタルエンタテイメント、
京都科学、京都放送、サンゲツ、テイスト、電通、トヨタ紡績、ナリス化粧品、日本写真印刷、任天堂、
マツダ、リンナイ、エー・ティ・エー(ATA)、独立行政法人国立文化財機構(京都国立博物館)、
あーとにしむら、ツジカワ、ユーシン精機、ソニー、ソニー・コンピュータエンタテイメント、セガ、
トーセ、ハル研究所、コナミ、トヨタ自動車、日産自動車、スズキ、三菱自動車工業、デンソー、博報堂、
大広、アサツーディ・ケイ、竹中工務店、日建設計、パナソニック、東芝、キャノン、セイコーエプソン、
マックスレイ、小泉産業、大光電機、セイコークロック、山本光学、川島織物セルコン、サンリオ、
住江織物、アシックス、ミズノ、龍村美術織物、西川産業、ポーラ、牛乳石鹸共進社、
ジイケイデザイン機構、大日本印刷、凸版印刷、シャープ、遠藤照明、フェリシモ、コクヨ、
くろがね工作所、INAK、TOTO、近畿日本鉄道、京セラ、産經新聞社、乃村工藝社、タカラトミー、
大和ハウス工芸、サンゲツ、瀧定、トヨタ紡織、富双合成、マリークワントコスメチックスジャパン、
佐藤繊維、TOW、イプサ、イワサキ、ヤフー、味の素、京扇堂、タカラベルモント、京彩色中島、えびす本郷

○金沢美術工芸大学

イデアルデザイン、岩崎総合研究所、ＮＴＴシステム開発、クロダレース、三共、
ジニアスコーポレーション、フリュー、Wasseコーポレーション、リューテック、アジア青年交流会、
金沢森林組合、金沢舞台、劇団俳優座舞台美術、上越クリスタルガラス、スズキ、日産自動車、
本田技術研究所、マーブルファインアーツ、ワコール、共同通信社、山形新聞、アドブレーン、ADKアーツ、
ATA、大阪宣伝研究所、花王、Camp KAZ、クリエイターズグループMAC、C.C.レマン、ジーシー、
ジェー・シー・スパーク、資生堂、セガ、ソースネクスト、大広、TDS、ティー・ワイ・オー、
タカラトミー、たき工房、TCD、電通、凸版印刷、トヨタ自動車、日本デザインセンター、任天堂、
バウ広告事務所、博報堂、博報堂プロダクツ、バンダイ、パナソニック電工、ハル研究所、
ビーコン・コミュニケーションズ、ポーラデザイン研究所、毎日新聞社、マザース、
ライトパブリシティ、リクルート、リュウズ、アシックス、アイシン精機、愛知、いすゞ自動車、INAX、
NECデザイン＆プロモーション、岡村製作所、カシオ計算機、キヤノン、ケイテック、コクヨ、
三協立山アルミ、シチズン時計、シャープ、伸晃化学、ソニー、ダイキン工業、ダイハツ工業、デンソー、
デプロ・インターナショナル・アソシエイツ、トーヨーキッチン、トヨタ紡織、ニコン、日本ビクター、
日本光電、日立製作所、PFU、ブラザー工業、マツダ、ミズノ、三菱電機、INAX、遠藤照明、関西ペイント、
グリーンディスプレイ、小泉産業、小松精練、三協立山アルミ、四国化成工業、劇団四季(四季)、ジーク、
スペース、大日本印刷、大丸装工、大和ハウス工業、髙島屋スペースクリエイツ、丹青社、東陶機器、
東北新社、ナカダ、Nendo、乃村工藝社、博展、フジヤ、船場、松田平田設計、ミキモト、ムラヤマ、
モビリティランド、レンゴー、ヨシダ宣伝、川島織物、京都丸紅、グンゼ、小西美術工藝社、サンゲツ、
ソニーPCL、田崎真珠、竹内プレス、たち吉、東リ、西川産業、ニッコー、NIWAKA、白山陶器、ヨーガンレール

○愛知県立芸術大学美術学部

オフィスもり、サンヨーハウジング名古屋、プレイワーク、ヘルスカンパニー、社寺美術工芸舎、
あい歯科、佐川急便、日本総合テレビ、パモウナ、新東通信、岡村とうふ、日本車輌製造、ノバレーゼ、
伊藤美藝社製版所、名古屋テレビ事業、オンテックス、ficel、東洋印刷工業、ミュージッククラブ、
フットセラピー、桂新堂、エレコム、松風屋、富山市役所、トヨタカローラ名古屋、オフィス設計、
サポーティング中京、井澤製陶、黒百合ヒュッテ、名鉄生活創研、たき工房、九州舞台、STOIQUE&Co.、
アライブ、松風屋、フォイス、トイロジック、俳優座、トラフィックゲート、イノセント、常盤産業、
墨仁堂、ブレインベース、安田印刷工業、松風屋、三輪田建築事務所、ハーモナイズ・デザイン、ピクト、
CHSTAN 、bitsense、堀尾建築研究所、ブラン、アドビジョン、加納デザイン事務所

○武蔵野美術大学

いろは出版、川島織物セルコン、コナミデジタルエンタテインメント、サンゲツ、松竹、スタジオジブリ、
ソニーコンピュータエンタテインメント、大成美術印刷所、NHK、任天堂、金井大道具、
コーエーテクモゲームス、キタムラ、京映アーツ、セガ、ナムコ、日本テレビアート、
バンダイナムコゲームス、良品計画、久慈建築設計事務所、シーエスエス総合舞台、スズキ、
パールマネキン、バンダイ、本田技研工業、岩波書店、エポック社、花王、キリンビール、共同通信社、
グリー、サイバーエージェント、サン宝石、サンリオ、三洋電機、ショウワノート、中日新聞社、電通、
電通テック、東京書籍、東急エージェンシー、東北新社、常盤薬品工業、凸版印刷、日本メナード化粧品、

ニフティ、博報堂、ペリカン石鹸、メリーチョコレートカムパニー、ヤフー、山崎製パン、楽天、
レベルファイブ、いすゞ自動車、岡村製作所、京セラ、キヤノン、クラリオン、コーセー、資生堂、
シチズン時計、シャープ、住江織物、デンソー、東京放送、東芝、トゥモローランド、トヨタ自動車、
トンボ鉛筆、乃村工藝社、日産自動車、富士重工業、富士ゼロックス、富士通、ブラザー工業、
本田技術研究所、マツダ、マルミツ陶器、三菱自動車工業、三菱電機、リンナイ、アディダスジャパン、
イッセイミヤケ、遠藤照明、コムデギャルソン、松竹衣裳、宝塚舞台、東京舞台照明、東宝舞台、TOTO、
中川政七商店、ハリオグラス、ファーストリテイリング、フジヤ、安藤建設、大林組、小林工芸社、
ＪＲ東日本都市開発、四季(劇団四季)、住友林業ホームエンジニアリング、セキスイハウス東京、
大東建託、大和ハウス工業、タカラスペースデザイン、テレビ朝日、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、
カルピス、キリンビバレッジ、資生堂、ＧＫグラフィックス、日本デザインセンター、ガイナックス、
KDDIウェブコミュニケーションズ、バンプレスト、リクルート、アマナ、進研アド、第一屋製パン、
ディー・エヌ・エー、東急ハンズ、日本電気、パソナグループ、ハドソン、ビックカメラ、
毎日オークション、東洋美術印刷、ワールド、大淵銀器、三幸製菓、ソニーミュージック、タカノフーズ、
毎日新聞社、ミズノ、三越

○多摩美術大学

コナミデジタルエンタテインメント、セガ、テクモ、サンライズ、ワールド、三笠書房、
アートプリントジャパン、全日本空輸、ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク、アマナ、
サンゲツ、カプコン、コーエー、ソニーコンピュータエンタテインメント、任天堂、
バンダイナムコゲームス、スタジオジブリ、レナウン、ローラアシュレイジャパン、ワコール、柏木木工、
新興製靴工業、電通、東北新社、ソフトバンクBB、近江デザイン事務所、金井大道具、ミキモト装身具、
コナミ、本田技術研究所、フジテレビジョン、芸術書院、あづみ野ガラス工房、猿江ガラス、
高橋グラススタジオ、日本山村硝子、スクウエアエニックス、タカラトミー、バンダイ、
ユナイテッドアローズ、イデー、土屋鞄製造所、サンリオ、ショウワノート、日本デザインセンター、
博報堂、たき工房、バウ広告事務所、味の素、日清食品、丸善、明治製菓、キリンビバレッジ、
キリンビール、サントリー、花王、コーセー、資生堂、常盤薬品工業、ライオン、キヤノン、パナソニック、
バンプレスト、テレコムアニメーションフィルム、講談社、集英社、生活の友社、リクルート、
大日本印刷、凸版印刷、ぺんてる、川島織物セルコン、コムデギャルソン、スタージュエリー、
讀賣テレビ放送、東洋ガラス、ハリオグラス、INAX、TOTO、吉田金属工業、YKK、小松製作所、パロマ工業、
ブラザー工業、LG電子、京セラ、三洋電機、シャープ、セイコーエプソン、ソニー、東芝、パイオニア、
パナソニック、日立製作所、アイシン精機、いすゞ自動車、スズキ、ダイハツ工業、トヨタ自動車、
日野自動車、富士重工業、マツダ、三菱自動車工業、シマノ、オリンパス、カシオ計算機、ニコン、リコー、
シチズン時計、富士フイルム、コクヨ、ベスタックス、ヤマハ、アシックス、ヨネックス、乃村工藝社、
エレファントデザイン、島精機製作所、アバハウスインターナショナル、コシノヒロコ、ビームス、東リ、
朝日染色、丸枡染色、日産自動車、NHK、テレビ朝日、ミズノ、キタムラ、日本毛織、日清紡績、レナウン、
ディーゼルジャパン、ヘルメス、コーチジャパン、環境プランニング、日本造園設計、三越環境デザイン、
松田平田設計、三上建築事務所、日建ハウジングシステム、石井建築事務所、吉本デザイン研究所、
鹿島建設、木下工務店、住友林業、積水ハウス、大和ハウス工業、竹中工務店、三菱地所設計、
東洋エクステリア、遠藤照明、トリンプ・インターナショナル・ジャパン、日本アート印刷、エステー、
ハドソン、エアーニッポン、日比谷花壇、エフエム東京、グリー、エドウィン、マガジンハウス、ノエビア、

エイベックス、明和電機、ダヴィンチ、三菱電機、島津製作所、富士ゼロックス、ヤフー、楽天、タイトー、
トゥモローランド、毎日新聞社、ジャストシステム、松竹、TBSテレビ、ユニクロ、浜本工芸、
ガイナックス、

〇東北芸術工科大学

トッパンマルチクリエイト、アドブレーン、サンライズ、進研アド、たき工房、バウ広告事務所、
河北アド・センター、キヤノン、スズキ、セイコーエプソン、ソニー、東芝、東北パイオニア、
長崎船舶装備、パール金属、日立製作所、富士工業、富士重工業、文化シャッター、本田技術研究所、
松下電器産業、三菱電機、愛和建設、青森サンアイホーム、一条工務店、セキスイツーユーホーム東北、
田村測量設計事務所、ハリオグラス、東京インテリア、京都科学、いわて中央ホーム、 鹿島建設、
北日本セキスイハイム、埼玉西パナホーム、清水建設、住友林業緑化、積水ハウス、大東建託、
大和ハウス工業、土屋ホーム、東北ミサワホーム、北欧住宅、三井ホーム、守屋木材、山形建設、
レオパレス21、朝日測量設計事務所、東日本ハウス、パール工芸、アルテマイスター、
ウェアウッドワーク、 ケイ・ウノ、北原紙器製作所、佐藤繊維、ジュエリーアベ、東北川島織物、
ミキモト装身具、アイリスオーヤマ、岩手木アート、エムケイ前田家具、遠藤照明、奥羽木工所、
岡村製作所、風間椅子店、シャルマンニット、白倉ニット、菅原工芸硝子、上越クリスタル硝子、
多田木工製作所、茅ヶ崎紡織、天童木工、東北館山アルミ販売、卑弥呼、藤光家具、北進木工、山形木工、
ヤマギワ、中央出版、JTBパブリッシング、日本アート印刷、キョウリツ、高速美術印刷、三晃印刷、
中央出版、徳島新聞社、山形印刷、NHK山形放送局、山形放送、NHK鶴岡、ケーブルテレビ山形、
石森スタジオ、NHK福島放送局、さくらんぼテレビ、タツノコプロ、山形テレビ、トヨタカローラ山形、
山形トヨペット、山形リコー、大和運輸、ダイエー、日向石材、吉井画廊、リンベル、金井大道具、丹青社、
菓匠三全、コーセー、セガ、ユナイテッドアローズ、手塚プロダクション、北一硝子、エドウィン、JTB、
セコム、東京インテリア家具、トリンプ・インターナショナル・ジャパン、ファーストリテイリング、
コナミ、スタジオジブリ、サンリオ、スクウェア・エニックス、セガ、テクモ、ナムコ、任天堂、
日立テレコムテクノロジー、富士通東北システムエンジニアリング

資料13

秋田市長

穂 積　志　様

要　望　書

秋田公立美術工芸短期大学の
４年制大学化早期実現に向けて

平成２３年２月１４日

秋 田 商 工 会 議 所
会 頭　渡　邉　靖　彦

秋田公立美術工芸短期大学の
４年制大学化早期実現に向けて

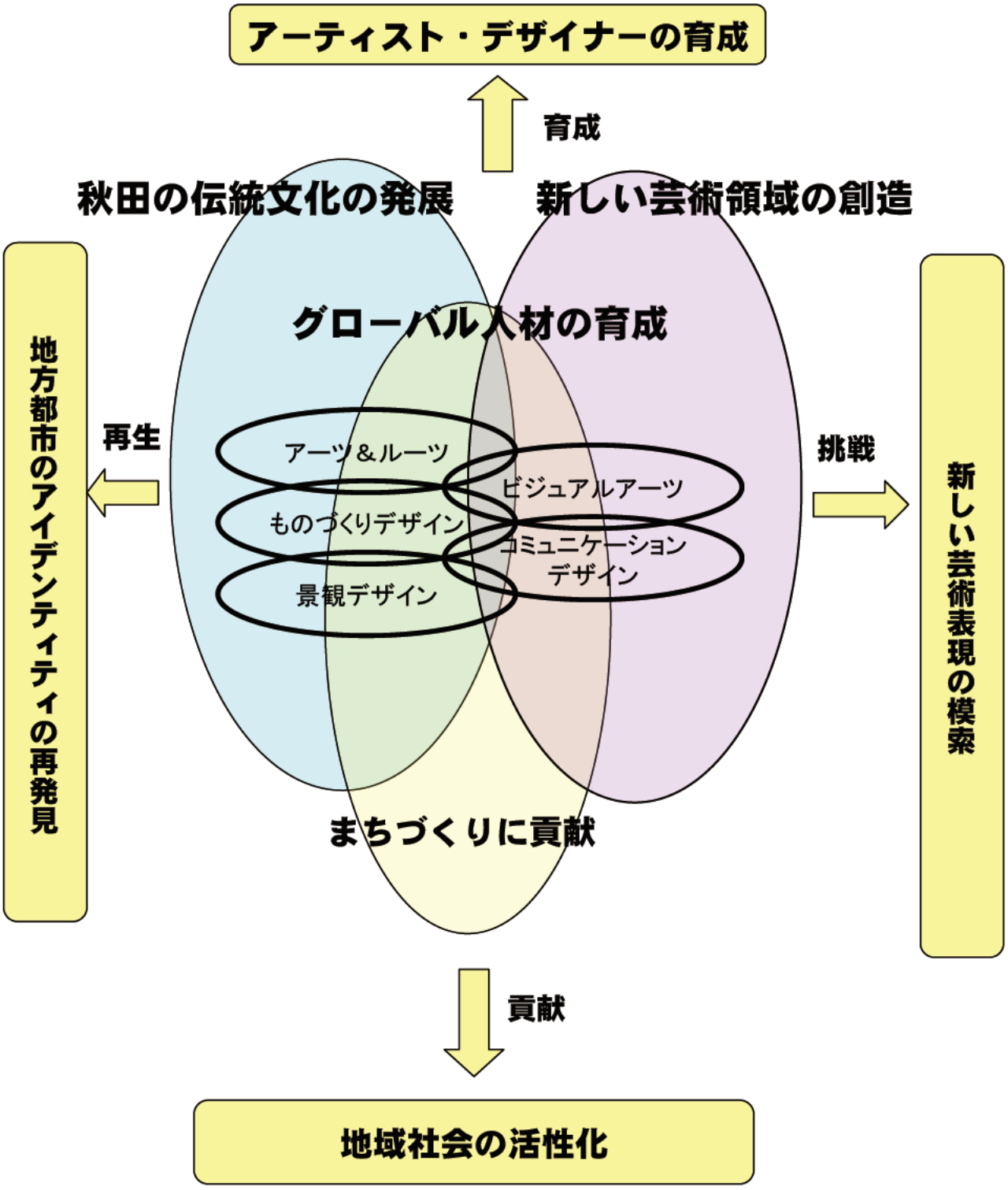
秋田公立美術工芸短期大学の４年制化は、芸術・文化を生かしたまちづくりへの貢献や、ものづくり産業におけるデザインと製品開発力の向上などの観点から、新たな需要の創出など、地域経済の活性化に結びつくことが期待されます。

つきましては、市が提唱している平成２５年４月の実現を切に要望します。

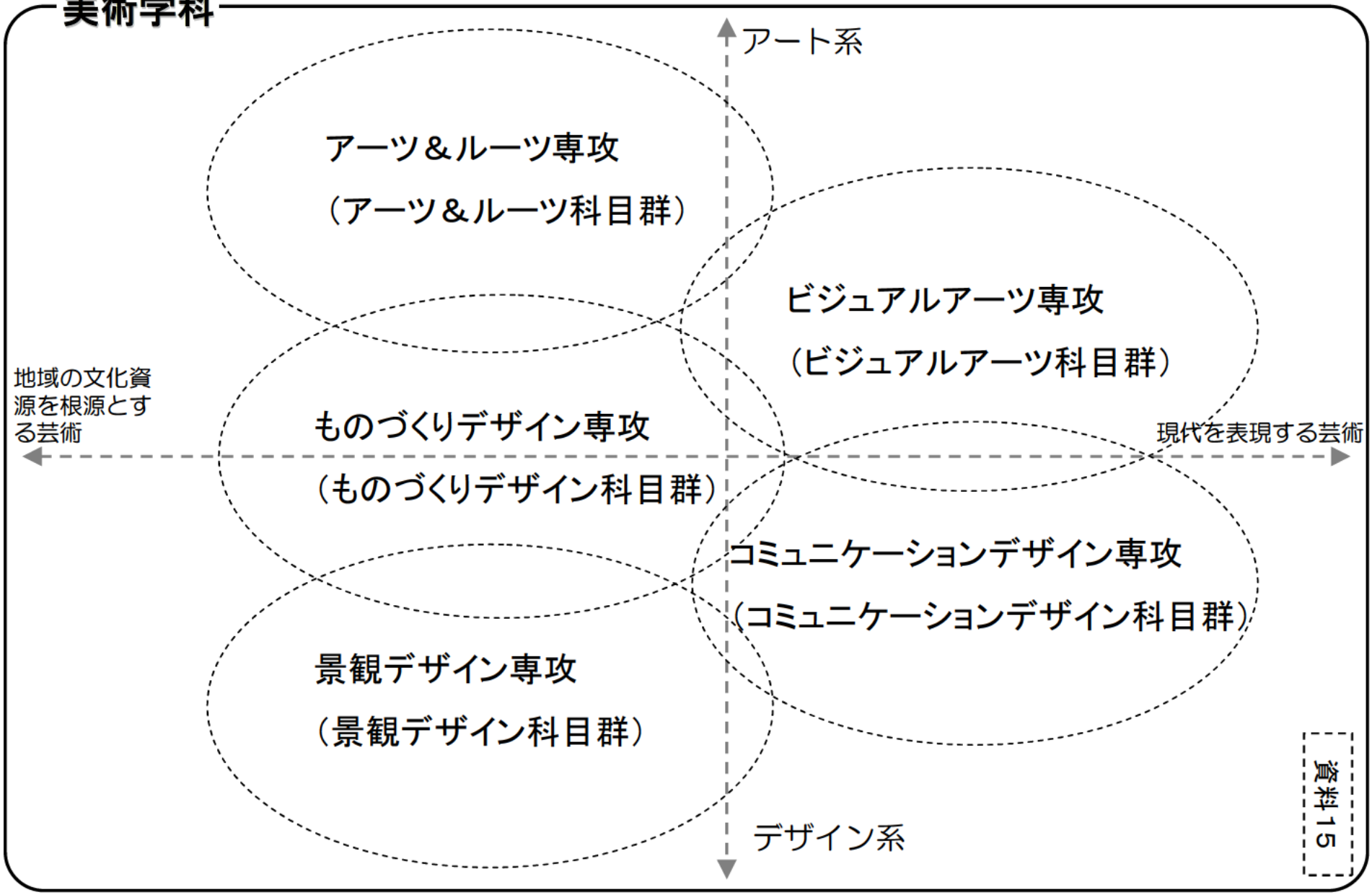
なお、実現に当たっては、中央街区へのキャンパスの設置や、県内大学で構成するコンソーシアムの産学連携等により、より一層の地域貢献にご配慮くださいますようお願いいたします。

資料14

秋田公立美術大学の基本理念・教育研究上の目的・専攻構成の関係性のイメージ図



5専攻（5科目群）の考え方のイメージ図



資料６

秋田公立美術大学（仮称）設置申請準備に関する

コンサルティング業務

「大学卒業後の進路等に関する調査（企業・事業所等の採用意向調査）」報告書

平成２４年１月

財団法人日本開発構想研究所

目次

◆ 調査の概要（ｐ１）

◆ アンケート調査票（ｐ３～）

◆ アンケート調査結果（ｐ９～）

問１　本所・支所の別（p11）

問２　本所（本店・本社）の所在地（p12）

問３　事業所の所在地（p13）

問４　業種（p14）

問５　事業所の従業員規模（p15）

問６　事業所の現在の職員数（p16～17）

問７　過去３年間（平成２１～２３年度）の正規職員の新卒採用者数（p18～19）

問８　採用したいと考えている人材の学歴（p20）

問９　採用したいと考えている学生の専攻分野（第１希望、第２希望）（p22～25）

問 10　新卒者を採用するうえで特に必要だと考える事柄（p26～27）

問 11　（仮称）秋田公立美術大学美術学部美術学科卒業生の採用意向（p28）

問 12　いずれの専攻の卒業生を採用したいか（第１希望、第２希望）（p29～30）

問 13　秋田公立美術大学についての自由回答（p31～34）

■ 調査の概要

(1) 調査目的

秋田市では、秋田公立美術工芸短期大学を４年制大学に移行し、平成２５年４月の秋田公立美術大学（仮称）の開学に向けて、平成２４年３月末に文部科学省への設置申請を行うこととしている。その設置申請に先立って行う文部科学省および総務省との事前協議において、新大学卒業後の進路の見込み等が問われるものである。よって、東北地方および北海道を中心とした地域に所在する企業・事業所等を対象にアンケート調査を実施し、新大学卒業生の採用見通しなどについて把握することを目的とする。

(2) 調査対象

北海道及び東北地方に所在する企業・事業所を主たる調査対象とし、また東京都をはじめとする関東地方及びその他の府県に所在する企業等にも調査票を配付しアンケート調査を実施した。

(3) 実施時期

平成 23 年 11 月～12 月

(4) 回収状況

997 企業・事業所に配付し、283 の企業・事業所から回収した。回収率 28.4%。

アンケート調査票

（仮称）秋田公立美術大学美術学部美術学科に関するアンケート調査票

秋田市では、地域の伝統・文化をいかし、秋田から世界へ発信するグローバルな人材を育成すること等を目的に、秋田公立美術工芸短期大学を改組し、新たに（仮称）秋田公立美術大学を設置する計画を進めております。このアンケート調査はその一環として、事業所の皆様の職員採用のお考え等を把握し、新大学設置の基礎資料とするものです。お取り計らいのほどよろしくお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。結果はコンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用したりすることはありません。

回答は設問の順に該当する選択肢番号等を回答欄に直接記入してください。

■設置予定学部：美術学部美術学科　　入学定員 100～120 人（予定）
■キャンパスの所在地(予定)：〒010-1632　秋田市新屋大川町 12-3（現秋田公立美術工芸短期大学）
■設置予定時期：平成 25 年 4 月

※上記の構想は現在検討中であり、決まったものではありません。

【貴事業所についてうかがいます。】　　**【回答欄】**

※他に本所や支所がある場合にはそれらを含まず、貴事業所だけについてお答えください。

問１　本所（本店・本社）、支所（支店・支社）の別をお答えください。

1　単独事業所　｝問３以下へお進みください
2　本所（本店・本社）｝
3　支所（支店・支社）　→問２以下へお進みください　□

問２　問１で、３を回答された方のみにお尋ねします。

貴社本所（本店・本社）の所在地についてお尋ねします。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　秋田市内	5　岩手県	9　東京都
2　秋田市を除く秋田県内	6　宮城県	10　東京都を除く関東
3　北海道	7　山形県	11　その他（具体的に　　）
4　青森県	8　福島県	

□

問３　貴事業所の所在地についてお尋ねします。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　秋田市内	5　岩手県	9　東京都
2　秋田市を除く秋田県内	6　宮城県	10　東京都を除く関東
3　北海道	7　山形県	11　その他（具体的に　　）
4　青森県	8　福島県	

□

【次頁に続く】

問４　貴事業所の主な業種についてお尋ねします。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　農業、林業	6　卸売業・小売業	11　医療、福祉
2　建設業	7　金融業・保険業	12　公務
3　製造業	8　不動産業、物品賃貸業	13　未定
4　情報通信業	9　サービス業	14　その他
5　運輸業、郵便業	10　教育・学習支援業	（具体的に　　）

問５　貴事業所の従業員規模についてお尋ねします。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　20 人未満	4　100～199 人
2　20～49 人	5　200～299 人
3　50～99 人	6　300 人以上

【従業員の採用実績と予定についてうかがいます。】
※本社等で一括採用し、貴事業所に配属されるような場合は、貴事業所についてお答えください。

問６　貴事業所の現在の職員数は何人ですか。
①正規職員、②非正規職員（臨時採用、嘱託、派遣、アルバイト等）についてご記入ください。

①　正規職員　　人　　②非正規職員　　人

問７　貴事業所における過去３年間（平成２１～２３年度）の正規職員の**新卒採用者数について**ご記入ください。

①　平成２１年度　　人　　②平成２２年度　　人　　③平成２３年度　　人

問８　貴事業所が採用したいと考えている人材の学歴はどれですか。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　高校卒業	5　４年制大学卒業
2　短期大学卒業	6　大学院修了
3　専門学校卒業	7　特にこだわらない
4　高等専門学校（高専）卒業	

問９　貴事業所が採用したいと考えている学生の専攻分野はどれですか。
次の中から**第２希望まで**選んでください。

1　文学・外国語関係（史学・哲学含む）	10　コンピュータ・情報学関係
2　心理学関係	11　理学関係
3　法学・政治学関係	12　工学関係
4　教育学・保育学関係	13　農学関係
5　商学・経済学・経営学関係	14　医学・歯学・薬学関係
6　社会学・福祉学関係	15　看護学関係
7　芸術学関係	16　医療技術学関係（理学療法、作業療法等）
8　食物学・栄養学関係	17　体育学・スポーツ関係
9　家政学関係（被服・住居）	18　その他（具体的に　　）

第１希望

第２希望

【次頁に続く】

問 10　貴事業所が、新卒者を採用するうえで、特に必要だと考える事柄はどれですか。次の中から**３つまで**選んでください。

1　専門的知識・技術に係る資質・素養
2　幅広い知識・教養
3　何事にも積極的に取り組む行動力
4　礼儀作法を知り、常識的振る舞いができること
5　周囲の人と円滑なコミュニケーションを行う能力
6　コンピュータなどの情報処理能力
7　口頭や文書などによるプレゼンテーション能力
8　英語などの語学力
9　様々な資格・免許
10　国際的な感覚や知識
11　その他(具体的に　　)

【（仮称）秋田公立美術大学美術学部美術学科についてうかがいます。本大学の概要は別紙をご覧ください。】

問 11　貴事業所では、（仮称）秋田公立美術大学美術学部美術学科の卒業生を採用したいとお考えですか。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　ぜひ採用したい
2　採用したい
3　採用を検討したい
　} 問 12 以下へお進みください
4　採用を希望しない
5　わからない
　} 問 13 へお進みください

問 12　美術学部美術学科は、以下の１～５の専攻で構成する計画です。各専攻の概要は別紙をご覧ください。貴事業所では、下記のどの専攻の卒業生を採用したいとお考えですか。次の中から**第２希望まで**選んでください。

1　アート&ルーツ専攻
2　ビジュアルアーツ専攻
3　ものづくりデザイン専攻
4　コミュニケーションデザイン専攻
5　地域文化計画専攻
6　専攻にこだわらない

第１希望
第２希望

問 13　（仮称）秋田公立美術大学に関するご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

＊＊＊　これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。　＊＊＊

アンケート調査結果

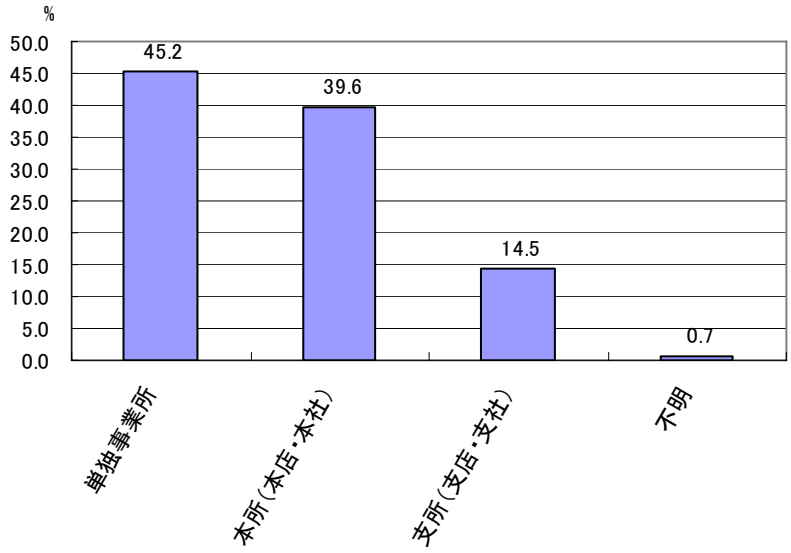
■　問１　本所・支所の別

問１　本所（本店・本社）、支所（支店・支社）の別をお答えください。

調査対象事業所の本所・支所の別は

・単独事業所　　45.2%（128 件）
・本所（本店・本社）　39.6%（112 件）
・支所（支店・支社）　14.5%（ 41 件）となっている。

【調査対象事業所の本所・支所の別】

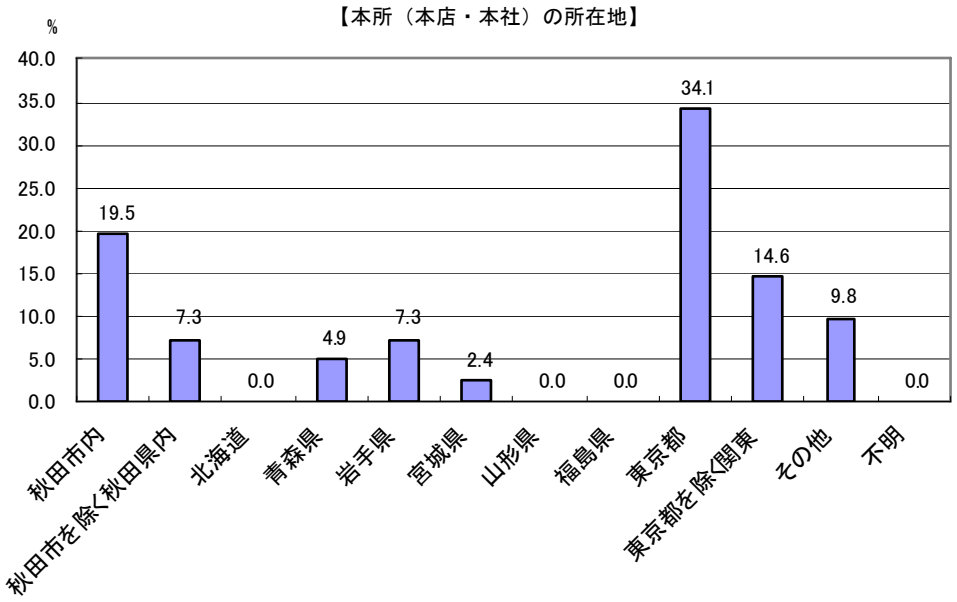


	件数	%
単独事業所	128	45.2
本所（本店・本社）	112	39.6
支所（支店・支社）	41	14.5
不明	2	0.7
合計	283	100

■　問２　本所（本店・本社）の所在地

問２　貴社本所（本店・本社）の所在地についてお尋ねします（問１で、「３　支所（支店・支社)」を選択した事業所のみ回答)。

問１で、「３　支所（支店・支社)」を選択した事業所の本所（本店・本社）の所在地は、選択率の高いものから順に①東京都（34.1%、14 件)、②秋田市内（19.5%、8 件)、③東京都を除く関東（14.6%、6 件）となっている。



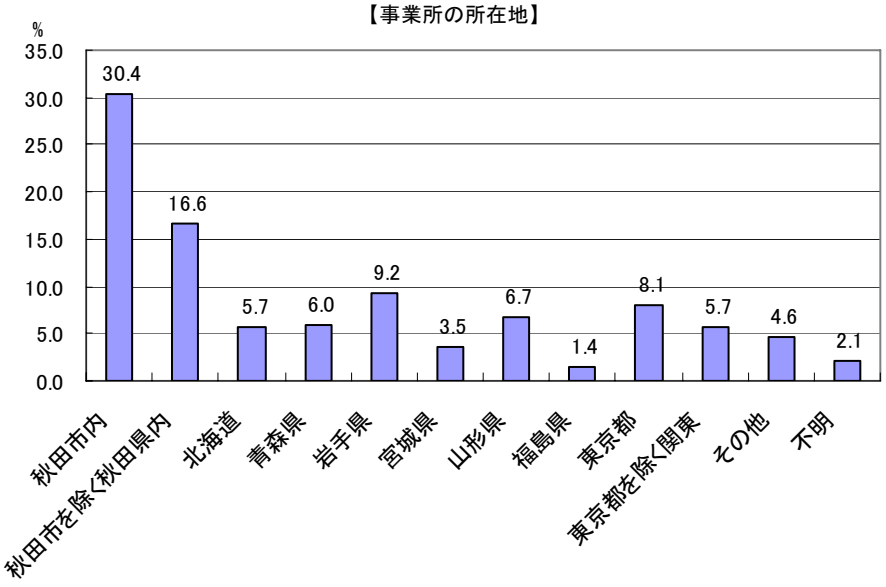
	件数	%
秋田市内	8	19.5
秋田市を除く秋田県内	3	7.3
北海道	0	0.0
青森県	2	4.9
岩手県	3	7.3
宮城県	1	2.4
山形県	0	0.0
福島県	0	0.0
東京都	14	34.1
東京都を除く関東	6	14.6
その他	4	9.8
不明	0	0.0
合計	41	100

■　問３　事業所の所在地

問３　貴事業所の所在地についてお尋ねします。

調査対象事業所の所在地は、選択率の高いほうから順に、①「秋田市内」30.4%（86件）、②「秋田市を除く秋田県内」16.6%（47 件）、③「岩手県」9.2%（26 件）、④「東京都」8.1%（23 件）となっている。

秋田県内のみで回答事業所の約５割（47.0%、133 件）を占めている。

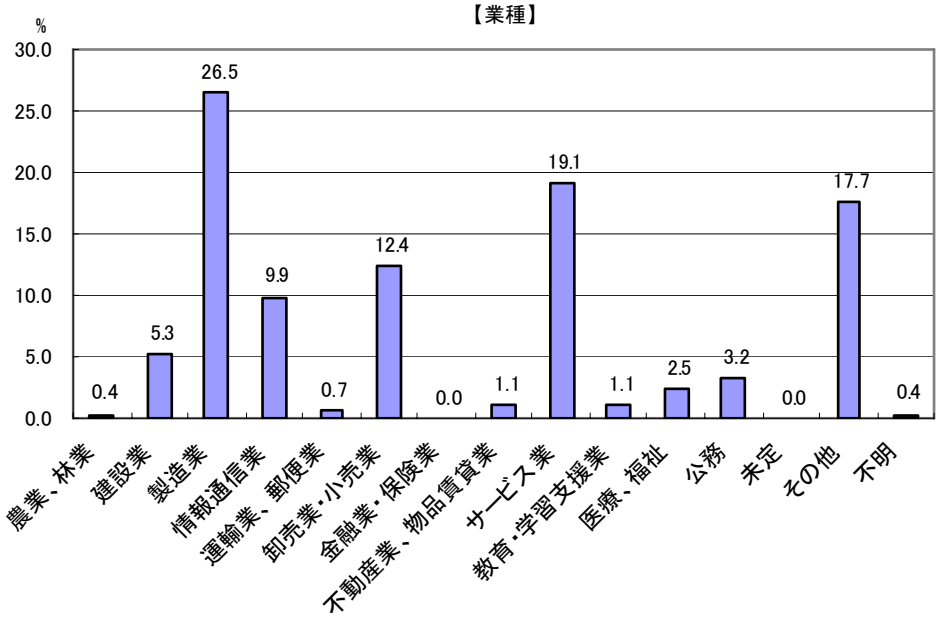


	件数	%
秋田市内	86	30.4
秋田市を除く秋田県内	47	16.6
北海道	16	5.7
青森県	17	6.0
岩手県	26	9.2
宮城県	10	3.5
山形県	19	6.7
福島県	4	1.4
東京都	23	8.1
東京都を除く関東	16	5.7
その他	13	4.6
不明	6	2.1
合計	283	100

■　問４　業種

問４　貴事業所の主な業種についてお尋ねします。

調査対象事業所の業種は、選択率の高いほうから順に、①「製造業」26.5%（75 件）、②「サービス業」19.1%（54 件）、③「卸売業・小売業」12.4%（35 件）、④「情報通信業」9.9%（28 件）となっている。



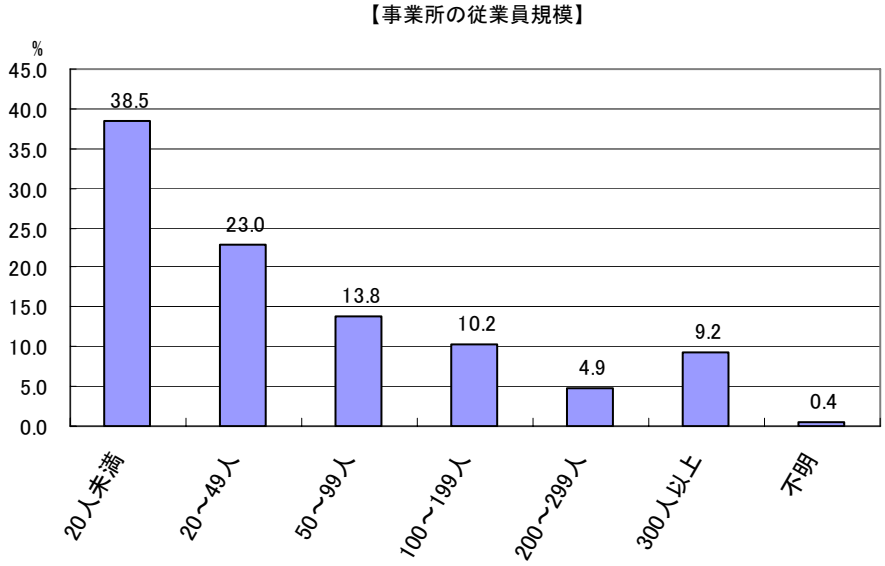
	件数	%
農業、林業	1	0.4
建設業	15	5.3
製造業	75	26.5
情報通信業	28	9.9
運輸業、郵便業	2	0.7
卸売業・小売業	35	12.4
金融業・保険業	0	0.0
不動産業、物品賃貸業	3	1.1
サービス業	54	19.1
教育・学習支援業	3	1.1
医療、福祉	7	2.5
公務	9	3.2
未定	0	0.0
その他	50	17.7
不明	1	0.4
合計	283	100

■　問５　事業所の従業員規模

問５　貴事業所の従業員規模についてお尋ねします。

回答事業所の従業員規模は選択率の高いほうから順に、①「20 人未満」38.5%（109 件）、②「20～49 人」23.0%（65 件）、③「50～99 人」13.8%（39 件）、④「100～199 人」10.2%（29 件）となっている。

50 人未満の事業所のみで回答事業所の約 6 割（61.5%、174 件）を占めている。



	件数	%
20 人未満	109	38.5
20～49 人	65	23.0
50～99 人	39	13.8
100～199 人	29	10.2
200～299 人	14	4.9
300 人以上	26	9.2
不明	1	0.4
合計	283	100

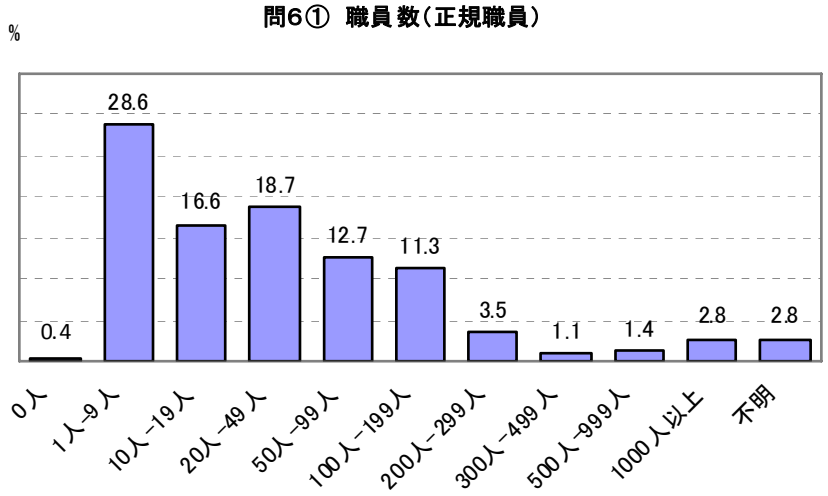
■　問６　事業所の現在の職員数

問６　貴事業所の現在の職員数は何人ですか。
①正規職員、②非正規職員（臨時採用、嘱託、派遣、アルバイト等）についてご記入ください。

①正規職員数について

回答事業所の正規職員数は選択率の高いほうから順に、①「1 人-9 人」28.6%（81 件）、②「20～49 人」18.7%（53 件）、③「10 人-19 人」16.6%（47 件）、④「50 人-99 人」12.7%（36 件）となっている。

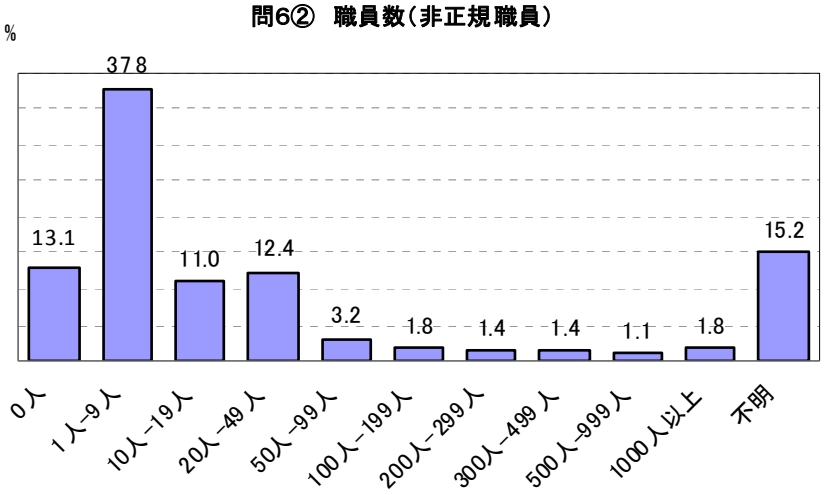
正規職員数 20 人未満の事業所で回答事業所の 45.2%（128 件）、50 人未満の事業所で 63.9%（181 件）を占めている。



	件数	%
0 人	1	0.4
1 人-9 人	81	28.6
10 人-19 人	47	16.6
20 人-49 人	53	18.7
50 人-99 人	36	12.7
100 人-199 人	32	11.3
200 人-299 人	10	3.5
300 人-499 人	3	1.1
500 人-999 人	4	1.4
1000 人以上	8	2.8
不明	8	2.8
合計	283	100

②非正規職員数について

調査対象事業所の非正規職員数は選択率の高いほうから順に、①「1 人-9 人」37.8%（107 件)、②「0 人」13.1%（37 件)、③「20 人-49 人」12.4%（35 件)、④「10 人-19 人」11.0%（31 件）となっている。



	件数	%
0 人	37	13.1
1 人-9 人	107	37.8
10 人-19 人	31	11.0
20 人-49 人	35	12.4
50 人-99 人	9	3.2
100 人-199 人	5	1.8
200 人-299 人	4	1.4
300 人-499 人	4	1.4
500 人-999 人	3	1.1
1000 人以上	5	1.8
不明	43	15.2
合計	283	100

■　問７　過去３年間（平成２１～２３年度）の正規職員の新卒採用者数

問７　貴事業所における過去３年間（平成２１～２３年度）の正規職員の新卒採用者数についてご記入ください。

各年度の正規職員新卒採用者数につき選択率の高いものから順に、以下のようになっている（次ページ表参照）。

● 平成 21 年度

① 0 人	50.2%（142 件）
② 1 人-5 人	32.5%（92 件）
③ 10 人-19 人	3.5%（10 件）

● 平成 22 年度

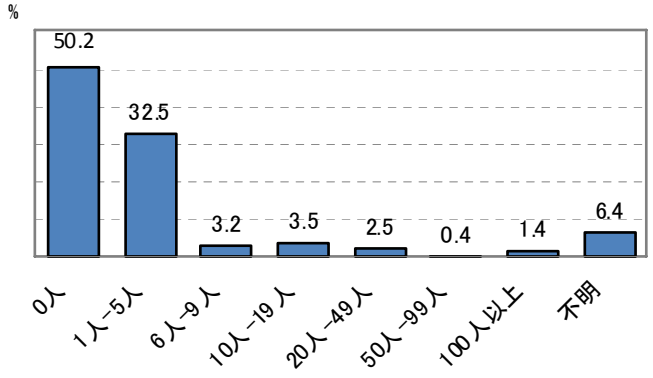
① 0 人	52.3%（148 件）
② 1 人-5 人	33.9%（96 件）
③ 10 人-19 人	3.2%（9 件）

● 平成 23 年度

① 0 人	50.5%（143 件）
② 1 人-5 人	31.8%（90 件）
③ 6 人-9 人	4.9%（14 件）

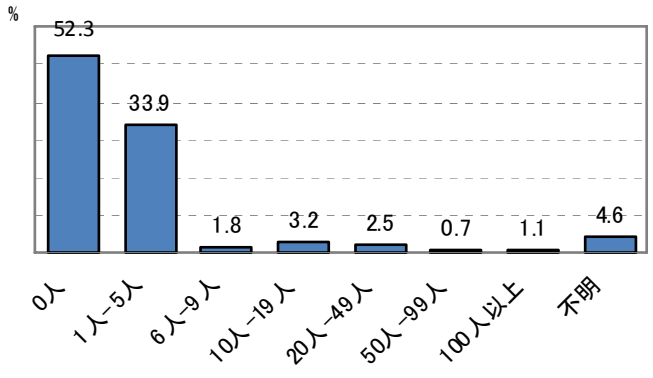
各年度とも回答事業所の約半数が採用数ゼロであるものの、毎年 120 程度の回答事業所が新卒者を採用している（平成 21 年度 123 件、平成 22 年度 122 件、平成 23 年度 124 件）。

問7① 新卒採用者数（21年度）



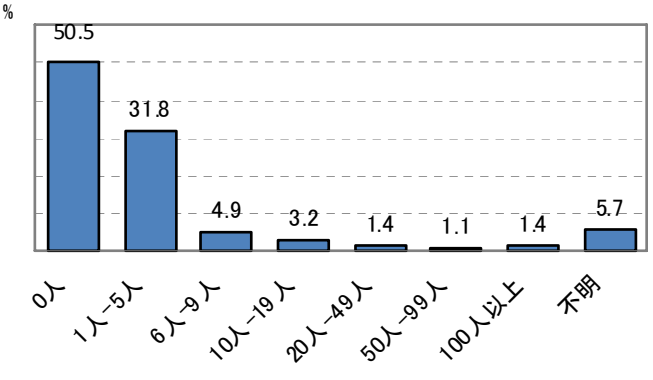
	件数	%
0 人	142	50.2
1 人-5 人	92	32.5
6 人-9 人	9	3.2
10 人-19 人	10	3.5
20 人-49 人	7	2.5
50 人-99 人	1	0.4
100 人以上	4	1.4
不明	18	6.4
合計	283	100

問7② 新卒採用者数（22年度）



	件数	%
0 人	148	52.3
1 人-5 人	96	33.9
6 人-9 人	5	1.8
10 人-19 人	9	3.2
20 人-49 人	7	2.5
50 人-99 人	2	0.7
100 人以上	3	1.1
不明	13	4.6
合計	283	100

問7③ 新卒採用者数（23年度）

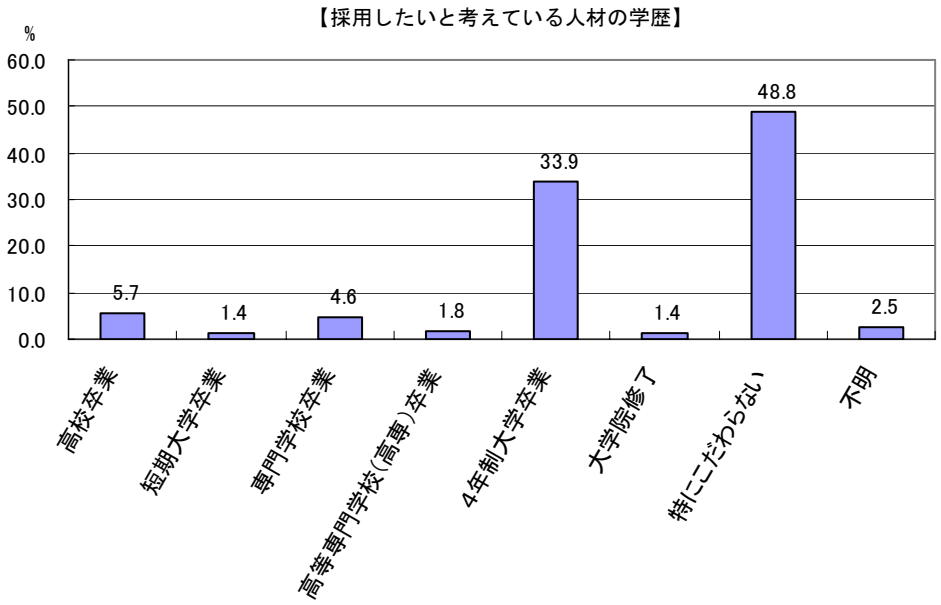


	件数	%
0 人	143	50.5
1 人-5 人	90	31.8
6 人-9 人	14	4.9
10 人-19 人	9	3.2
20 人-49 人	4	1.4
50 人-99 人	3	1.1
100 人以上	4	1.4
不明	16	5.7
合計	283	100

■　問８　採用したいと考えている人材の学歴

問８　貴事業所が採用したいと考えている人材の学歴はどれですか。

学歴は「特にこだわらない」事業所が約 5 割（48.8%、138 件）を占めたが、「４年制大学卒業」を希望する事業所も約 4 割（33.9%、96 件）に上る。



	件数	%
高校卒業	16	5.7
短期大学卒業	4	1.4
専門学校卒業	13	4.6
高等専門学校（高専）卒業	5	1.8
４年制大学卒業	96	33.9
大学院修了	4	1.4
特にこだわらない	138	48.8
不明	7	2.5
合計	283	100

■　問９　採用したいと考えている学生の専攻分野（第１希望、第２希望）

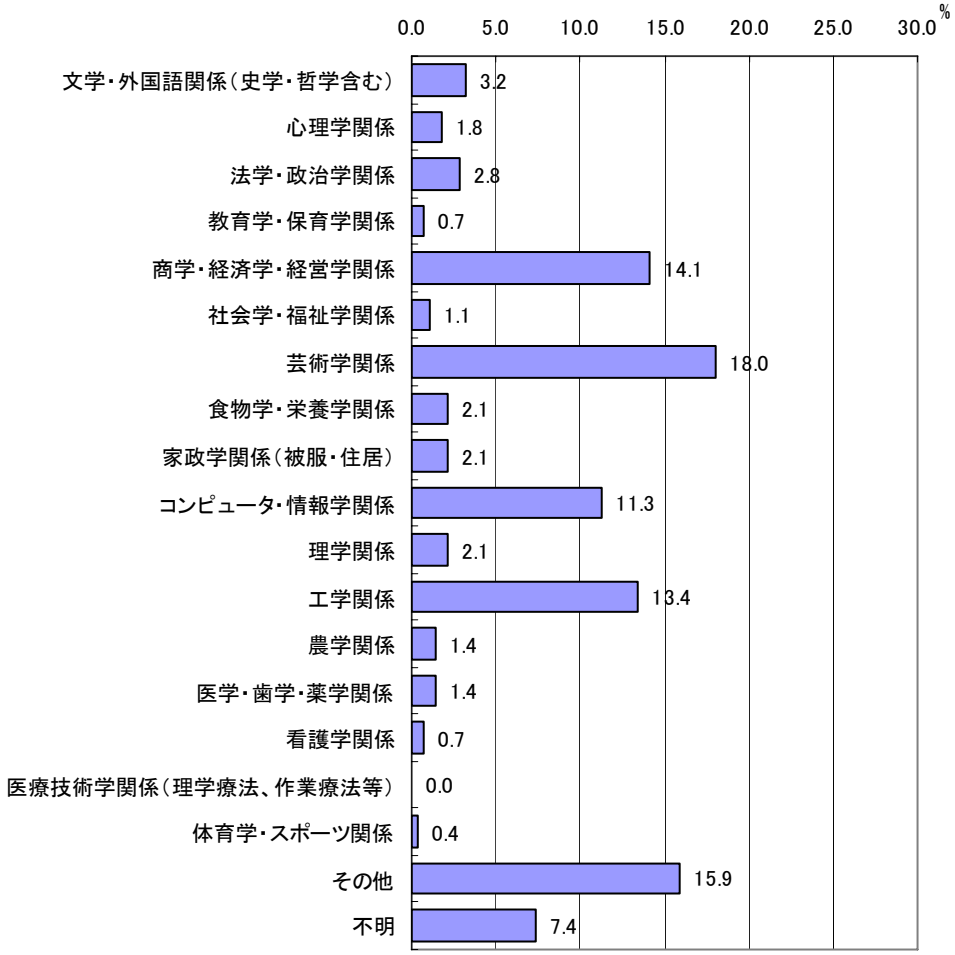
問９　貴事業所が採用したいと考えている学生の専攻分野はどれですか。
次の中から**第２希望まで**選んでください。

１　第１希望について

選択率の高いほうから順に、

①「芸術学関係」　18.0%（51 件）
②「商学・経済学・経営学関係」　14.1%（40 件）
③「工学関係」　13.4%（38 件）
④「コンピュータ・情報学関係」　11.3%（32 件）となっている。

【採用したいと考えている学生の専攻分野（第１希望）】



【採用したいと考えている学生の専攻分野（第１希望）】

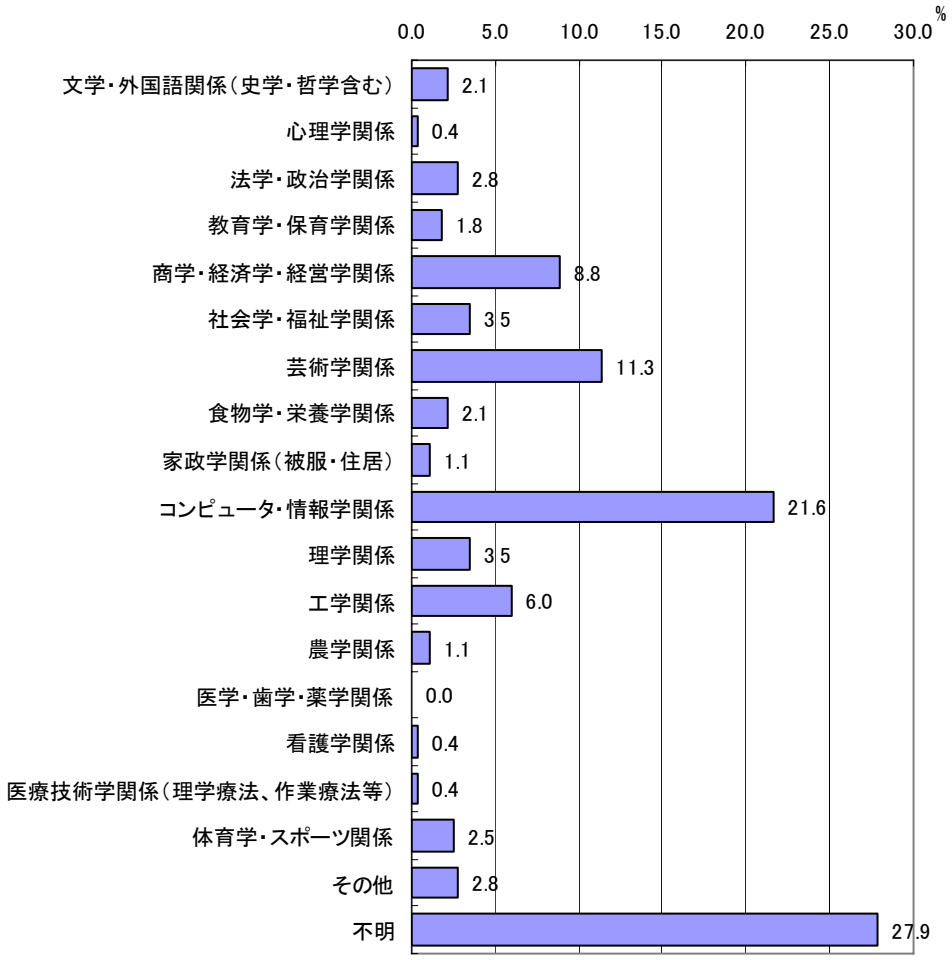
	件数	%
文学・外国語関係（史学・哲学含む）	9	3.2
心理学関係	5	1.8
法学・政治学関係	8	2.8
教育学・保育学関係	2	0.7
商学・経済学・経営学関係	40	14.1
社会学・福祉学関係	3	1.1
芸術学関係	51	18.0
食物学・栄養学関係	6	2.1
家政学関係（被服・住居）	6	2.1
コンピュータ・情報学関係	32	11.3
理学関係	6	2.1
工学関係	38	13.4
農学関係	4	1.4
医学・歯学・薬学関係	4	1.4
看護学関係	2	0.7
医療技術学関係（理学療法、作業療法等）	0	0.0
体育学・スポーツ関係	1	0.4
その他	45	15.9
不明	21	7.4
合計	283	100

２　第２希望について

選択率の高いほうから順に、

①「コンピュータ・情報学関係」　21.6%（61 件）
②「芸術学関係」　11.3%（32 件）
③「商学・経済学・経営学関係」　8.8%（25 件）
④「工学関係」　6.0%（17 件）となっている。

【採用したいと考えている学生の専攻分野（第２希望）】



【採用したいと考えている学生の専攻分野（第２希望）】

	件数	%
文学・外国語関係（史学・哲学含む）	6	2.1
心理学関係	1	0.4
法学・政治学関係	8	2.8
教育学・保育学関係	5	1.8
商学・経済学・経営学関係	25	8.8
社会学・福祉学関係	10	3.5
芸術学関係	32	11.3
食物学・栄養学関係	6	2.1
家政学関係（被服・住居）	3	1.1
コンピュータ・情報学関係	61	21.6
理学関係	10	3.5
工学関係	17	6.0
農学関係	3	1.1
医学・歯学・薬学関係	0	0.0
看護学関係	1	0.4
医療技術学関係（理学療法、作業療法等）	1	0.4
体育学・スポーツ関係	7	2.5
その他	8	2.8
不明	79	27.9
合計	283	100

■　問１０　新卒者を採用するうえで特に必要だと考える事柄（複数回答）

問１０　貴事業所が、新卒者を採用するうえで、特に必要だと考える事柄はどれですか。
次の中から**３つまで**選んでください。

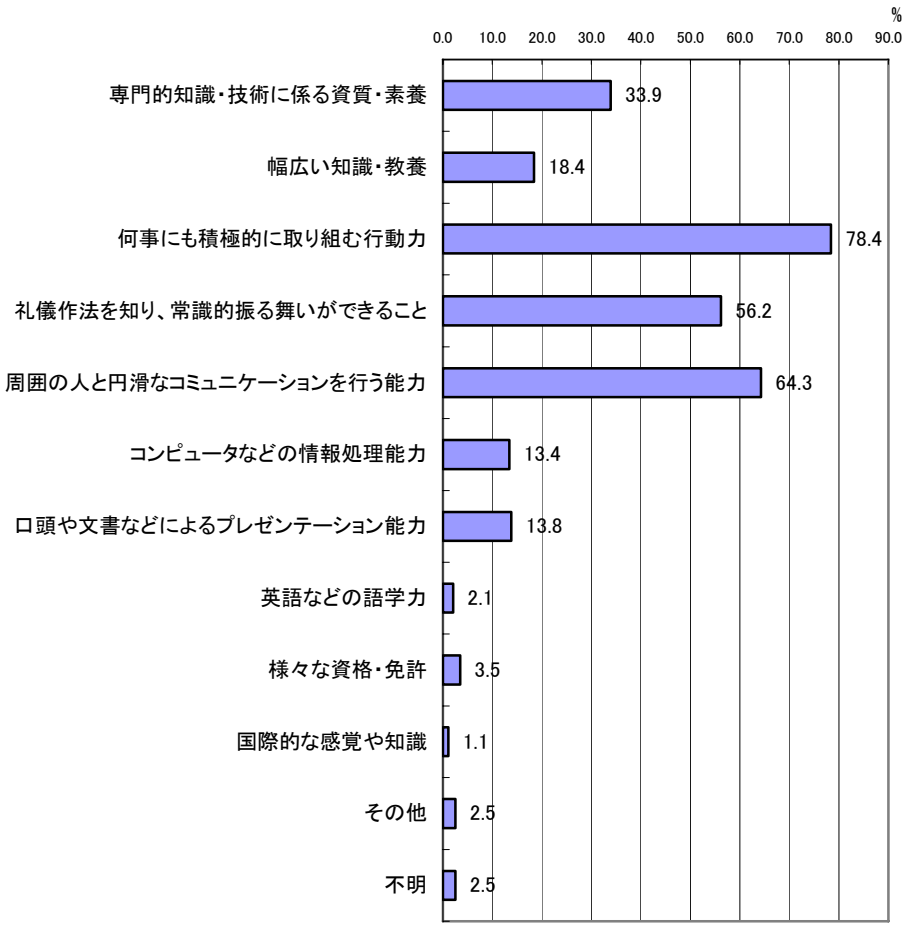
選択率の高いほうから順に、

①「何事にも積極的に取り組む行動力」　78.4%（222 件）
②「周囲の人と円滑なコミュニケーションを行う能力」　64.3%（182 件）
③「礼儀作法を知り、常識的振る舞いができること」　56.2%（159 件）
④「専門的知識・技術に係る資質・素養」　33.9%（ 96 件）

となっている。

企業は学生に対して、専門的知識・技術以上に行動力、コミュニケーション能力、礼儀作法等の一般的能力を求めているといえる。

【新卒者を採用するうえで特に必要だと考える事柄（複数回答）】



【新卒者を採用するうえで特に必要だと考える事柄（複数回答）】

	件数	%
専門的知識・技術に係る資質・素養	96	33.9
幅広い知識・教養	52	18.4
何事にも積極的に取り組む行動力	222	78.4
礼儀作法を知り、常識的振る舞いができること	159	56.2
周囲の人と円滑なコミュニケーションを行う能力	182	64.3
コンピュータなどの情報処理能力	38	13.4
口頭や文書などによるプレゼンテーション能力	39	13.8
英語などの語学力	6	2.1
様々な資格・免許	10	3.5
国際的な感覚や知識	3	1.1
その他	7	2.5
不明	7	2.5
合計	283	100

■　問１１（仮称）秋田公立美術大学美術学部美術学科卒業生の採用意向

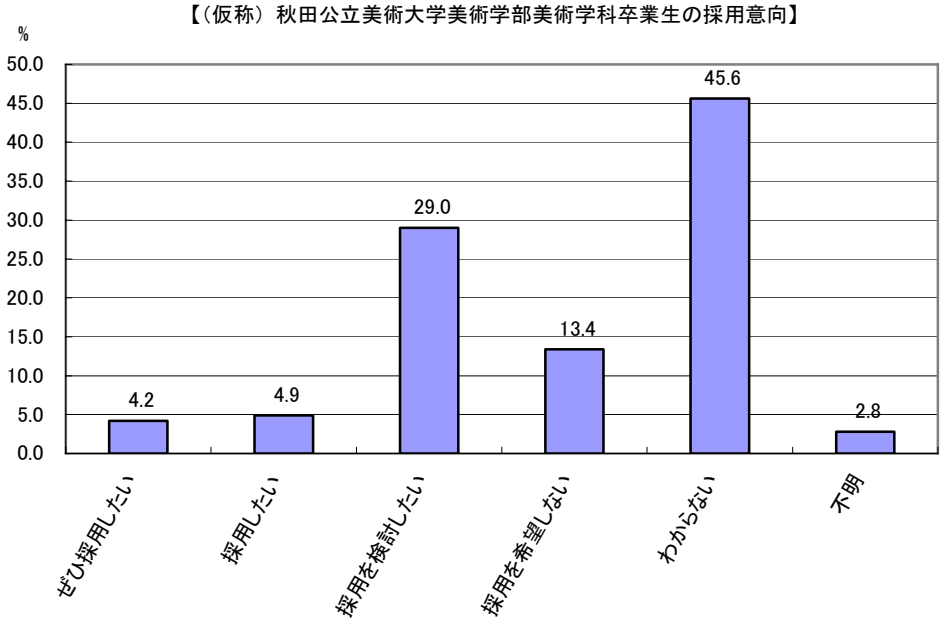
問１１　貴事業所では、(仮称) 秋田公立美術大学美術学部美術学科の卒業生を採用したいとお考えですか。

本大学卒業生の採用意向につき、

・「ぜひ採用したい」　4.2%（12 件）
・「採用したい」　4.9%（14 件）
・「採用を検討したい」　29.0%（82 件）という結果となった。

「ぜひ採用したい」「採用したい」「採用を検討したい」を合計すると、回答事業所の 38.1%（108 件）が秋田公立美術大学卒業生の採用につき前向きな姿勢を有しているといえる。

【(仮称) 秋田公立美術大学美術学部美術学科卒業生の採用意向】



	件数	%
ぜひ採用したい	12	4.2
採用したい	14	4.9
採用を検討したい	82	29.0
採用を希望しない	38	13.4
わからない	129	45.6
不明	8	2.8
合計	283	100

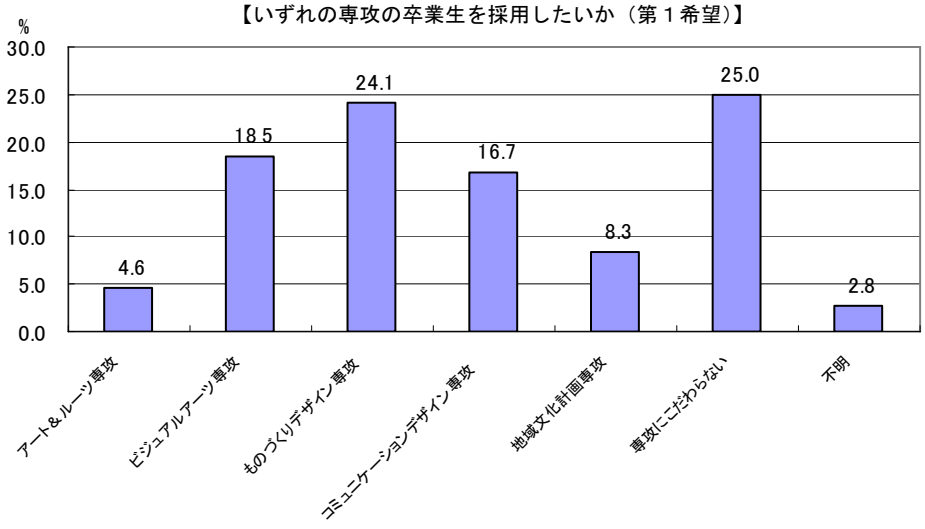
■　問１２　いずれの専攻の卒業生を採用したいか（第１希望、第２希望）

問１２　貴事業所では、下記のどの専攻の卒業生を採用したいとお考えですか。次の中から**第２希望まで**選んでください（問１１で「ぜひ採用したい」「採用したい」「採用を検討したい」を選択した者のみ回答）。

１　第１希望について

選択率の高いほうから順に、

①「専攻にこだわらない」　25.0%（27 件）
②「ものづくりデザイン専攻」　24.1%（26 件）
③「ビジュアルアーツ専攻」　18.5%（20 件）
④「コミュニケーションデザイン専攻」　16.7%（18 件）
⑤「地域文化計画専攻」　8.3%（ 9 件）
⑥「アート＆ルーツ専攻」　4.6%（ 5 件）となっている。

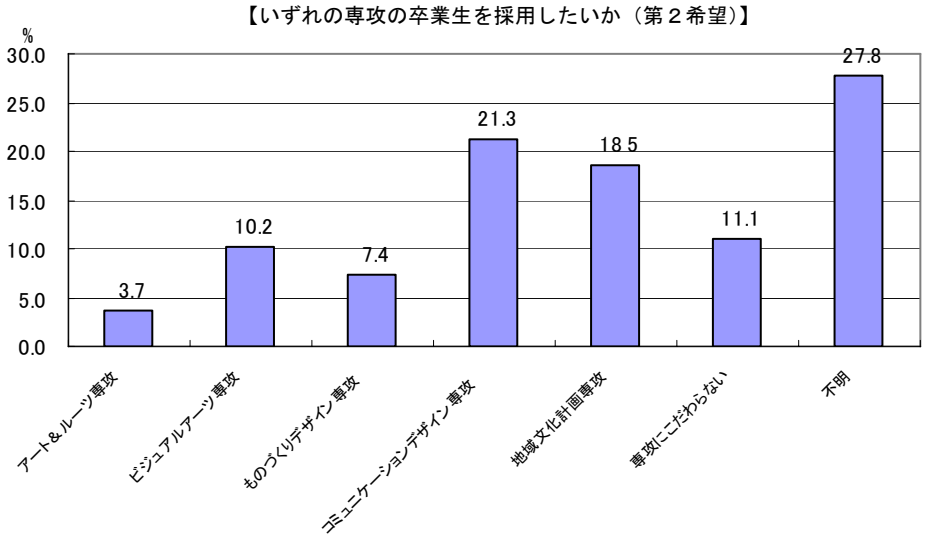


	件数	%
アート＆ルーツ専攻	5	4.6
ビジュアルアーツ専攻	20	18.5
ものづくりデザイン専攻	26	24.1
コミュニケーションデザイン専攻	18	16.7
地域文化計画専攻	9	8.3
専攻にこだわらない	27	25.0
不明	3	2.8
合計	108	100

２　第２希望について

選択率の高いほうから順に、

①「コミュニケーションデザイン専攻」　21.3%（23 件）
②「地域文化計画専攻」　18.5%（20 件）
③「専攻にこだわらない」　11.1%（12 件）
④「ビジュアルアーツ専攻」　10.2%（11 件）
⑤「ものづくりデザイン専攻」　7.4%（ 8 件）
⑥「アート＆ルーツ専攻」　3.7%（ 4 件）となっている。



	件数	%
アート＆ルーツ専攻	4	3.7
ビジュアルアーツ専攻	11	10.2
ものづくりデザイン専攻	8	7.4
コミュニケーションデザイン専攻	23	21.3
地域文化計画専攻	20	18.5
専攻にこだわらない	12	11.1
不明	30	27.8
合計	108	100

■ 問１３　秋田公立美術大学についての自由回答

問１３　（仮称）秋田公立美術大学に関するご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

問 13 自由回答
様々なコミュニティーの活性化に積極的に取組む意欲と能力を身に付けた人材を輩出してください。
4 年制大学が設置されることを希望します。
グラフィックの技術ばかりで、タイポグラフィ、DTP のレイアウト技能（職業として通じる範囲の）がとても低いと感じます。絵で食べてゆける人はほんの数パーセント、もっと職業としてのスキルを身につけさせないと学生の進路が狭まると考えています。
秋田の経済状況で四大で必要かは疑問です。現短大で充分かと思う。
教授、講師の質の向上を実現して欲しい。
期待しています。
我々飲食業もソフトの部分での発信が大事であるので、そのような分野での能力の発揮できるような人材も育成して欲しい。
当方でも非正規職員ですが、秋田公立美術工芸短期大学卒の方がおり、活躍して頂いています。チラシ等の販促的なものの制作はもちろんですが、積極的にその他の業務にも取り組んで頂いており、そういう点のご指導も学校でされているのは大変ありがたいと感じます。
今の美短の教師陣に人を育てる力量があるとは思えない。この状態で大学にしても良い人材は輩出できない。
卒業後の進路、就職に困難をきたさないよう熟慮し、カリキュラムを工夫して欲しい。
問 8 から問 12 までについては、地方公務員としての学力や知識、さらに消防職員としての体力を兼ね備えた人物を必要としています。
ご期待には応えられないと思います。
製造業の為、専門的な知識、技術の習得が採用の条件となる。工学系卒が第一条件。
H23 年 3 月末、たまたま人件費があり美短の卒業生を雇用しました。単なる緊急雇用で期限付きのものでした。そういうわけでこのアンケートに回答することとなったと思いますが、この先、私たちのところで人を雇用する力はありませんので、あまり意味のある答えでもなく申し訳ありません。でも本当にしっかりしていて気が利く子たちで、私にもっと人件費を持たせてくれればこの子たちをもっと長く雇用して一緒に仕事ができるのに本当に残念でなりません。若い人たちを期限付きで雇用するような社会してしまった責任は私たちにあり、申し訳ないとしみじみ感じています。こういう雇用の継続ではなく、きちんとした雇用をしてあげなければ、結婚・出産・子育てができません。市の力は弱くなるばかりです。秋田市は小さい子の子育て支援ばかりでなく、若年者支援をきちんとしてください。

資料17

平成 22 年 3 月

秋田県高等学校卒業者の
進　路　状　況　調　査

平成 22 年 3 月 31 日調査

秋田県教育庁高校教育課

目　　次

概　況 …… **1**

Ⅰ　進路概況 …… **3**
（1）全日制課程 …… 3
（2）定時制課程 …… 5
（3）志望達成率 …… 6

Ⅱ　全日制課程の進路状況 …… **7**
（1）進学者の内訳 …… 7
①　大学・短大の学部学科別進学状況 …… 7
②　大学・短大の地域別進学状況 …… 8
（2）国公立・管外大受験・合格状況 …… 9
（3）専修学校等への分野別進学者数 …… 10
（4）地域別就職状況 …… 11
（5）職種別就職状況 …… 11
（6）業種別就職状況 …… 12
（7）就職進学状況 …… 13
（8）その他の者の内訳 …… 13
（9）秋田県内の大学への進学者数の推移 …… 13
(10) 秋田県内の大学・短大への進学者数 …… 14
(11) 学校別進路状況 …… 15
(12) 学校別進学状況 …… 16
(13) 参考 …… 17

Ⅲ　定時制課程の進路状況 …… **19**
（1）進路状況 …… 19
（2）大学・短大の学部・学科別進学状況 …… 19
（3）地域別大学等進学者数 …… 19
（4）専修学校等への分野別進学者数 …… 19
（5）その他の者の内訳 …… 19
（6）地域別就職者数 …… 20
（7）職種別就職者数 …… 20
（8）業種別就職者数 …… 20
（9）秋田県内の大学・短大への進学者数 …… 20
(10) 学校別進路状況 …… 20

Ⅳ　大学別進学者数（全日制課程３月卒業者） …… **21**

概　　況

1　全日制課程（公・私立高校）

卒業者総数は 9,683名、前年比 182名減少

ア　卒業者は 9,683名で、21年卒より 182名、20年卒より 727名減少している。
イ　学科別の卒業者の割合は、普通科（理数科、英語科、国際科を含む）が 70.0%、職業学科が 26.0%、総合学科が 4.0%である。

（1）　進　　学

大学進学率は 47.0%、前年比 2.1ポイント増加

ア　大学（四年制大学及び短期大学、ただし就職進学者は除く）への進学者は 4,549名で、21年卒より 119名増加、20年卒より 27名減少している。
イ　大学進学率（卒業者総数に対する大学進学者の割合）は 47.0%で、21年卒より 2.1ポイント、20年卒より 3.0ポイント増加している。男子の進学率は 43.4%、女子の進学率は 50.6%である。

国公立・管外大への進学者は 1,563名、前年比 27名増加

ア　国公立・管外大（四年制）への進学者は 1,563名で、21年卒より 27名増加、20年卒より 67名減少している。
　私立大（四年制）への進学者は 2,162名で、21年卒より 23名、20年卒より 134名増加している。
　また、短期大学への進学者は 824名で、21年卒より 69名増加、20年卒より 94名減少している。
イ　国公立・管外大（四年制）への進学者があった学校は 62校中(分校2校を含む) 49校である。
ウ　推薦・ＡＯ入試による入学者は、国公立・管外大が 461名(29.5%)である。

国公立・管外大の合格率(延べ)は 41.2%、 1.9ポイント減少

ア　大学入試センター試験の受験者数は 3,784名、卒業者総数の 39.1%であり、21年卒より 132名増加、率では 2.1ポイント増加している。
イ　国公立・管外大の延べ受験者数は 4,192名、延べ合格者数は 1,727名、延べ合格率は 41.2%で、21年卒より 1.9ポイント、20年卒より 6.7ポイント減少している。
ウ　国公立・管外大の推薦・ＡＯによる合格者は 474名で、21年卒より 42名増加、20年卒より 22名減少している。内訳は、普通科(理数科、英語科、国際科含む) 383名、 工業科 53名、 農業科 18名、 商業科 13名、情報科 1名、総合学科 6名で、21年卒より普通科は 37名、農業科は 9名増加、総合学科は 4名減少している。工業科、商業科、情報科は同数になっている。
エ　国公立・管外大の一般試験による合格者は 1,253名で、21年卒より 32名増加、20年卒より 39名減少している。内訳は、普通科（理数科、英語科、国際科含む）1,242名、工業科 2名、商業科 3名、総合学科 6名である。

国公立・管外大受験・合格状況(延べ数)

卒業年	平 成 22 年			平 成 21 年		
	推薦・ＡＯ	一般受験	合　計	推薦・ＡＯ	一般受験	合　計
受験者	１，０９３	３，０９９	４，１９２	８６３	２，９６８	３，８３１
合格者	４７４	１，２５３	１，７２７	４３２	１，２２１	１，６５３
合格率	４３．４％	４０．４％	４１．２％	５０．１％	４１．１％	４３．１％

オ　私立大は延べ受験者数が 7,801名、合格者数が 3,991名で、合格率は 51.2%である（推薦入学を含む）。

専修学校等への進学率は 20.7%

ア　専修学校等への進学者は 2,002名で、21年卒より 162名、20年卒より 19名増加している。
イ　専修学校等への進学率は 20.7%で、21年卒より 2.0ポイント、20年卒より 1.7ポイント増加している。
ウ　大学・短大及び専修学校等への進学者数を合計した進学率は 67.7%で、21年卒より 4.1ポイント、20年卒より 4.7ポイント増加している。

（2）　就　　職

就職率は 26.6%、前年比 3.9ポイント減少

ア　就職者（自営、就職進学者を含む）は 2,578名で、21年卒より 430名、20年卒より 698名減少している。
イ　就職率（卒業者総数に対する就職者の割合）は 26.6%で、21年卒より 3.9ポイント、20年卒より 4.9ポイント減少している。

県内就職率は 56.8%、前年比 4.3ポイント増加

ア　県内就職者は 1,464名で、21年卒より 115名、20年卒より 505名減少している。
イ　県内就職率（就職者総数に対する県内就職者の割合）は 56.8%で、21年卒よりも 4.3ポイント増加、20年卒より 3.3ポイント減少している。
ウ　県内就職率の高い学科(当該学科における就職者総数に対する県内就職者の割合)は、農業科 69.4%、情報科 69.2%、福祉科 68.6%などである。
エ　県外就職者は 1,114名で、21年卒より 315名、20年卒より 193名減少している。
オ　県外就職率は 43.2%で、21年卒より 4.3ポイント減少、20年卒より 3.3ポイント増加している。

（3）　その他

その他は 5.7%、進学準備者 424名、就職準備者 109名

ア　その他の者の数は 554名で、21年卒より 33名、20年卒より 21名減少している。
イ　その他の者の内、進学準備者は 424名で、21年卒より 40名、20年卒より 15名減少している。また、就職準備者は 109名で、21年卒より 7名、20年卒より 3名増加している。

2　定時制課程（公立高校）

卒業者数は 203名で前年比 17名増、就職率は 30.0%で前年比 1.7ポイント減少

ア　卒業者は21年卒より 17名、20年卒より 43名増加している。
イ　就職者は 61名で、21年卒より 2名、20年卒より 16名増加している。その内、県内就職者は 51名で、県内就職率は 83.6%である。
ウ　大学への進学者は 18名（四年制大学 12名、短期大学 6名）で、大学進学率は 8.9%である。
　　専修学校等への進学者は 43名で、21年卒より 2名増加している。大学・短大及び専修学校等への進学率は 30.0%である。
エ　その他の人数は 81名で、その内、就職準備者が 62名である。

3　通信制課程（公・私立高校）

卒業者数は 112名で前年比 2名減少

資料６

平成 21 年３月

秋田県高等学校卒業者の
進　路　状　況　調　査

平成 21 年３月 31 日調査

秋田県教育庁高校教育課

概　　況

1　全日制課程（公・私立高校）

卒業者総数は 9,865名、前年比 545名減少

ア　卒業者は 9,865名で、20年卒より 545名、19年卒より 968名減少している。
イ　学科別の卒業者の割合は、普通科（理数科、英語科を含む）が 68.9%、職業学科が 27.7%、総合学科が 3.4%である。

（1）　進　　学

大学進学率は 44.9%、前年比 0.9ポイント増加

ア　大学（四年制大学及び短期大学、ただし就職進学者は除く）への進学者は 4,430名で、20年卒より 146名、19年卒より 170名減少している。
イ　大学進学率（卒業者総数に対する大学進学者の割合）は 44.9%で、20年卒より 0.9ポイント、19年卒より 2.4ポイント増加している。男子の進学率は 42.4%、女子の進学率は 47.5%である。

国公立・管外大への進学者は 1,536名、前年比 94名減少

ア　国公立・管外大（四年制）への進学者は 1,536名で、20年卒より 94名、19年卒より 23名減少している。
　私立大学（四年制）への進学者は 2,139名で、20年卒より 111名、19年卒より 65名増加している。
　また、短期大学への進学者は 755名で、20年卒より 163名、19年卒より 212名減少している。
イ　国公立・管外大（四年制）への進学者があった学校は 62校中(分校2校を含む) 50校である。
ウ　推薦・ＡＯ入試による入学者は、国公立管外大が 424名(27.6%)である。

国公立・管外大の合格率(延べ)は 43.1%、 4.8ポイント減少

ア　大学入試センター試験の受験者数は 3,652名、卒業者総数の 37.0%であり、20年卒より 53名増加、率では2.4ポイント増加している。
イ　国公立・管外大の延べ受験者数は 3,831名、延べ合格者数は 1,653名、延べ合格率は 43.1%で、20年卒より 4.8ポイント、19年卒より 0.2ポイント減少している。
ウ　国公立・管外大の推薦・ＡＯによる合格者は 432名で、20年卒より 64名減少、19年卒より21名増加している。内訳は、普通科(理数科、英語科含む) 346名、 工業科 53名、 農業科 9名、 商業科 13名、情報科 1名、総合学科 10名で、20年卒より普通科は 28名、工業科は 8名、農業科は 10名、商業科は 9名、総合学科は 9名減少している。情報科は同数になっている。
エ　国公立・管外大の一般試験による合格者は 1,221名で、20年卒より 71名、19年卒より 22名減少している。内訳は、普通科（理数科、英語科含む）1,211名、工業科 2名、商業科 2名、総合学科 6名である。

国公立・管外大受験・合格状況(延べ数)

卒業年	平 成 21 年			平 成 20 年		
	推薦・ＡＯ	一般受験	合　計	推薦・ＡＯ	一般受験	合　計
受験者	８６３	２，９６８	３，８３１	９７９	２，７５５	３，７３４
合格者	４３２	１，２２１	１，６５３	４９６	１，２９２	１，７８８
合格率	５０．１％	４１．１％	４３．１％	５０．７％	４６．９％	４７．９％

オ　私立大学は延べ受験者数が 7,300名、合格者数が 3,823名で、合格率は 52.4%である（推薦・ＡＯを含む）。

専修学校等への進学率は 18.7%

ア　専修学校等への進学者は 1,840名で、20年卒より 143名、19年卒より 374名減少している。
イ　専修学校等への進学率は 18.7%で、20年卒より 0.3ポイント、19年卒より 1.7ポイント減少している。
ウ　大学・短大及び専修学校等への進学者数を合計した進学率は 63.6%で、20年卒より 0.6ポイント、19年卒より 0.7ポイント増加している。

（2）　就　　職

就職率は 30.5%、前年比 1.0ポイント減少

ア　就職者（自営、就職進学者を含む）は 3,008名で、20年卒より 268名、19年卒より 414名減少している。
イ　就職率（卒業者総数に対する就職者の割合）は 30.5%で、20年卒より 1.0ポイント、19年卒より 1.1ポイント減少している。

県内就職率は 52.5%、前年比 7.6ポイント減少

ア　県内就職者は 1,579名で、20年卒より 390名、19年卒より 534名減少している。
イ　県内就職率（就職者総数に対する県内就職者の割合）は 52.5%で、20年卒よりも 7.6ポイント、19年卒より 9.2ポイント減少している。
ウ　県内就職率の高い学科(当該学科における就職者総数に対する県内就職者の割合)は、農業科 69.4%、福祉科 64.1%、家庭科 62.7%などである。
エ　県外就職者は 1,429名で、20年卒より 122名、19年卒より 120名増加している。
オ　県外就職率は 47.5%で、20年卒より 7.6ポイント、19年卒より 9.2ポイント増加している。

（3）　その他

その他は 6.0%、進学準備者 464名、就職準備者 102名

ア　その他の者の数は 587名で、20年卒より 12名増加、19年卒より 10名減少している。
イ　その他の者の内、進学準備者は 464名で、20年卒より 25名、19年卒より 10名増加している。また、就職準備者は 102名で、20年卒より 4名、19年卒より 11名減少している。

2　定時制課程（公立高校）

卒業者数は 186名で前年比 26名増、就職率は 31.7%で前年比 3.6ポイント増加

ア　卒業生は20年卒より 26名、19年卒より 9名増加している。
イ　就職者は 59名で、20年卒より 14名増加、19年卒より 3名減少している。その内、県内就職者は 37名で、県内就職率は 62.7%である。
ウ　大学への進学者は 23名（四年制大学 10名、短大 13名）で、大学進学率は 12.4%である。
　専修学校等への進学者は 41名で、20年卒より 10名増加している。大学・短大及び専修学校等への進学率は 34.4%である。
エ　その他の人数は 63名で、その内、就職準備者が 49名である。

3　通信制課程（公・私立高校）

卒業者数は 114名で前年比 15名増加